

福岡市 教育データブック

(令和元年度版)



福岡スタンダードキャラクター
「スタンバード」

福岡市教育委員会

はじめに

令和元年6月に策定した「第2次福岡市教育振興基本計画」において、「やさしさとたくましさをもちともに学び未来を創り出す子ども」をはぐくむことを福岡市の教育の目標として定め、6年間の計画対象期間に関連施策を推進していくことといたしました。

今後は、「第2次福岡市教育振興基本計画」を推進していくにあたり、課題を明らかにするとともに、その解決に向けてさらなる取組みを検討し、実施していく必要があります。

そのためには、学校教育に関するさまざまな事象を数量的にとらえ、分析・評価することが必要不可欠です。

本冊子は、「第2次福岡市教育振興基本計画」資料編で示した「基礎データ」に、平成19年度から実施された全国学力・学習状況調査結果や平成22年度からの生活習慣・学習定着度調査等の統計データを加え、構成したものです。

編集や構成にあたっては、視覚的にとらえ、数年の経年も比較し易くなるようにグラフで示すなど、本市の子どもたちの教育に関するデータを紹介しています。

今後も教育に関するデータを集約し、教育施策検討の際の資料になるよう努めていきたいと考えています。

令和元年9月

福岡市教育委員会
総務部教育政策課

も く じ

I 子ども

1 基本的な生活習慣	2
2 学力	6
3 学習習慣・家庭学習	13
4 進路状況	20
5 自尊意識・規範意識	23
6 体格・疾病	26
7 体力・運動能力	29
8 メディアとの接触	31
9 不登校・いじめ・暴力行為	32

II 学校

1 学校数等	35
2 学校施設の状況	38
3 特色ある教育	41
4 地域の人材活用状況	43
5 学校情報の提供	45
6 特別支援教育	46
7 ICT環境	51
8 その他の状況	53

III 教職員

1 教員	56
2 教職員の研修状況	58
3 教員の休職状況	59
4 体罰・処分	60

IV 家庭・地域等

1 家庭状況	62
2 子どもとのかかわり	63

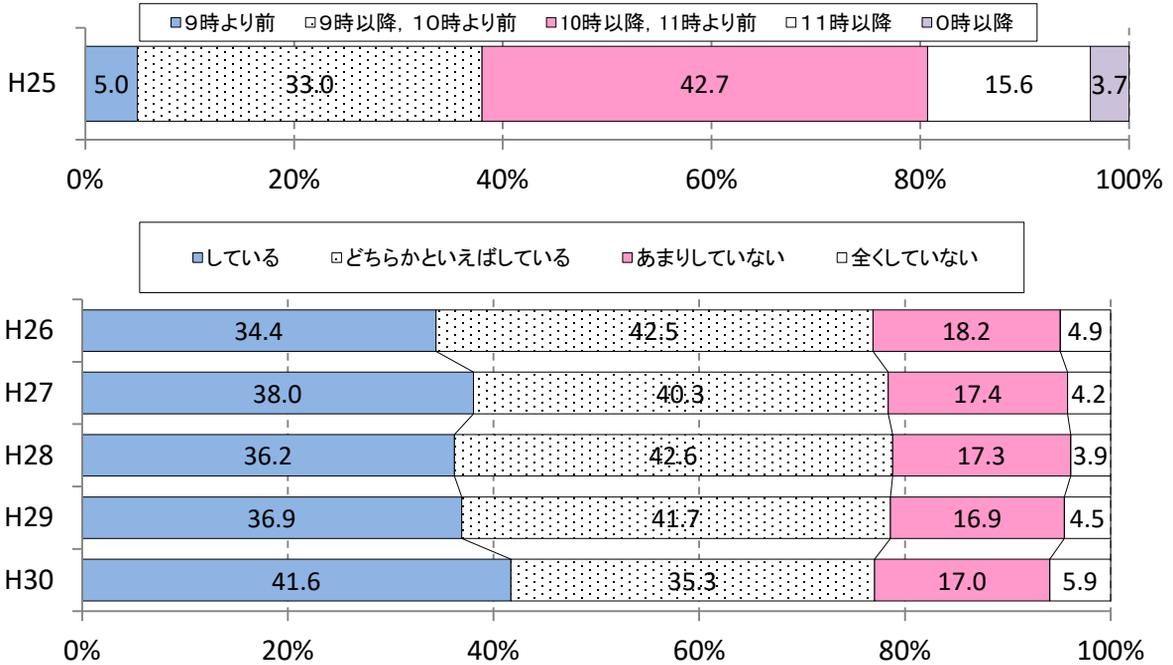
利用にあたって

- 四捨五入の関係で、計と内訳の合計が一致しない場合があります。
- 平成23年度の全国学力・学習状況調査は、東日本大震災の関係で9月に行われています。
- 平成28年度の生活習慣・学習定着度調査から対象学年を変更しています。
(変更前) 小4, 6, 中1, 3 ⇒ (変更後) 小4, 5, 中1, 2

I 子 ども

I-1 基本的生活習慣

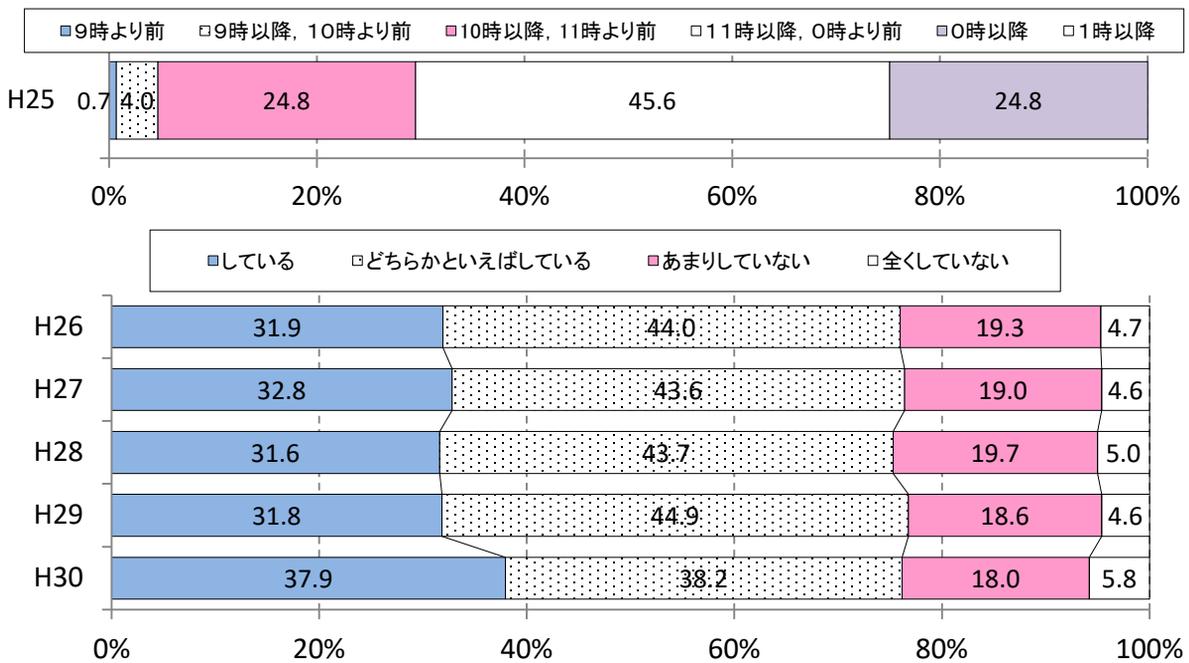
I-1-1 就寝時刻（小学校6年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○同じ時刻に寝ることについて、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童の割合は、75%以上で推移している。

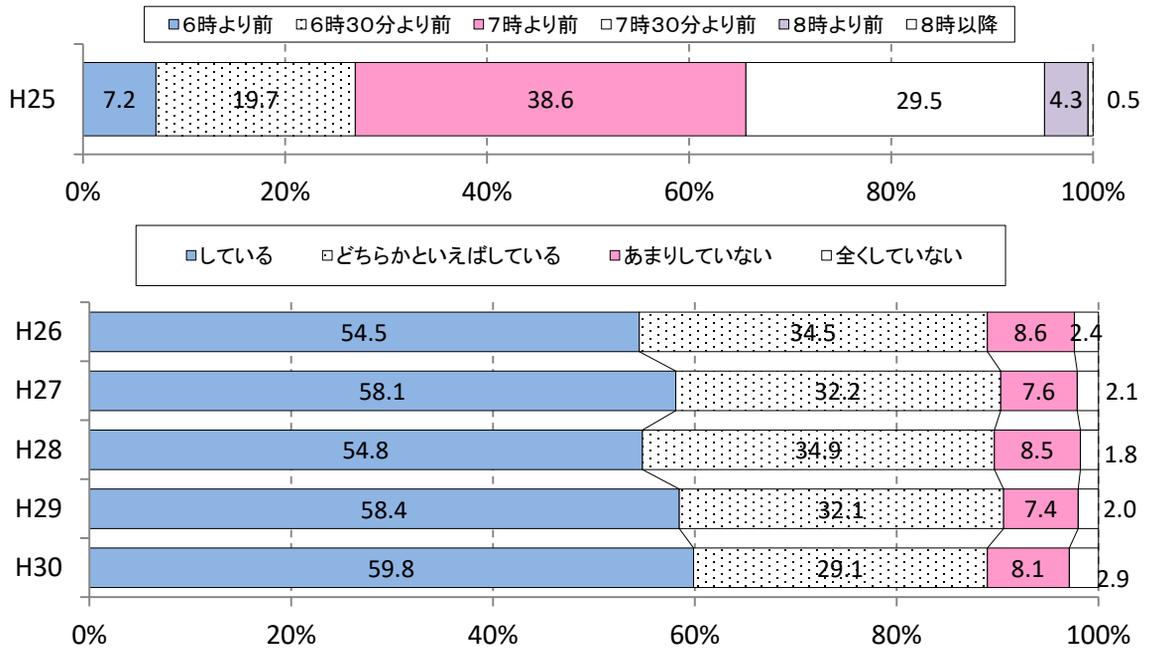
I-1-1 就寝時刻（中学校3年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○同じ時刻に寝ることについて、「している」、「どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合は、75%以上で推移している。

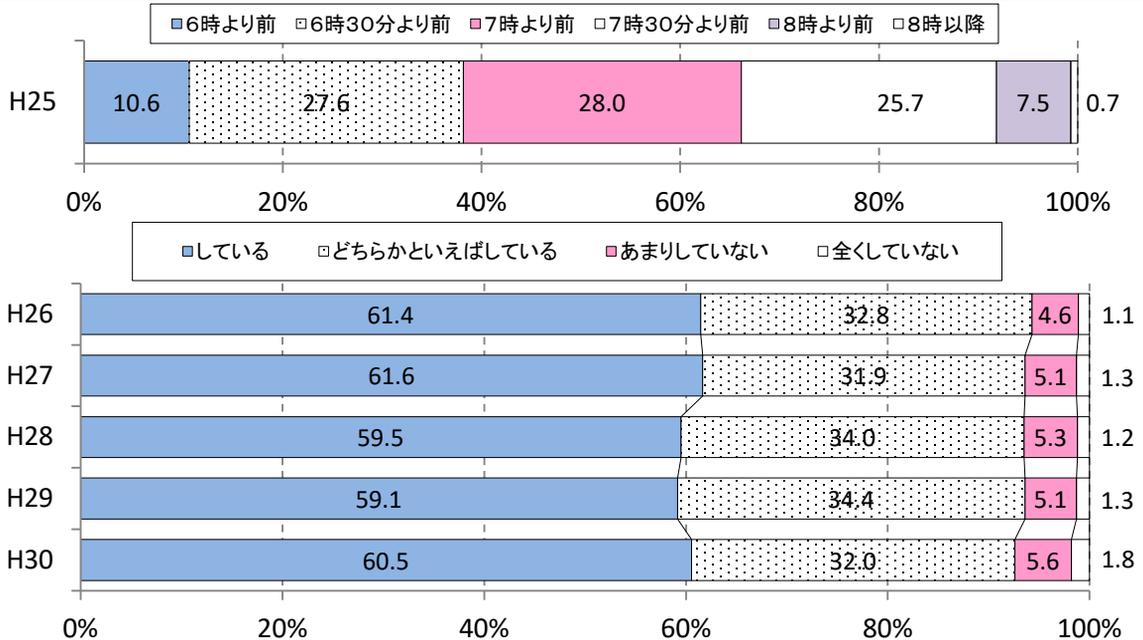
I-1-2 起床時刻（小学校6年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○同じくらいの時刻に起きることについて、「している」、「どちらかといえばしている」と回答した児童の割合は、90%前後で推移している。

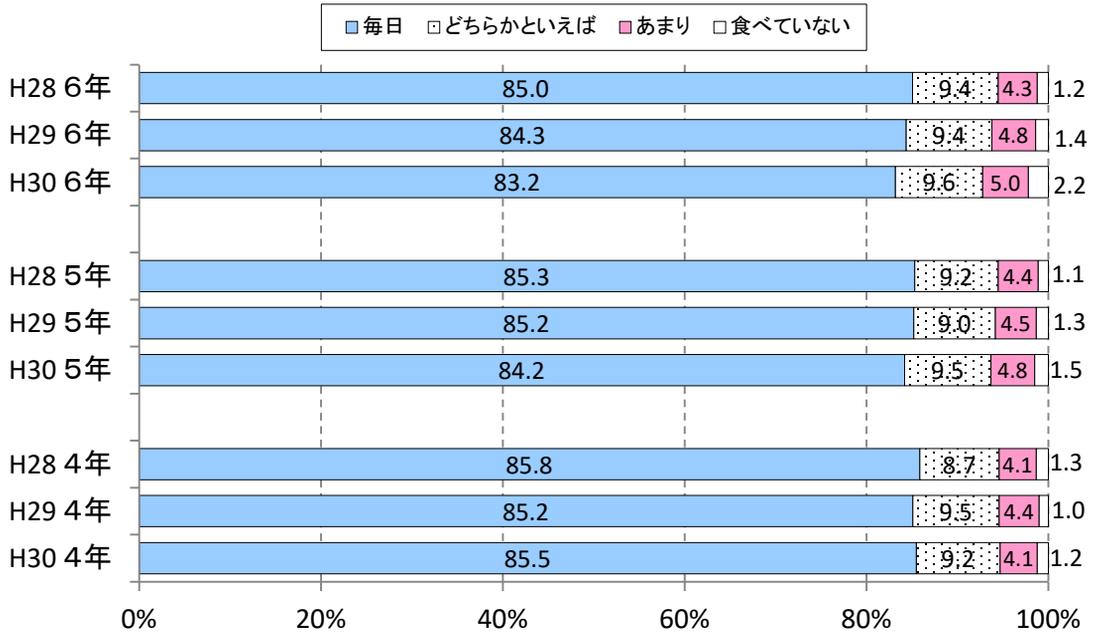
I-1-2 起床時刻（中学校3年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○同じくらいの時刻に起きることについて、「している」、「どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合は、90%以上で推移している。

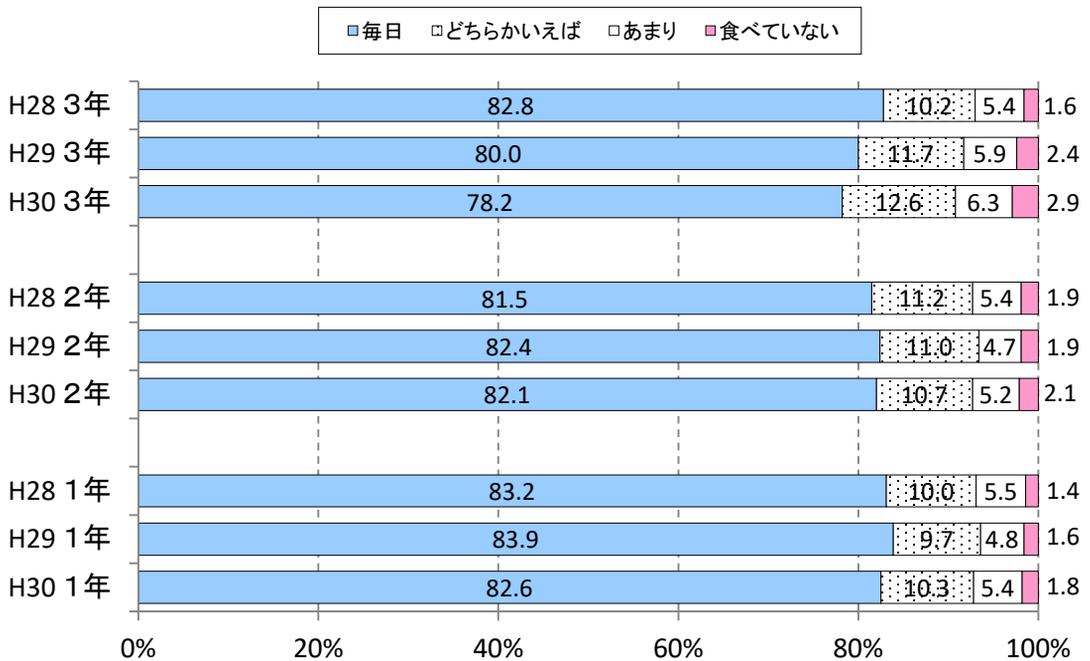
I-1-3 朝食の摂取（小学校6・5・4年）



「生活習慣・学習定着度調査」
※小6は、「全国学力・学習状況調査」の数値

○朝食について、「毎日食べる」と回答した児童の割合は、小学校6・5・4年とも、85%前後で推移している。

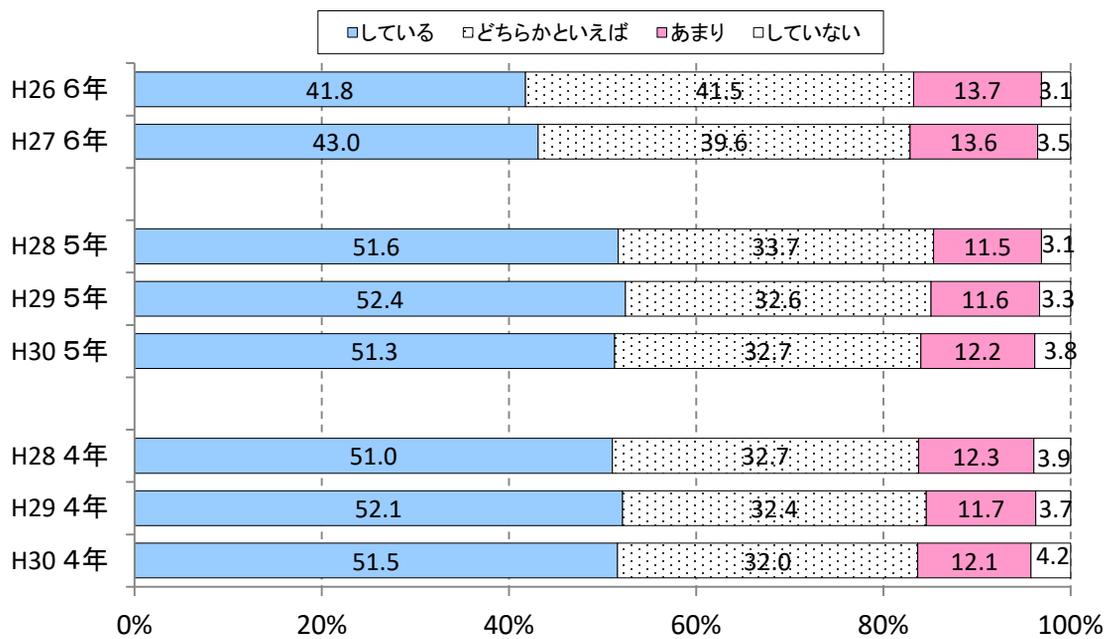
I-1-3 朝食の摂取（中学校3・2・1年）



「生活習慣・学習定着度調査」
※中3は、「全国学力・学習状況調査」の数値

○朝食について、「毎日食べる」と回答した生徒の割合は、中学校3・2・1年とも、80%前後で推移している。

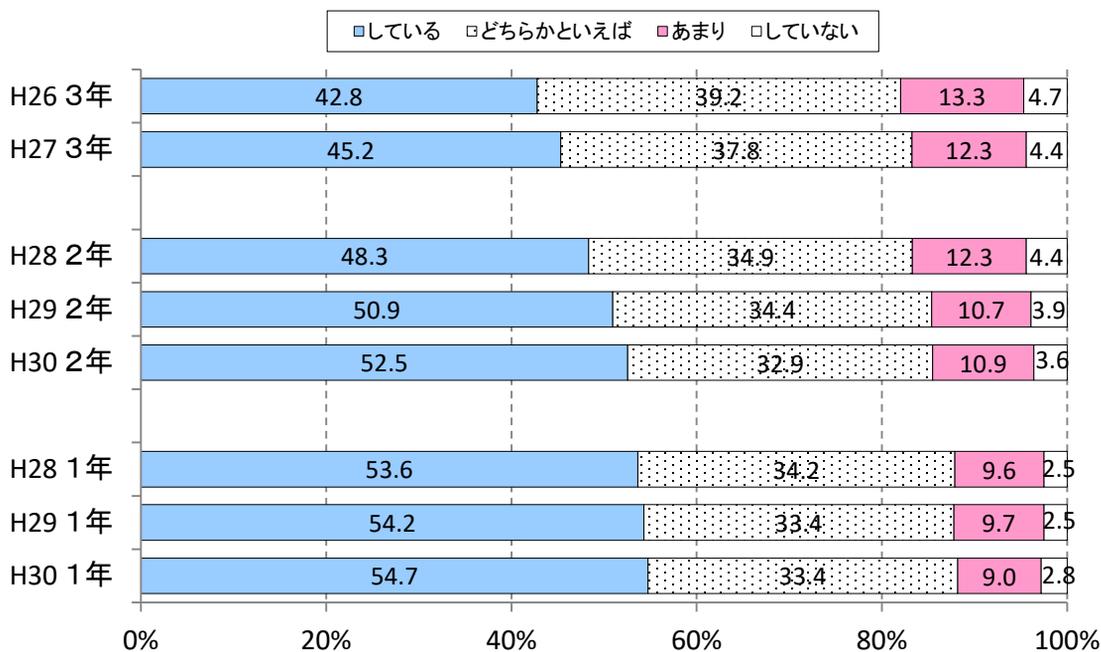
I-1-4 近所の人へのあいさつ（小学校6・5・4年）



「生活習慣・学習定着度調査」

○近所の人へのあいさつについて、「している」と回答した児童の割合は、小学校5、4年とも、50%以上で推移している。（H28から小6は調査対象外）

I-1-4 近所の人へのあいさつ（中学校3・2・1年）

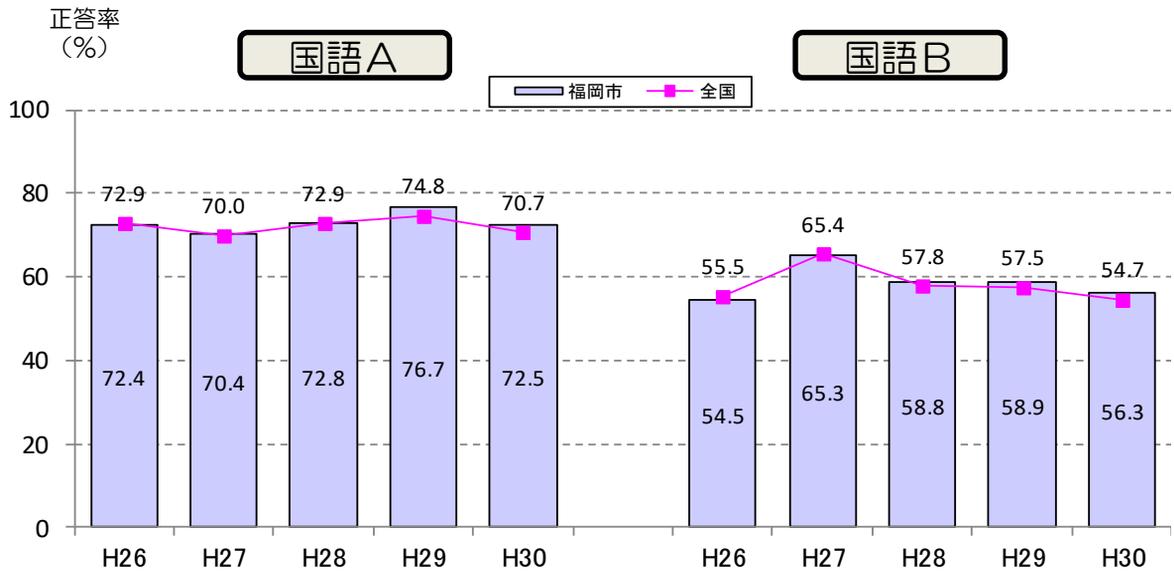


「生活習慣・学習定着度調査」

○近所の人へのあいさつについて、「している」と回答した生徒の割合は、中学校2、1年とも、増加している。（H28から中3は調査対象外）

I-2 学力

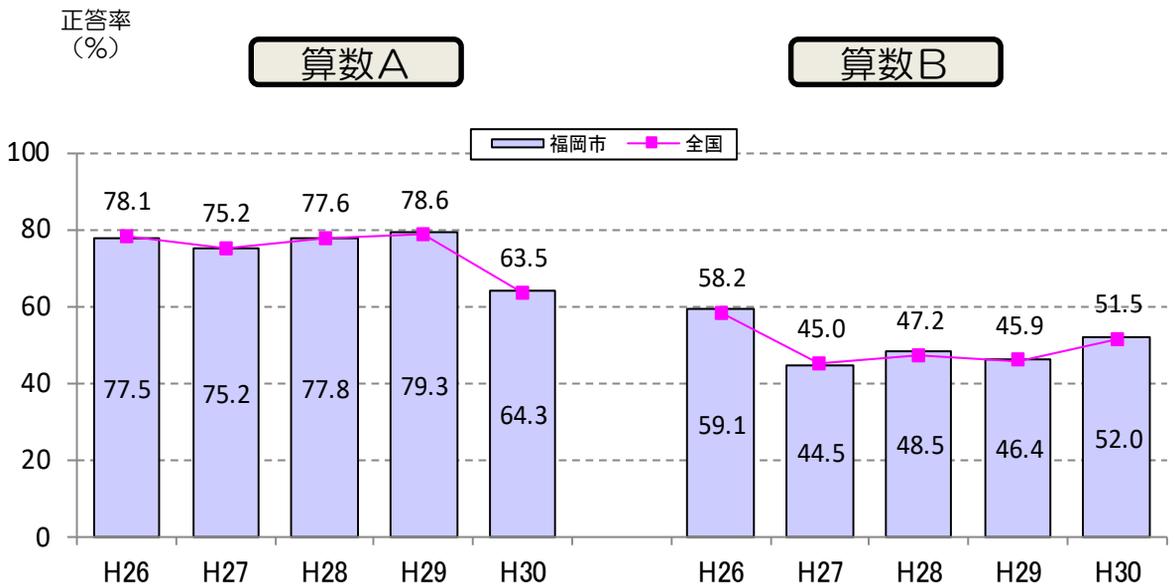
I-2-1 国語A・Bにおける平均正答率の推移（小学校6年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○平成30年度の国語Aの正答率は全国平均を1.8ポイント上回り、国語Bの正答率は全国平均を1.6ポイント上回っている。

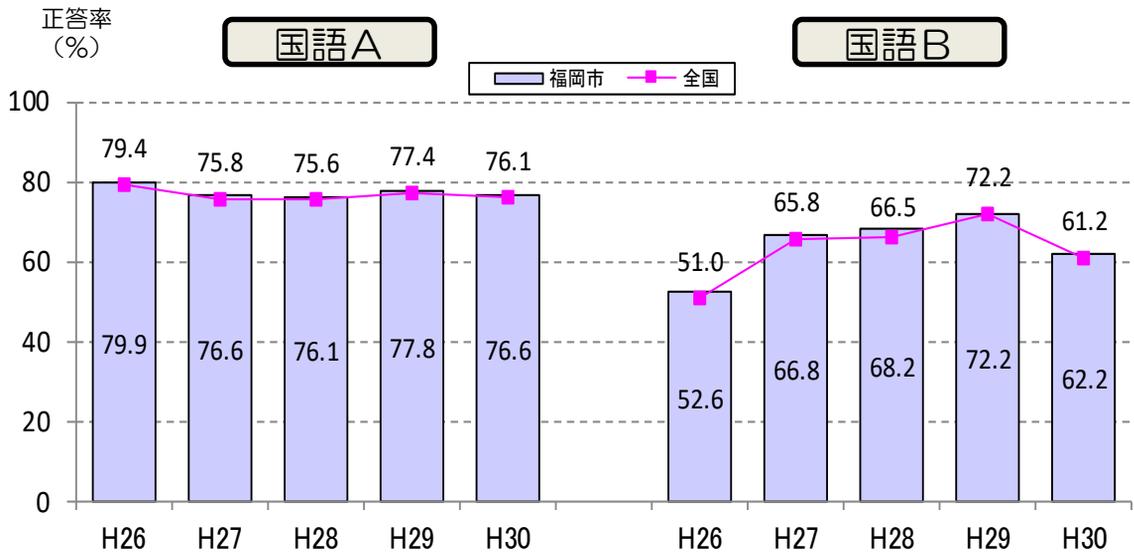
I-2-1 算数A・Bにおける平均正答率の推移（小学校6年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○平成30年度の算数Aの正答率は全国平均を0.8ポイント上回り、算数Bの正答率は全国平均を0.5ポイント上回っている。

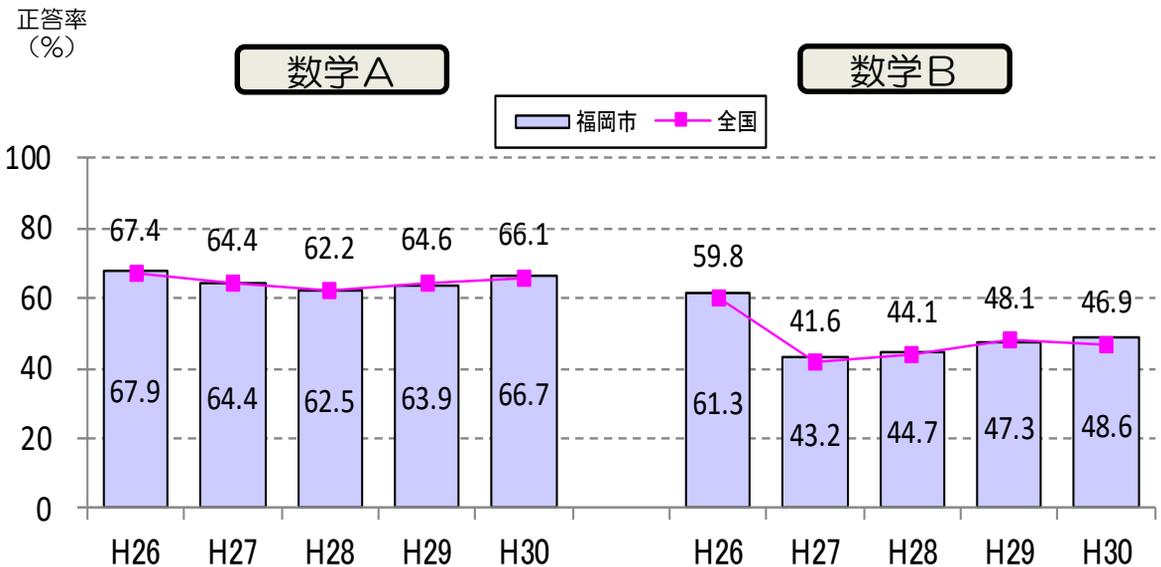
I-2-2 国語A・Bにおける平均正答率の推移（中学校3年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○平成30年度の国語Aの正答率は全国平均を0.5ポイント上回り、国語Bの正答率は全国平均を1.0ポイント上回っている。

I-2-2 数学A・Bにおける平均正答率の推移（中学校3年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

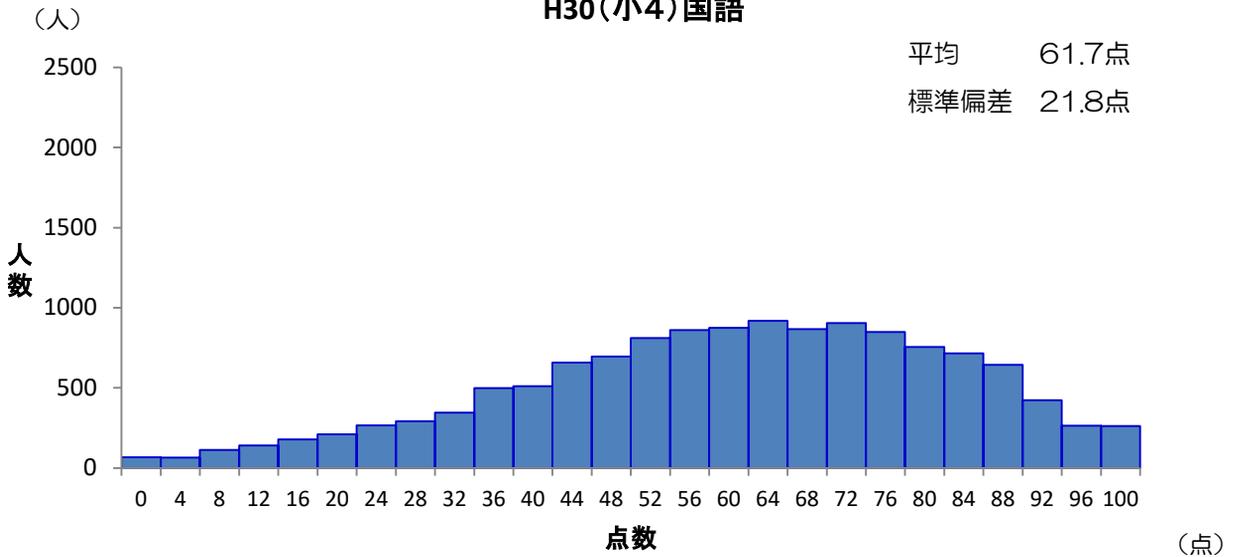
○平成30年度の数学Aの正答率は全国平均を0.6ポイント上回り、数学Bの正答率は全国平均を1.7ポイント上回っている。

I-2-3 定着度調査集計結果（小学校4年 国語）

n：13,194人（調査を受けていない児童は除く）

H30(小4)国語

平均 61.7点
標準偏差 21.8点



※グラフの横軸は得点区分（0＝0点以上3点以下） 平成30年度「生活習慣・学習定着度調査」

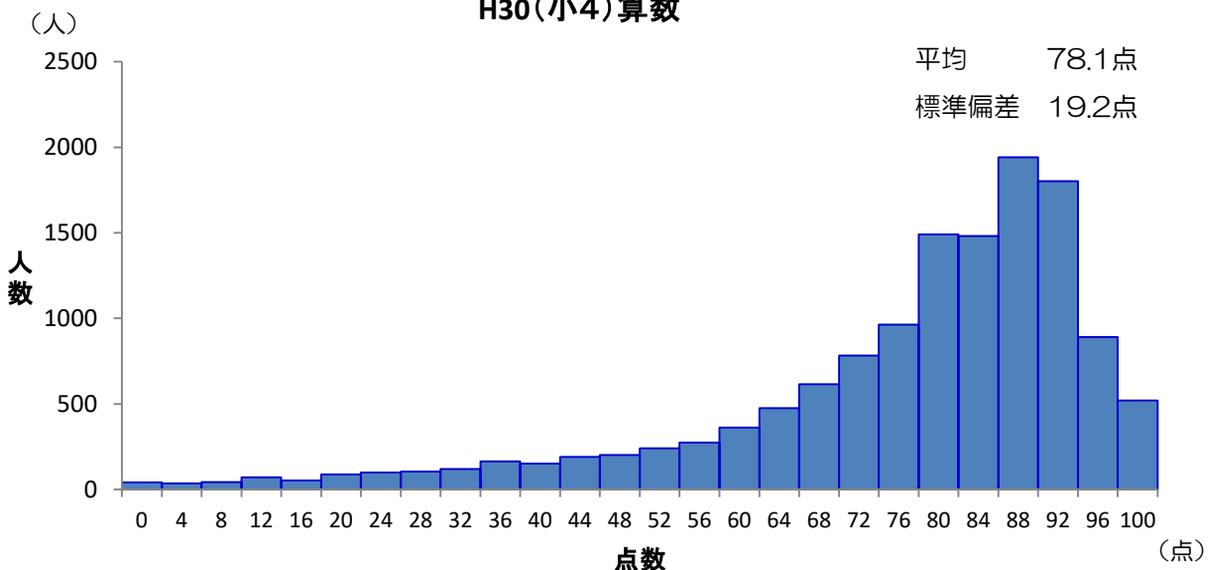
○国語は、64点以上67点以下の児童の割合が最も多い。

I-2-3 定着度調査集計結果（小学校4年 算数）

n：13,204人（調査を受けていない児童は除く）

H30(小4)算数

平均 78.1点
標準偏差 19.2点



※グラフの横軸は得点区分（0＝0点以上3点以下） 平成30年度「生活習慣・学習定着度調査」

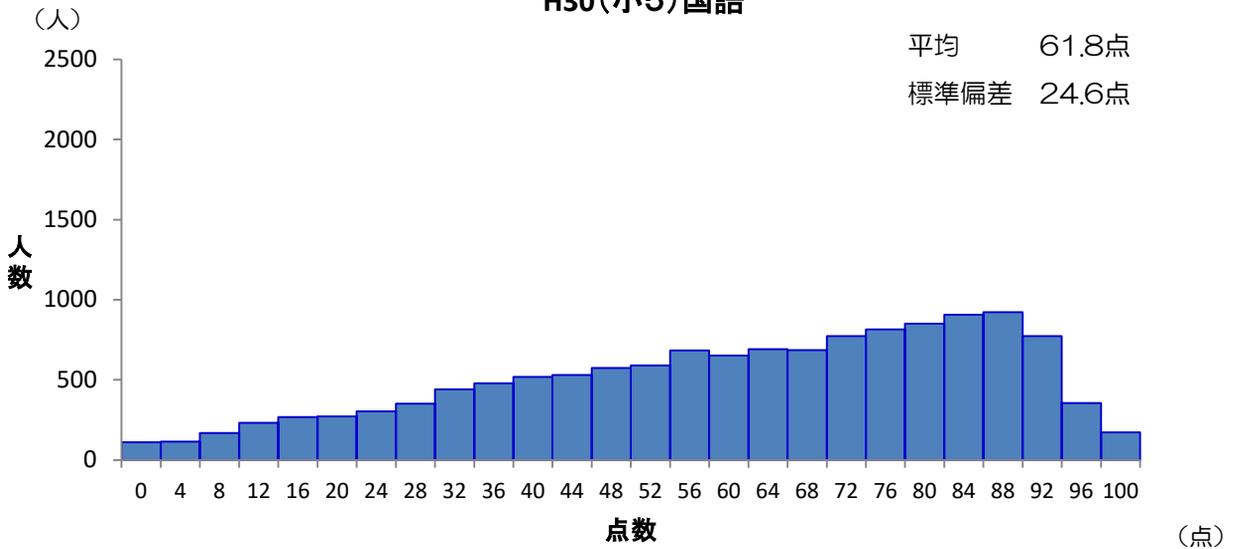
○算数は、88点以上91点以下の児童の割合が最も多い。

I-2-4 定着度調査集計結果（小学校5年 国語）

n：13,244人（調査を受けていない児童は除く）

H30(小5)国語

平均 61.8点
標準偏差 24.6点



※グラフの横軸は得点区分（0＝0点以上3点以下） 平成30年度「生活習慣・学習定着度調査」

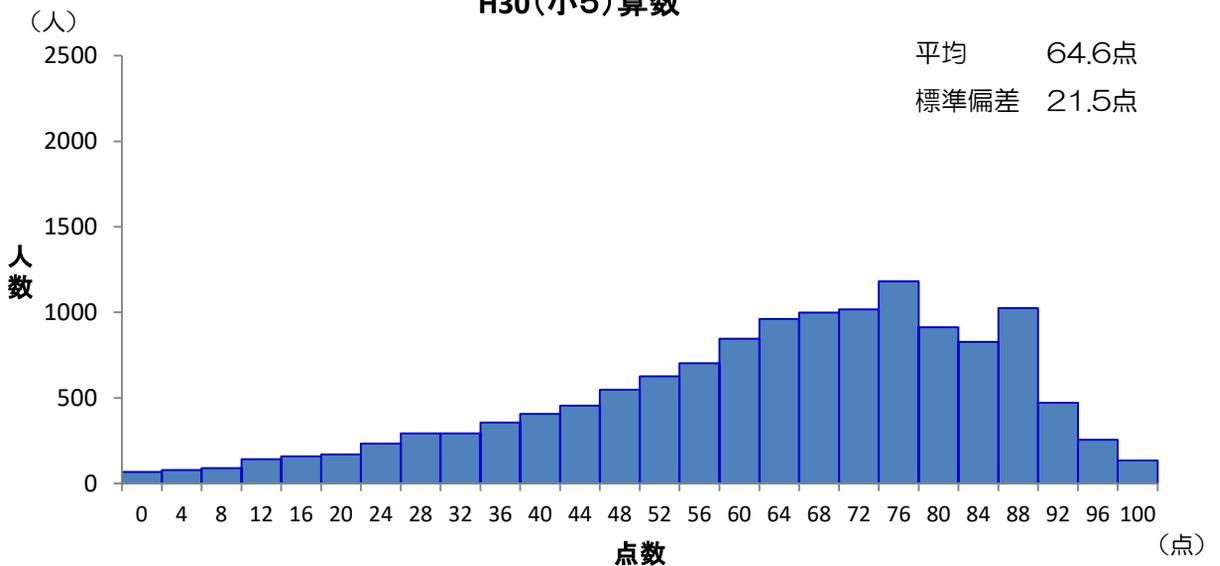
○国語は、88点以上91点以下の児童の割合が最も多い。

I-2-4 定着度調査集計結果（小学校5年 算数）

n：13,253人（調査を受けていない児童は除く）

H30(小5)算数

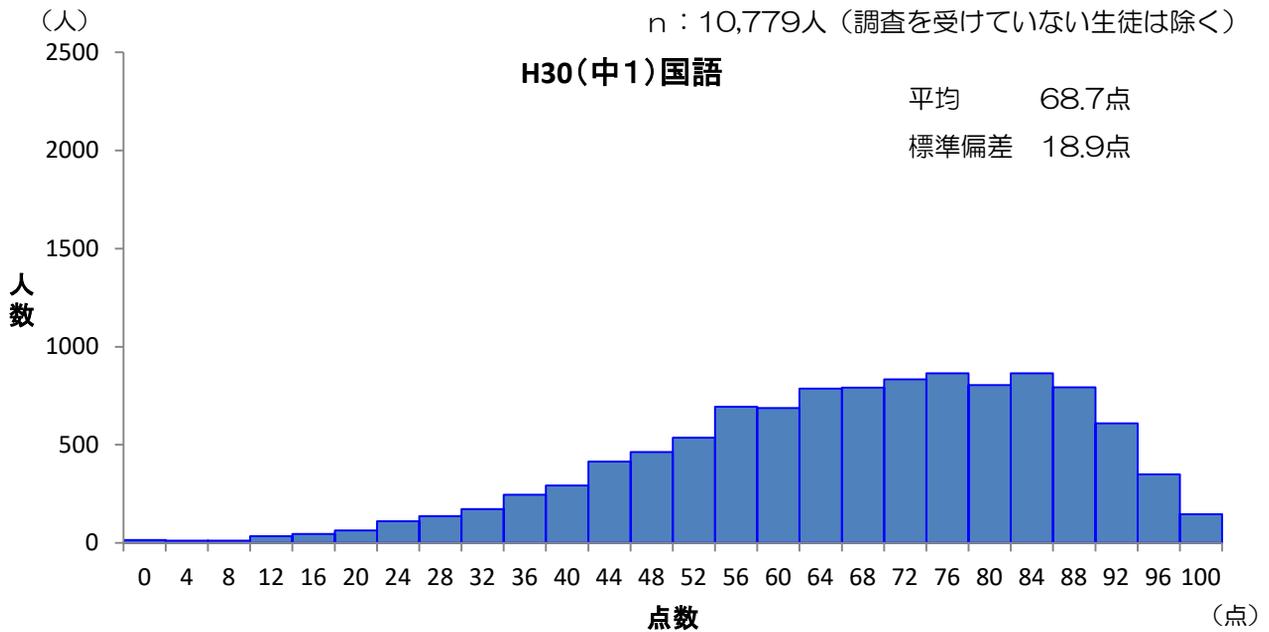
平均 64.6点
標準偏差 21.5点



※グラフの横軸は得点区分（0＝0点以上3点以下） 平成30年度「生活習慣・学習定着度調査」

○算数は、76点以上79点以下の児童の割合が最も多い。

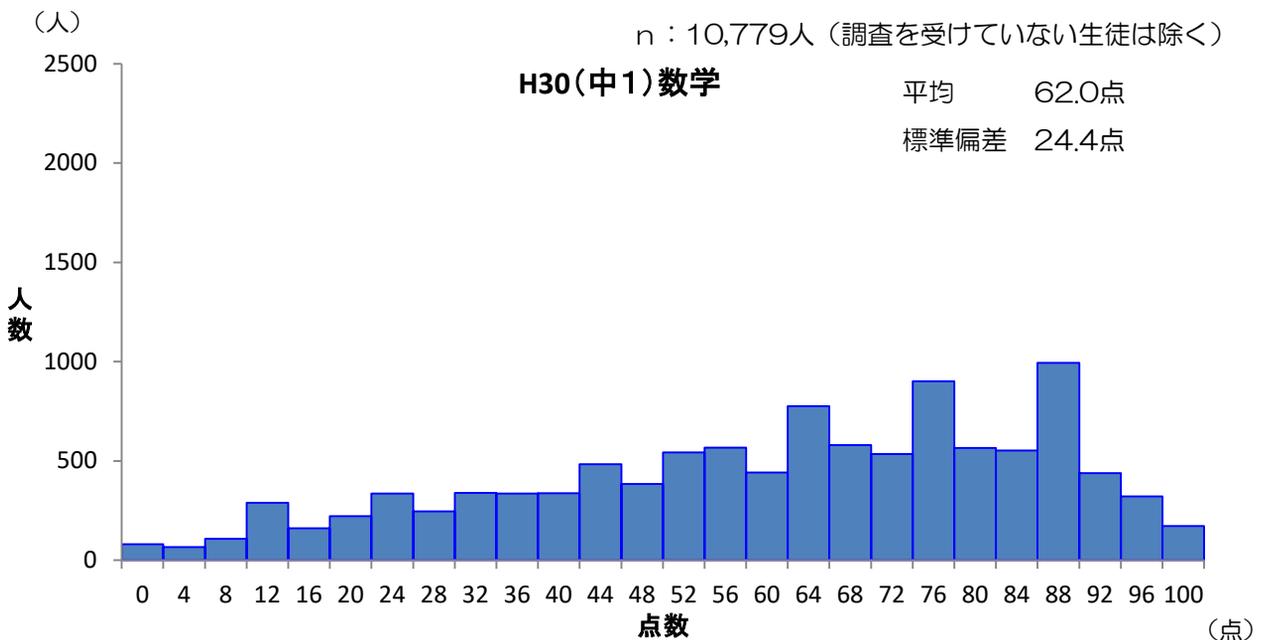
I-2-5 定着度調査集計結果（中学校1年 国語）



※グラフの横軸は得点区分（0=0点以上3点以下）平成30年度「生活習慣・学習定着度調査」

○国語は、76点以上79点以下と84点以上87点以下の生徒の割合が多い。

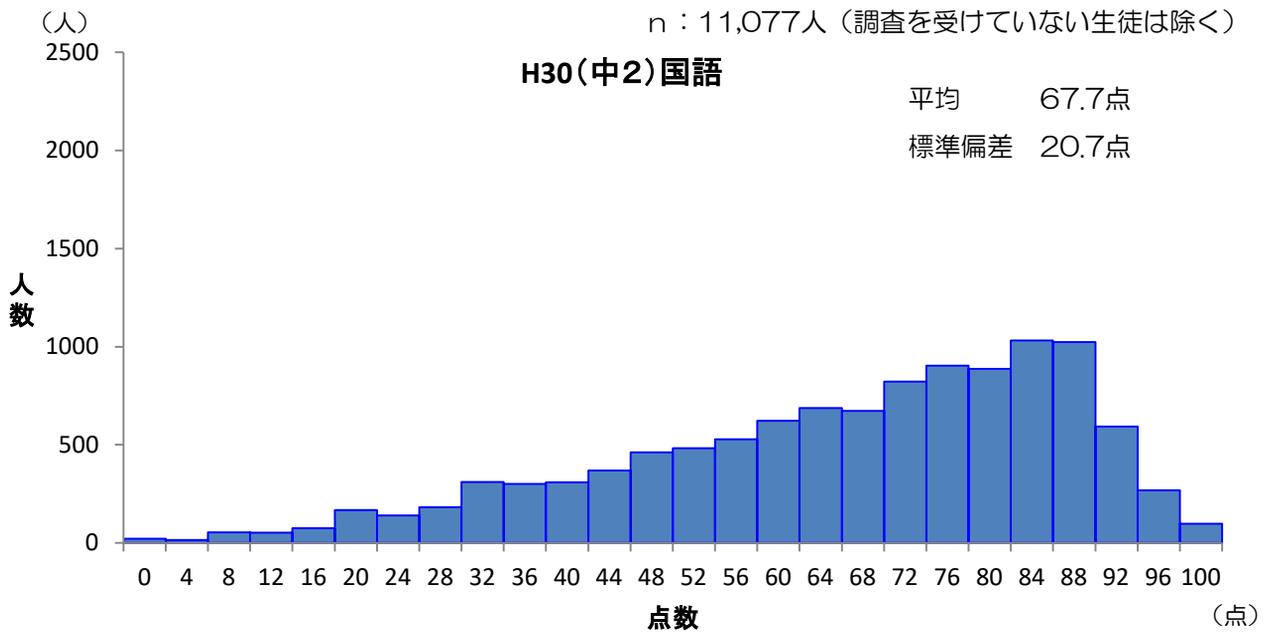
I-2-5 定着度調査集計結果（中学校1年 数学）



※グラフの横軸は得点区分（0=0点以上3点以下）平成30年度「生活習慣・学習定着度調査」

○数学は、88点以上91点以下の生徒の割合が多い。

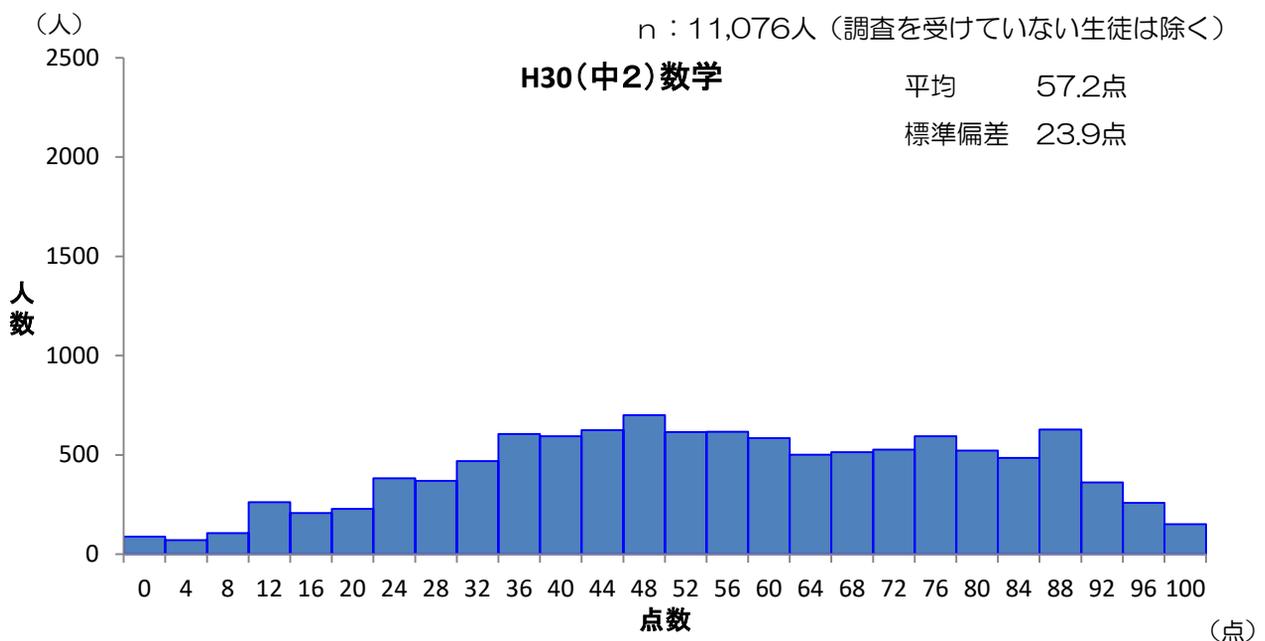
I-2-6 定着度調査集計結果（中学校2年 国語）



※グラフの横軸は得点区分（0=0点以上3点以下） 平成30年度「生活習慣・学習定着度調査」

○国語は、84点以上87点以下の生徒の割合が多い。

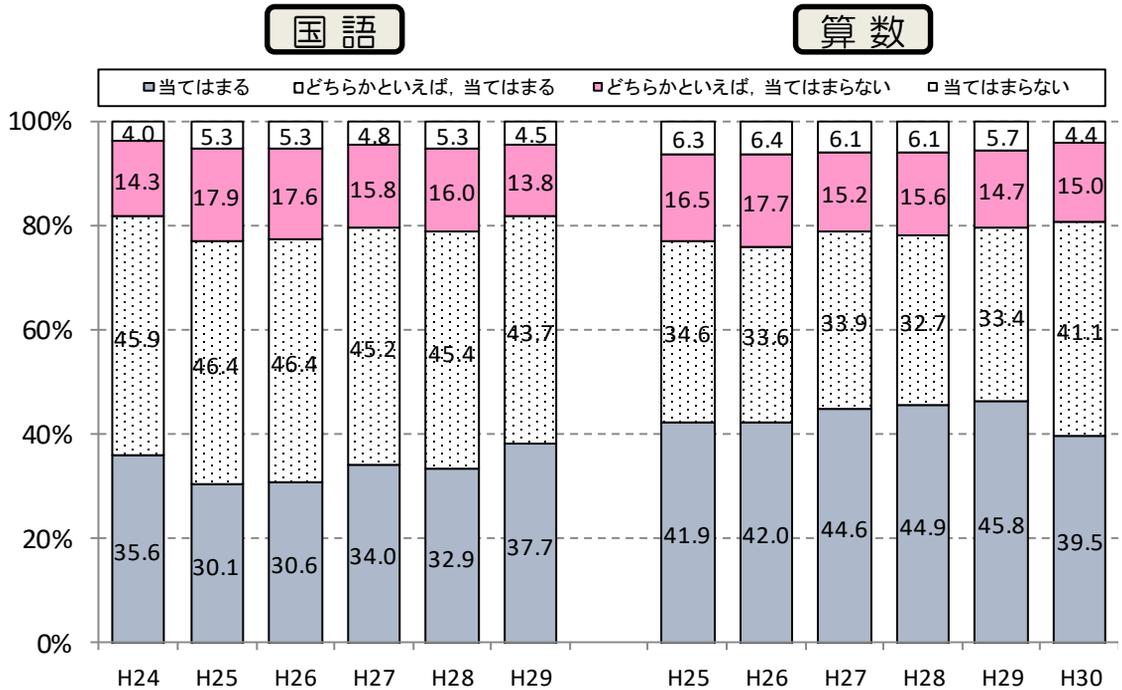
I-2-6 定着度調査集計結果（中学校2年 数学）



※グラフの横軸は得点区分（0=0点以上3点以下） 平成30年度「生活習慣・学習定着度調査」

○数学は、48点以上51点以下の生徒の割合が多い。

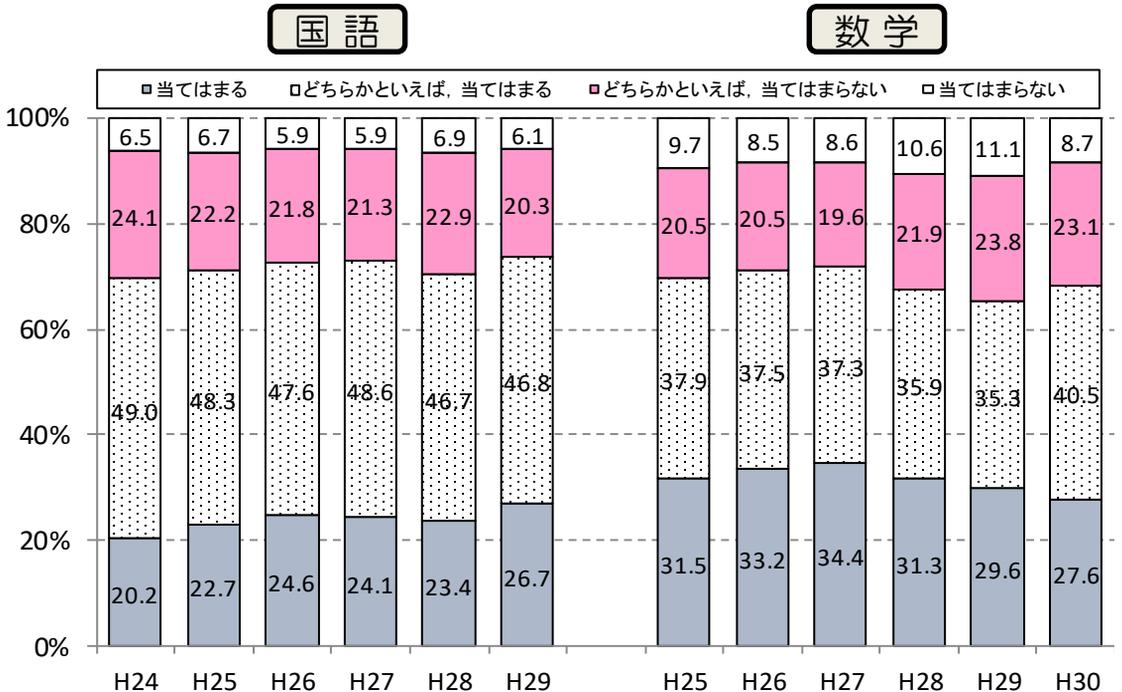
I-2-7 授業内容の理解（小学校6年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○授業内容の理解について、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、国語、算数とも80%前後で推移している。なお、国語はH30は調査していない。

I-2-7 授業内容の理解（中学校3年）

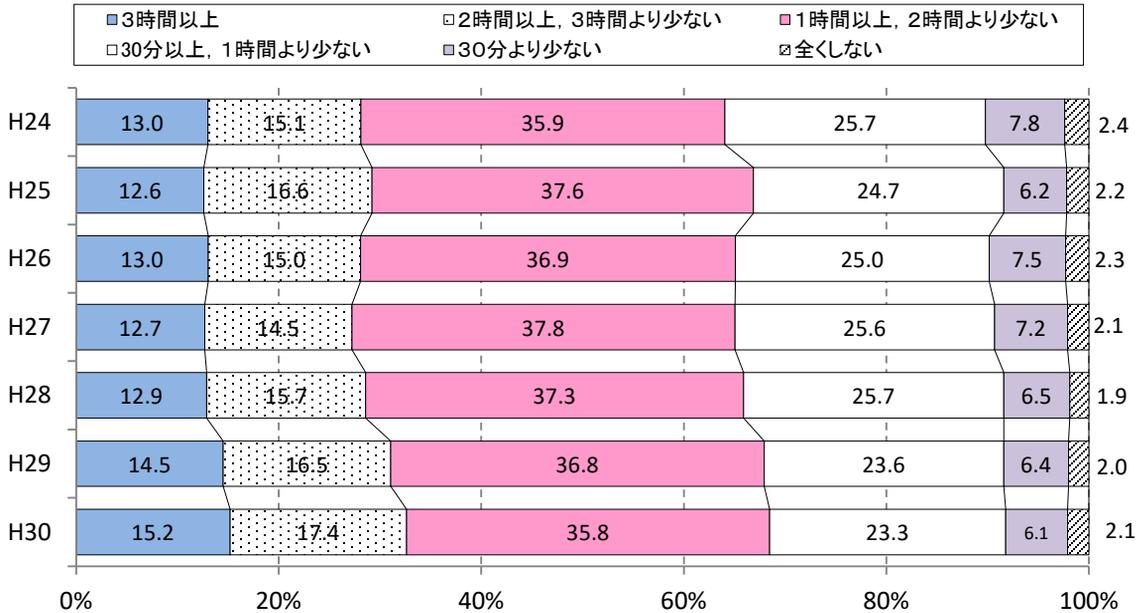


文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○授業内容の理解について、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、国語、数学とも70%前後で推移している。なお、国語はH30は調査していない。

I-3 学習習慣・家庭学習

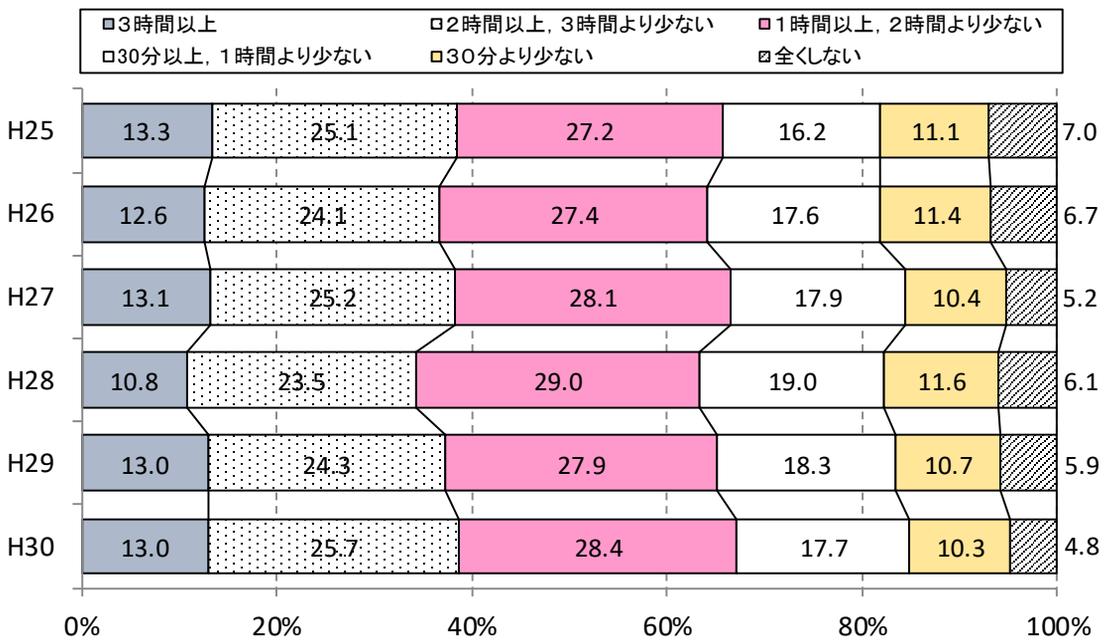
I-3-1 普段（月～金曜日）の勉強時間（小学校6年） ※塾・家庭教師を含む



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○「2時間以上勉強する」と回答した児童の割合が増えている。

I-3-1 普段（月～金曜日）の勉強時間（中学校3年） ※塾・家庭教師を含む

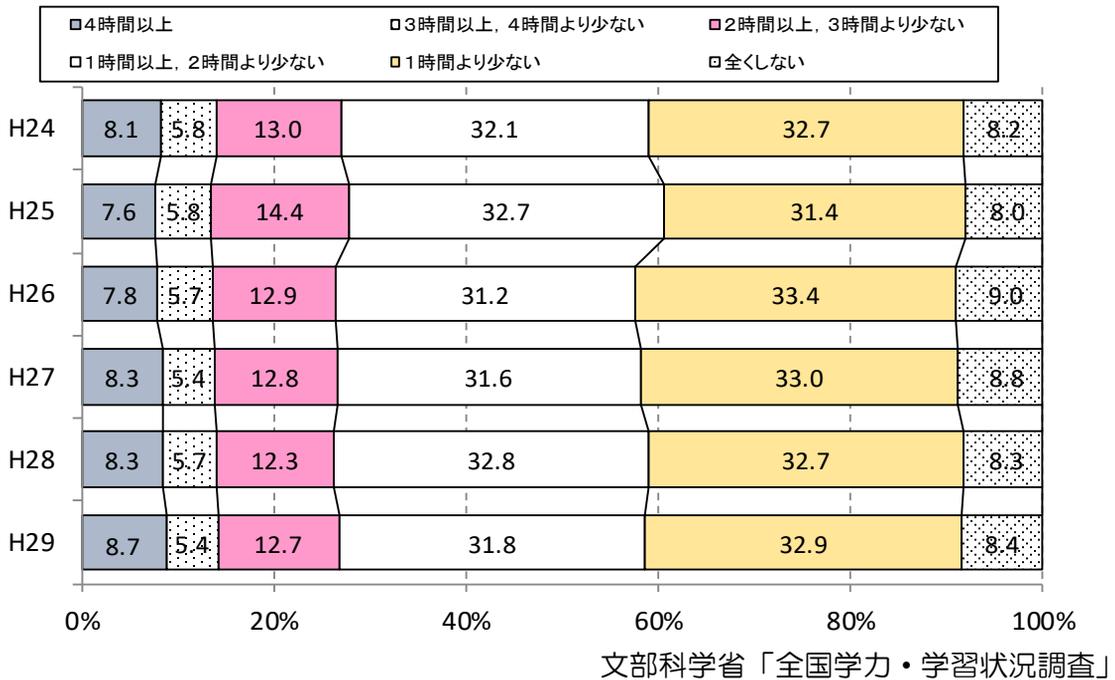


文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○「1時間以上勉強する」と回答した生徒の割合は、65%前後で推移している。

I-3-2 土日など学校が休みの日の勉強時間（小学校6年）

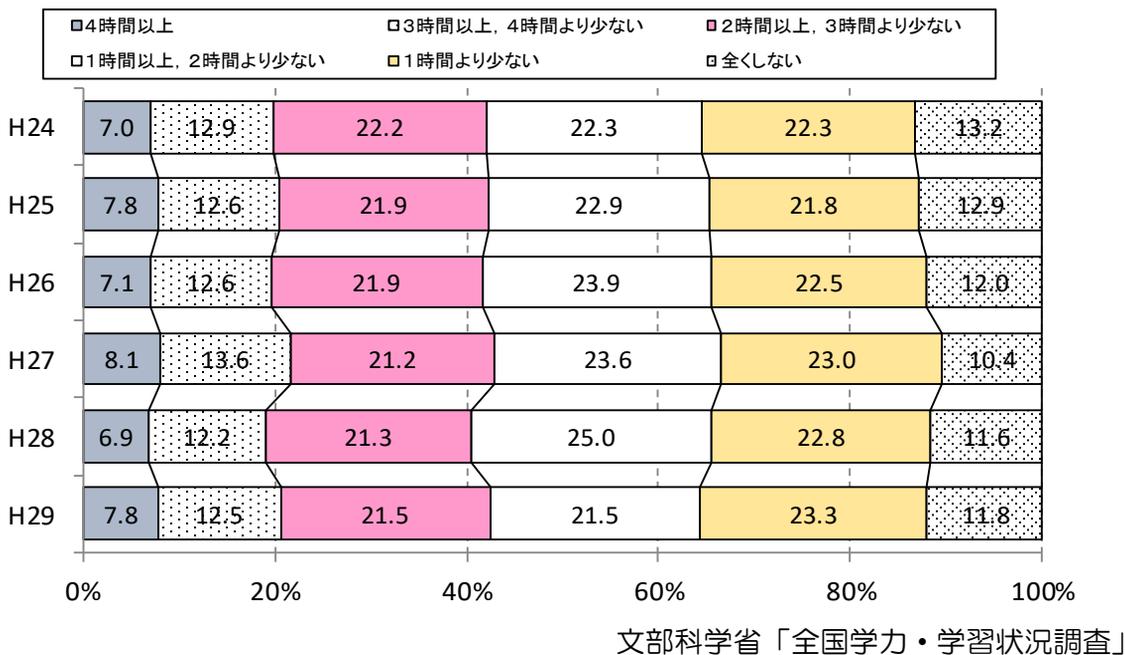
※塾・家庭教師を含む



○学校が休みの日の家庭での勉強時間について、「2時間以上する」と回答した児童の割合は、25%以上で推移している。（H30は調査していない）

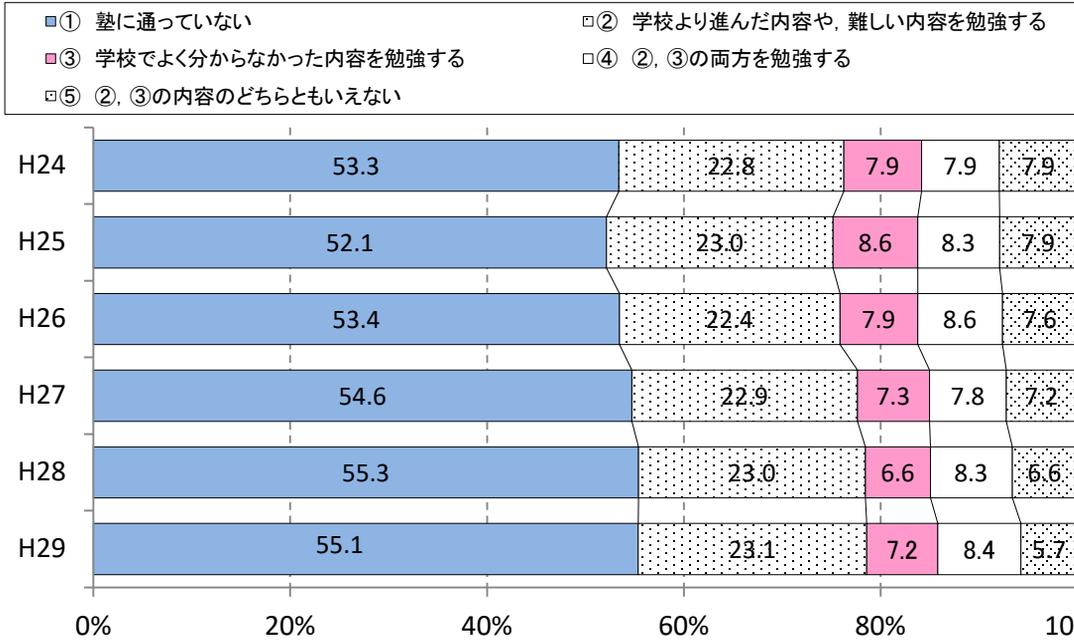
I-3-2 土日など学校が休みの日の勉強時間（中学校3年）

※塾・家庭教師を含む



○学校が休みの日の家庭での勉強時間について、「2時間以上する」と回答した生徒の割合は、40%以上で推移している。（H30は調査していない）

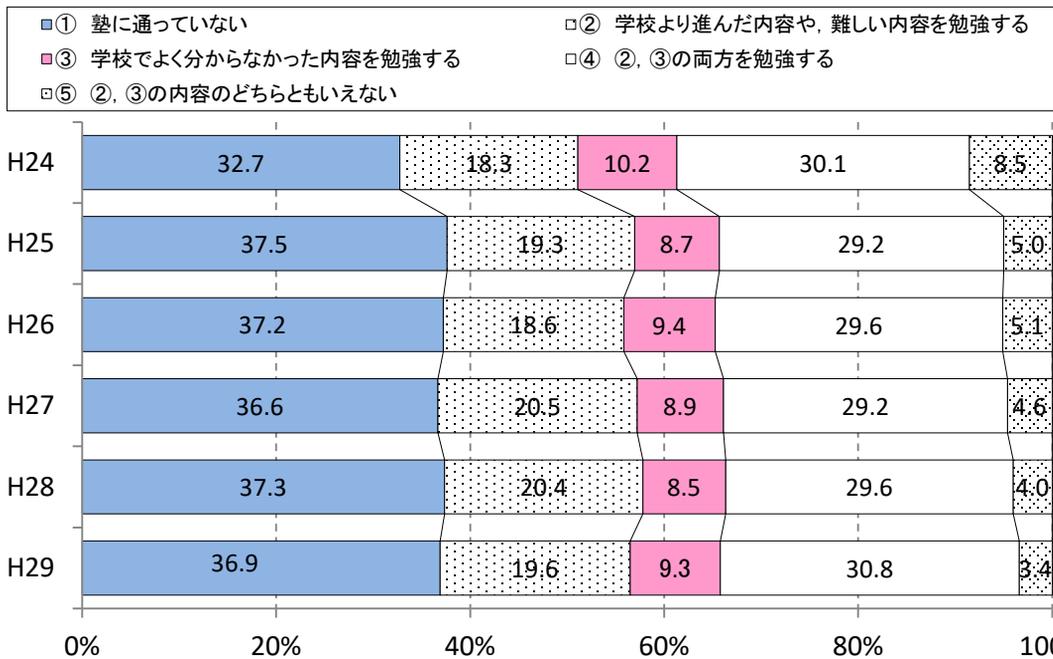
I-3-3 学習塾（家庭教師を含む）での勉強（小学校6年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○「塾に通っていない」小学校6年の割合は、55%前後で推移している。（H30は調査していない）

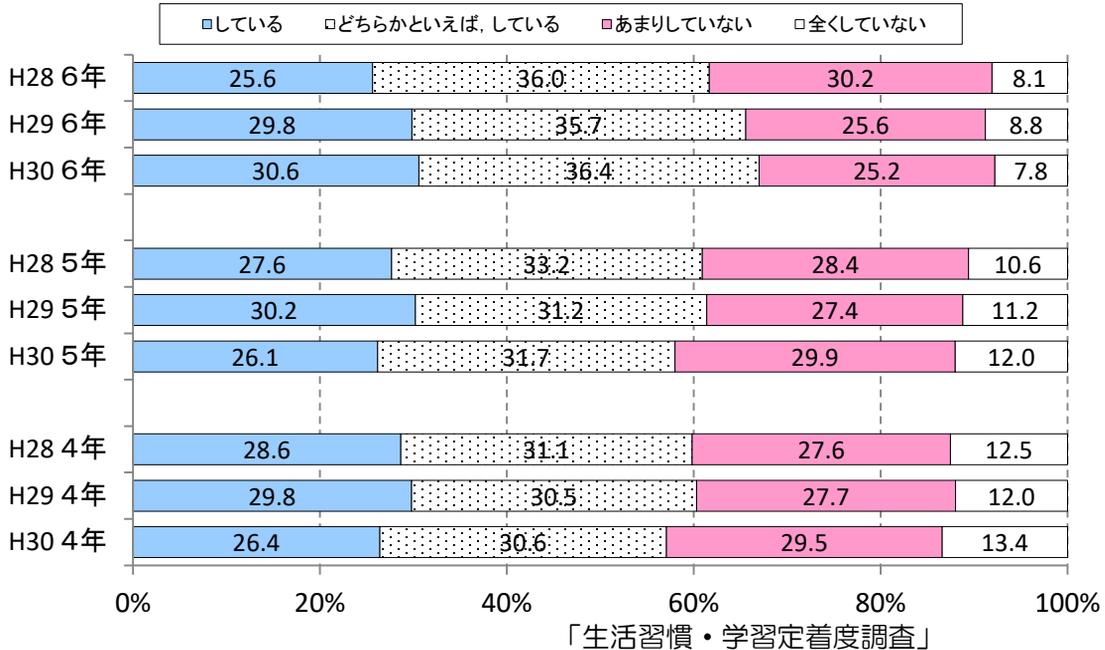
I-3-3 学習塾（家庭教師を含む）での勉強（中学校3年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

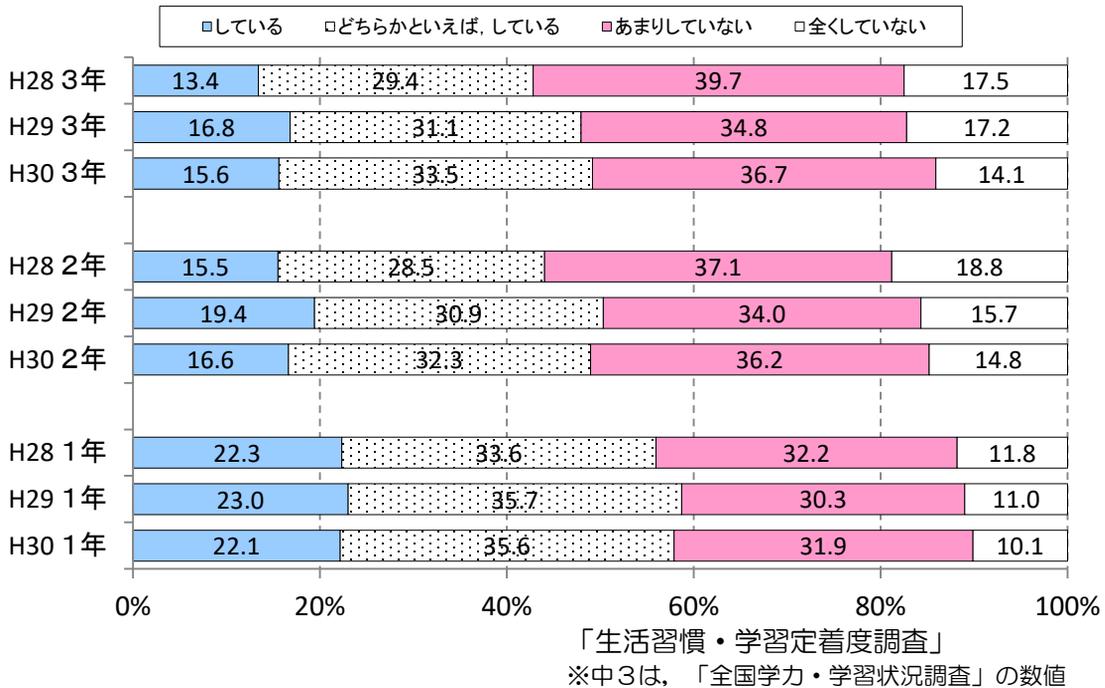
○「塾に通っていない」と回答した生徒の割合は、平成25年度から35%以上で推移している。（H30は調査していない）

I-3-4 計画的な家庭学習（小学校6・5・4年）



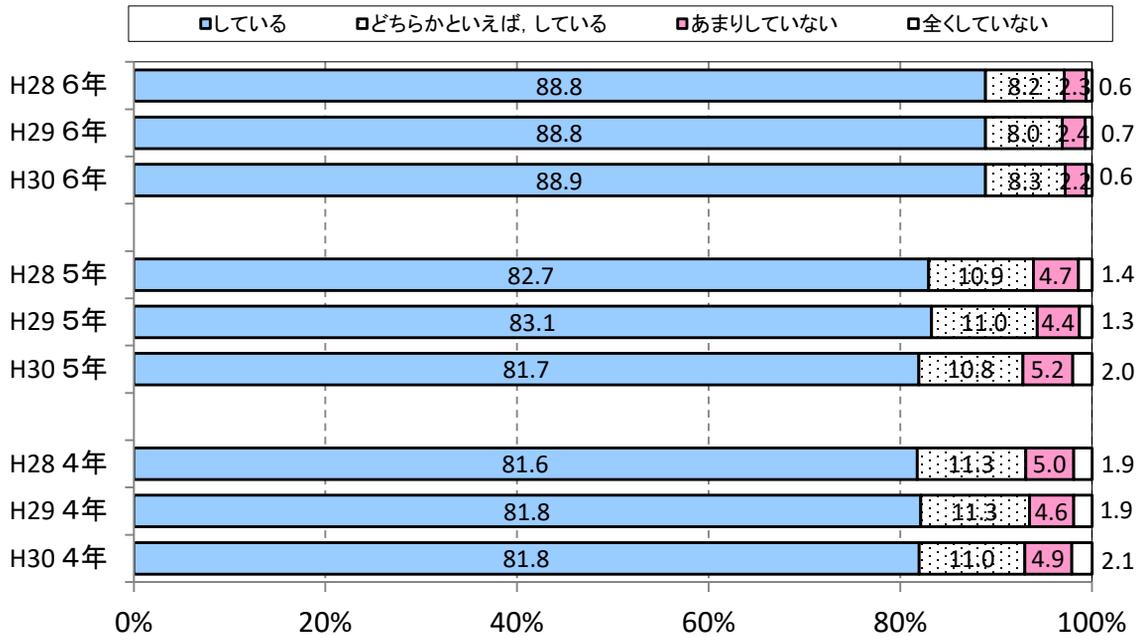
○「自分で計画を立てて、家庭で勉強している」、「どちらかといえばしている」と回答した児童の割合は、小学校6年において増加している。

I-3-4 計画的な家庭学習（中学校3・2・1年）



○「自分で計画を立てて、家庭で勉強している」、「どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合は、中学校3年において増加している。

I-3-5 宿題（小学校6・5・4年）

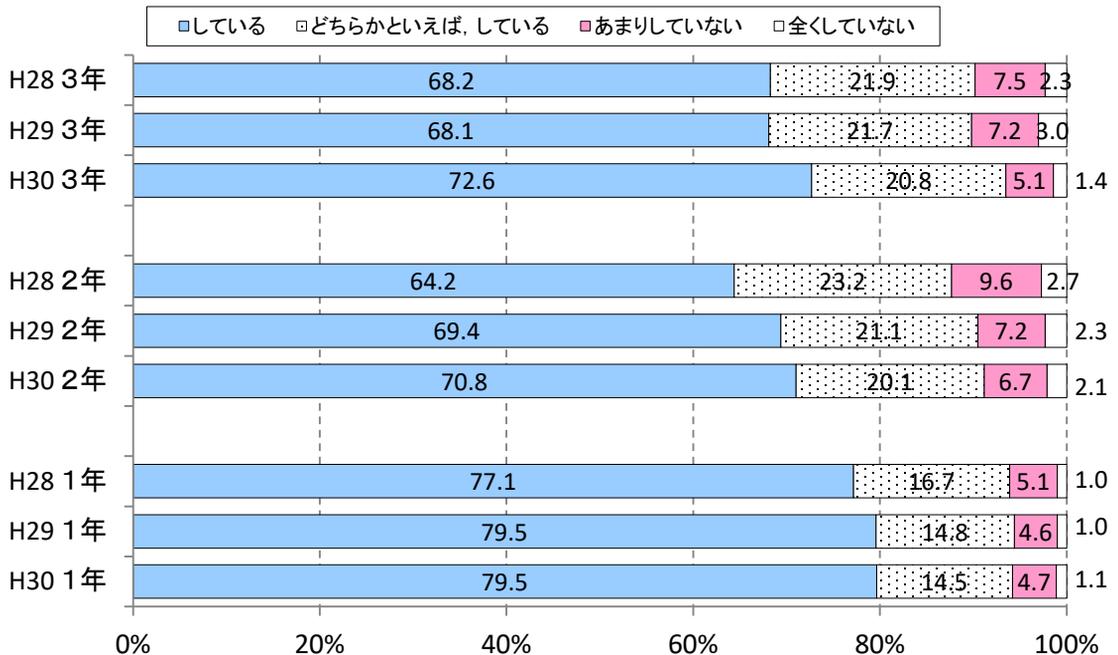


「生活習慣・学習定着度調査」

※小6は、「全国学力・学習状況調査」の数値

○「家庭で学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は、小学校6年は85%以上で、小学校5年・4年は、80%以上で推移している。

I-3-5 宿題（中学校3・2・1年）

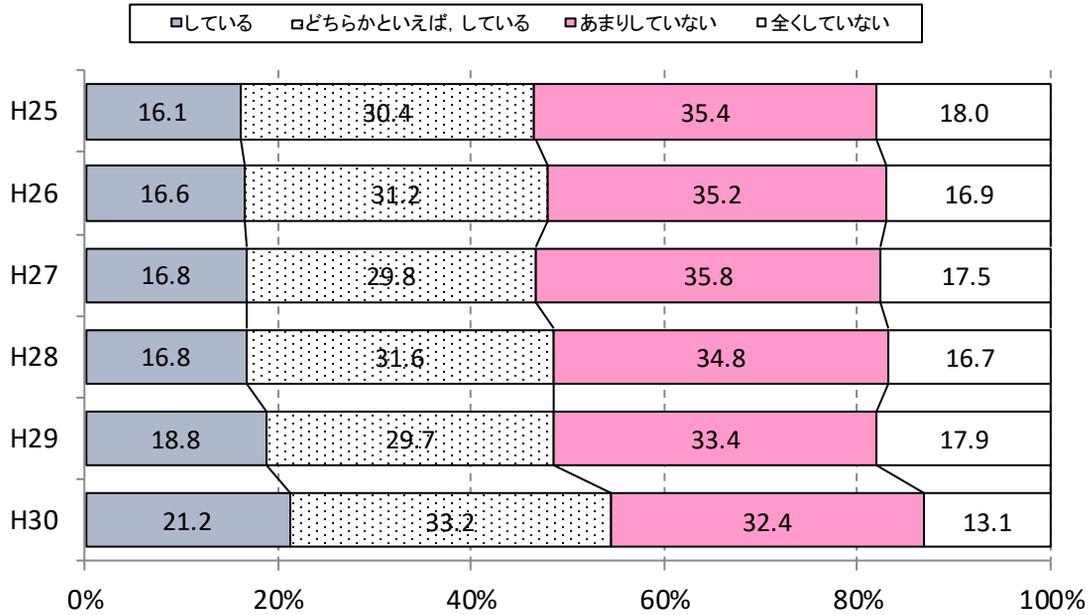


「生活習慣・学習定着度調査」

※中3は、「全国学力・学習状況調査」の数値

○「家庭で学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合は、中学校3・2年で増加している。

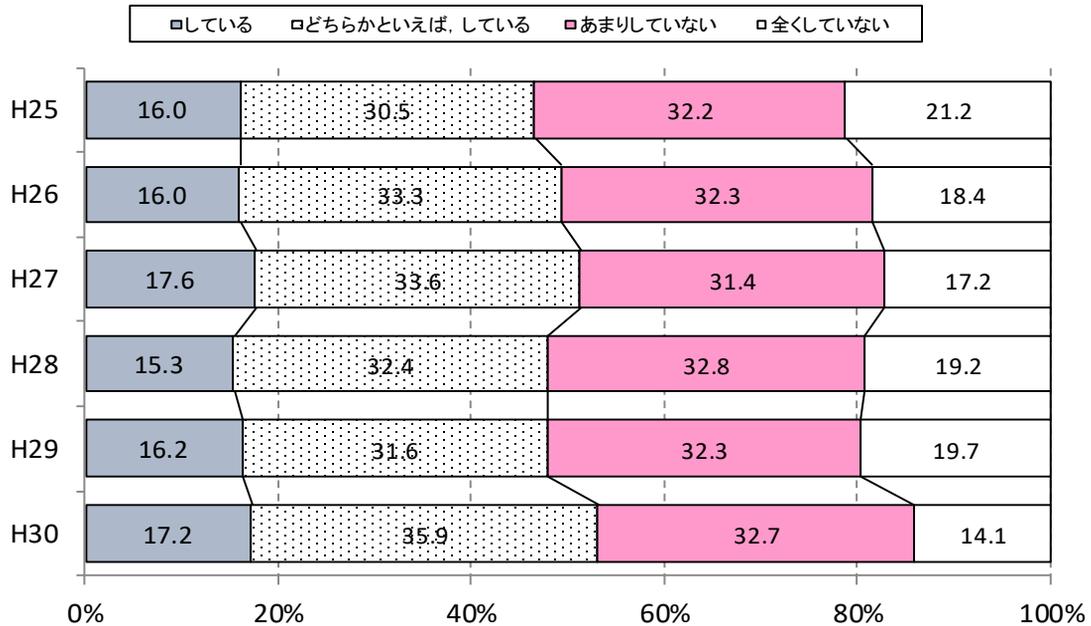
I-3-6 授業の復習（小学校6年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○家庭で学校の授業の復習を「している」「どちらかといえば、している」と回答した小学校6年の割合は、増加している。

I-3-6 授業の復習（中学校3年）



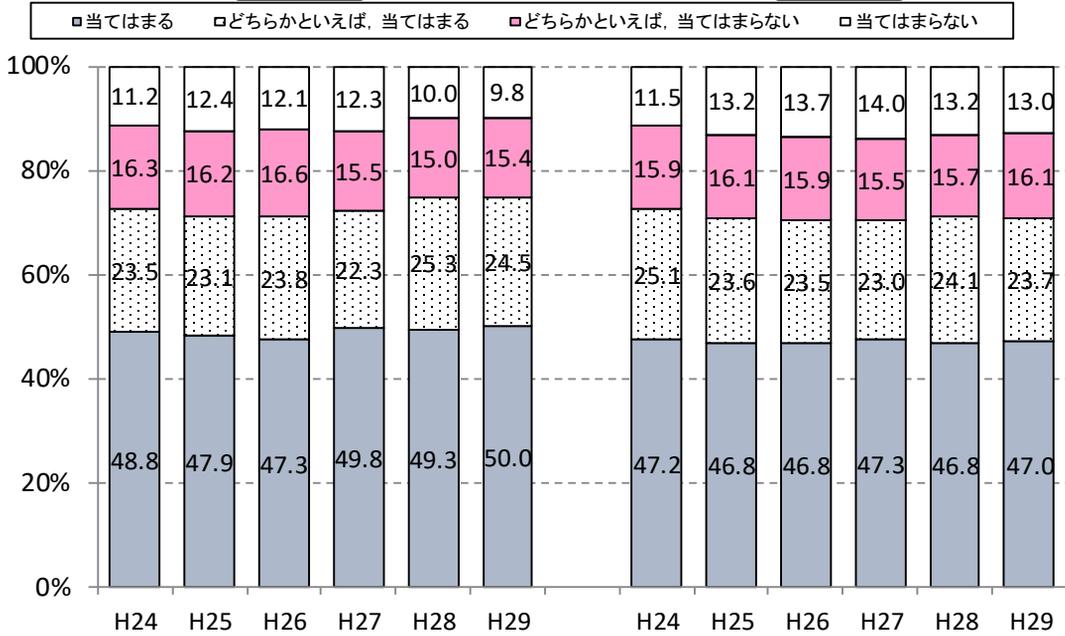
文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○家庭で学校の授業の復習を「している」「どちらかといえば、している」と回答した中学校3年の割合は、平成25年度から50%前後で推移している。

I-3-7 読書

小6

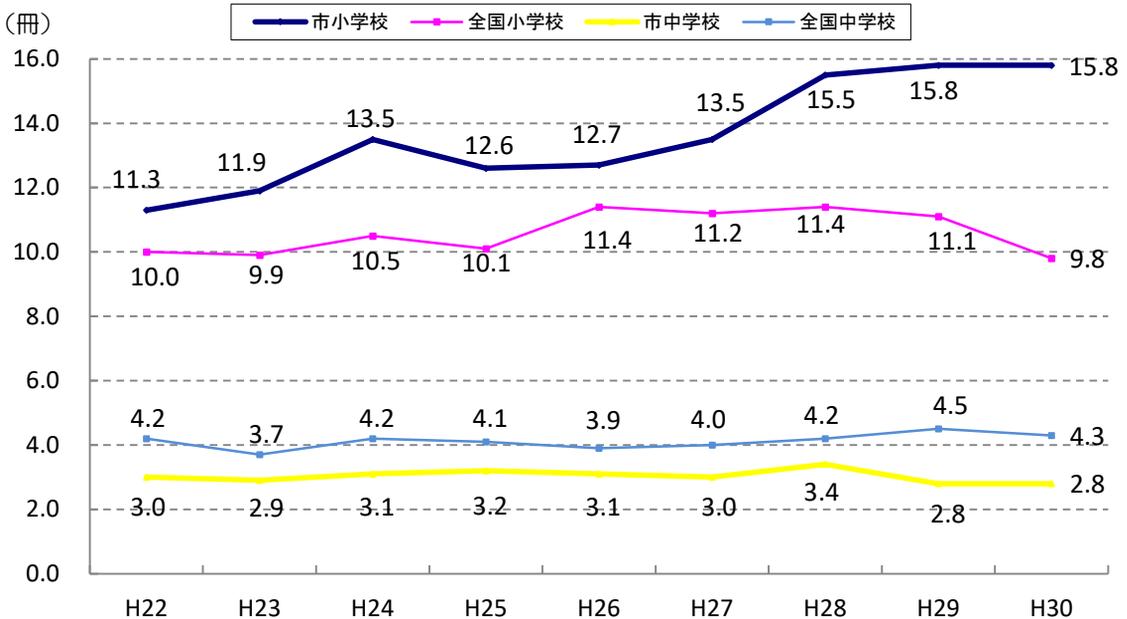
中3



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○「読書が好き」であることについて、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学校6年，中学校3年の割合は，70%以上で推移している。（H30は調査していない）

I-3-8 1か月の平均読書冊数（小・中学校）

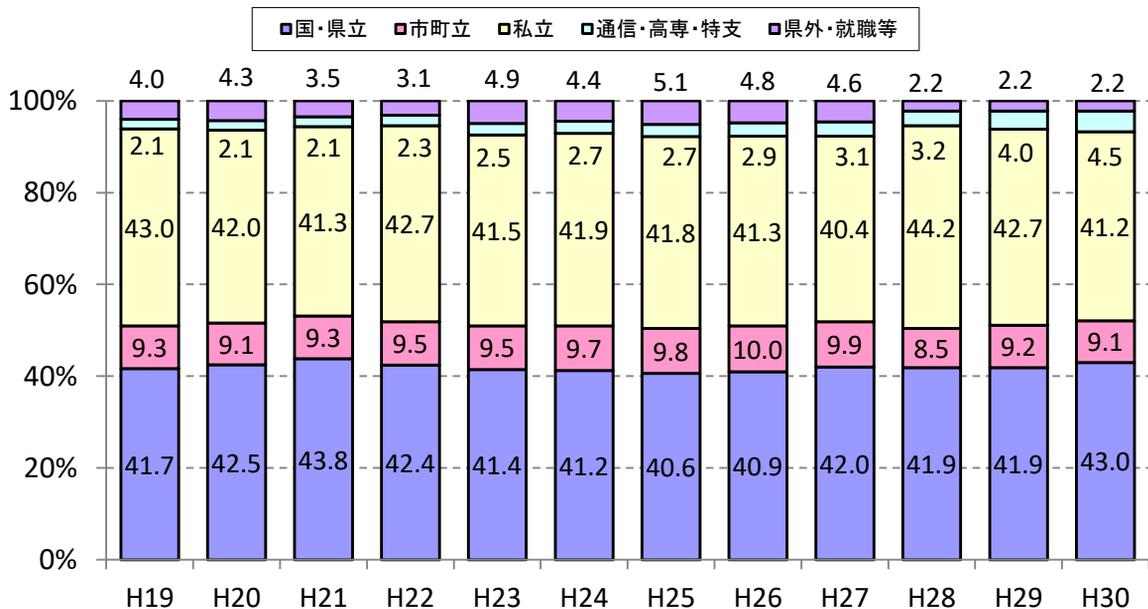


福岡市教育委員会調査

○平成30年11月の調査では，小学校，中学校とも前年度と変わっていない。※全国のは，全国学校図書館協議会による「第64回学校読書調査」（平成30年5月）の結果。

I-4 進路状況

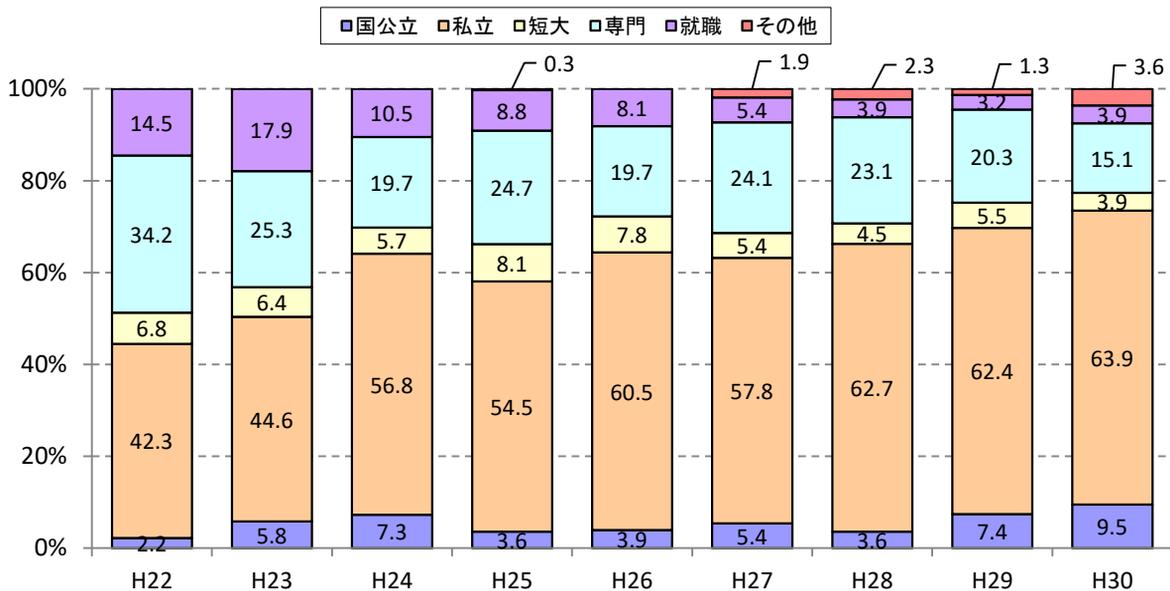
I-4-1 中学校卒業者の進路状況



文部科学省「学校基本調査」

○中学校卒業者の進路状況に、大きな変化は見られない。

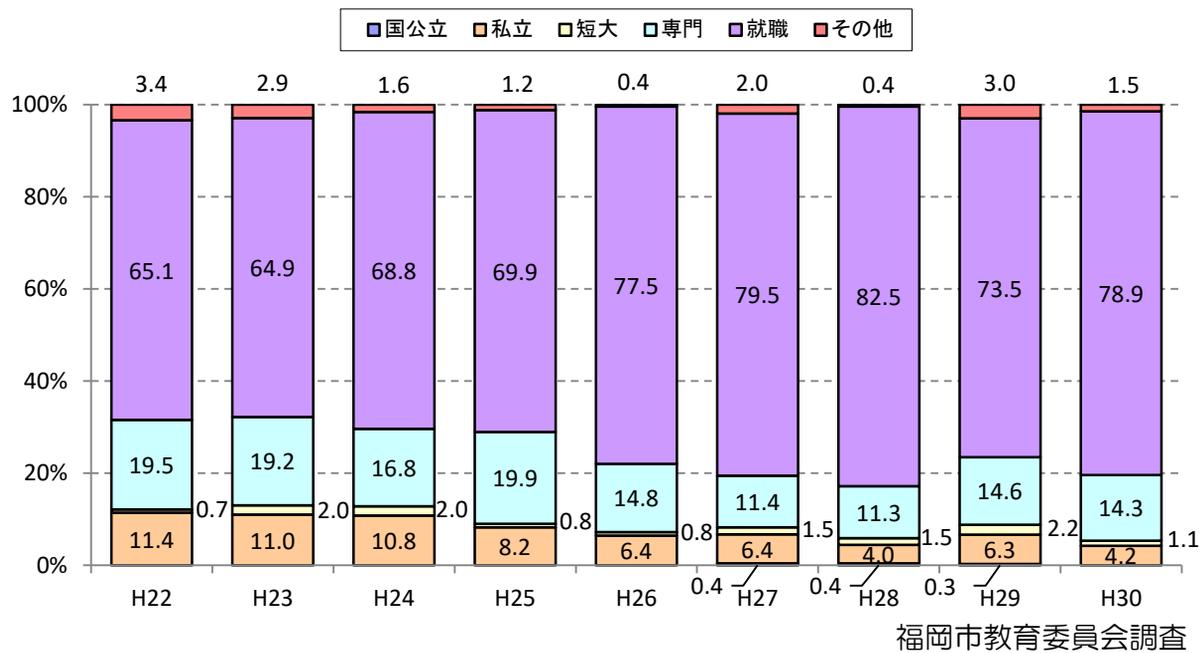
I-4-2 福岡市立福翔高等学校卒業者の進路状況



福岡市教育委員会調査

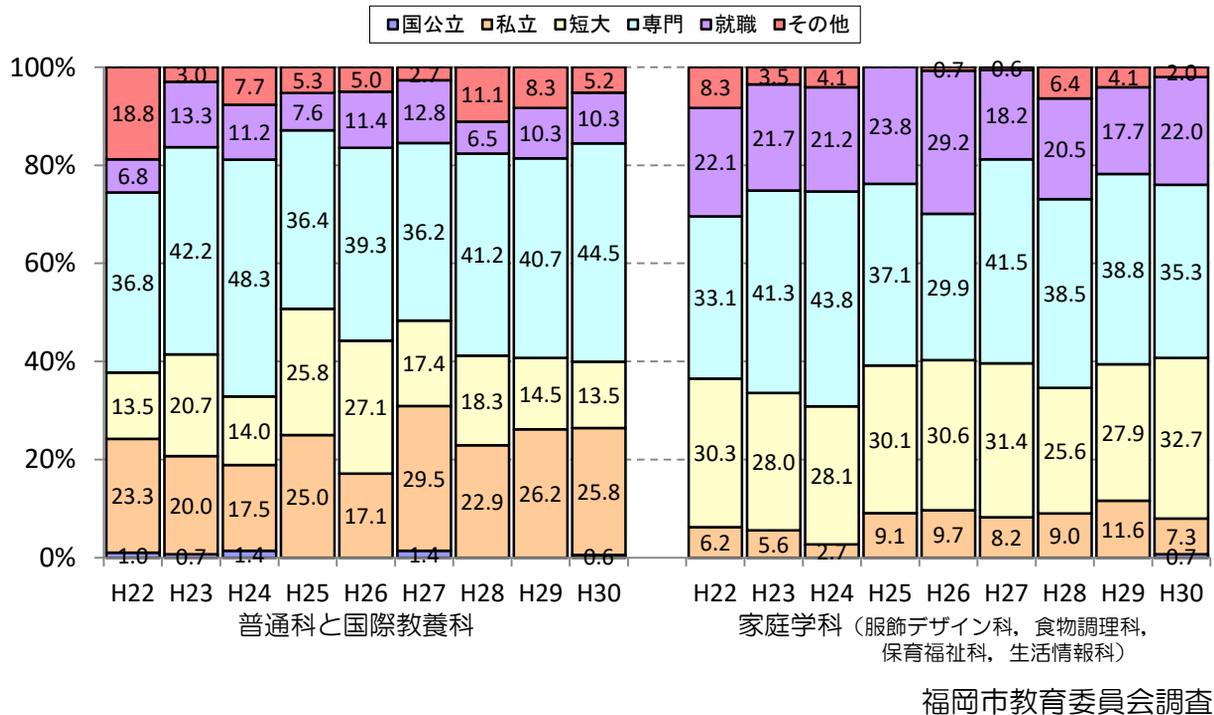
○平成30年度は、前年度と比べて、大学への進学割合が増加している。

I-4-3 福岡市立博多工業高等学校卒業者の進路状況



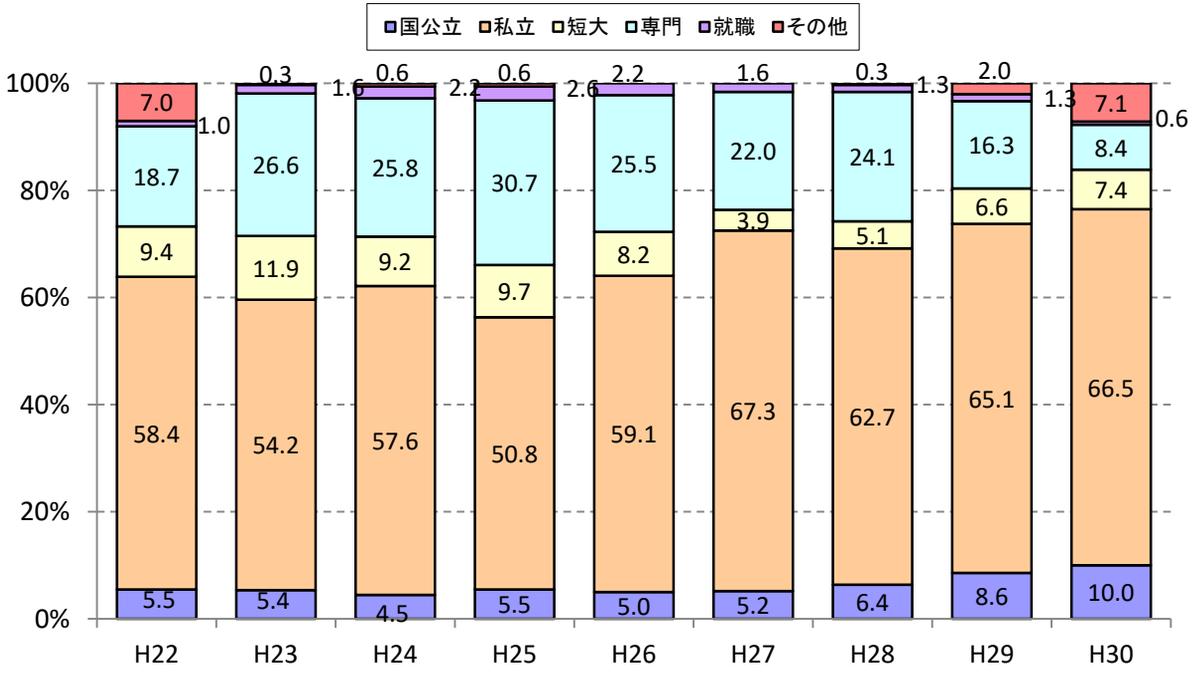
○平成30年度は、就職の割合が増加している。

I-4-4 福岡市立福岡女子高等学校卒業者の進路状況



○平成30年度は、普通科と国際教養科において、進学割合が増加している。

I-4-5 福岡市立福岡西陵高等学校卒業者の進路状況



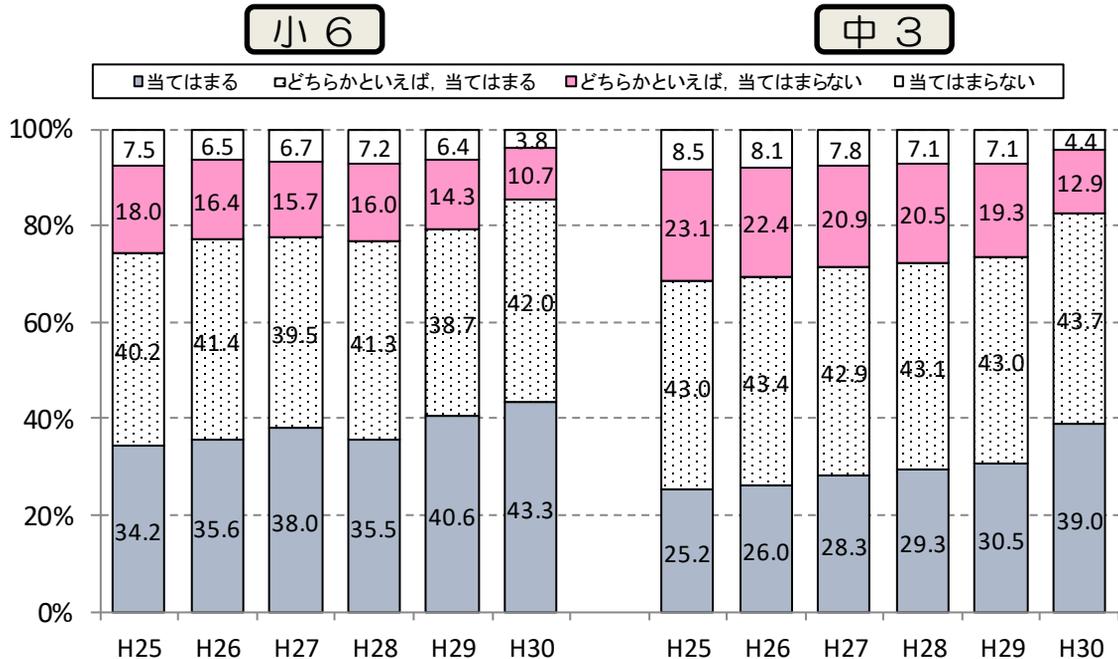
福岡市教育委員会調査

○平成30年度は、前年度と比べて、国公立大及び私立大の進学が増加している。



I-5 自尊心・規範意識

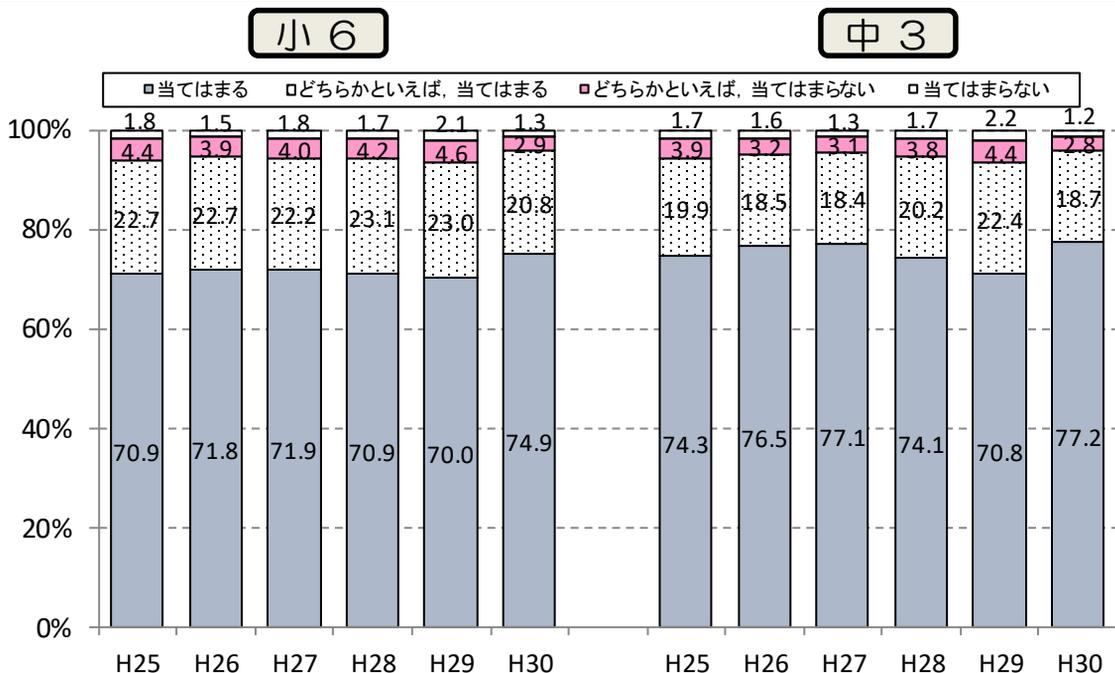
I-5-1 自分のよさ



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○「自分にはよいところがあると思う」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小学校、中学校ともに初めて80%を超えた。

I-5-2 人の役に立つ人間への志向



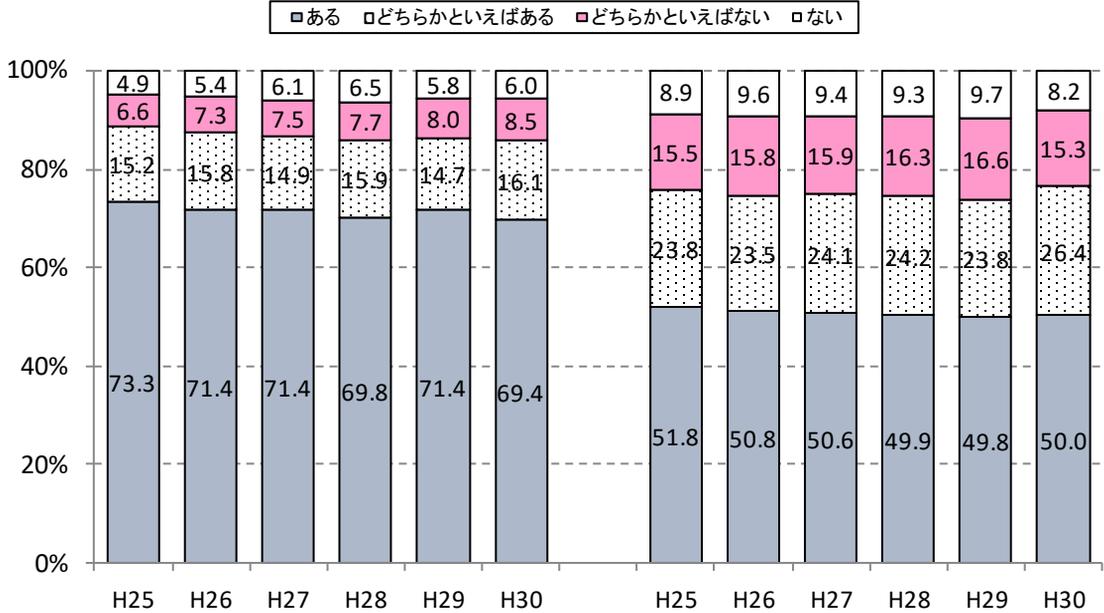
文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○「人の役に立つ人間になりたいと思う」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学校、中学校ともに95%前後で推移している。

I-5-3 将来の夢や目標

小6

中3



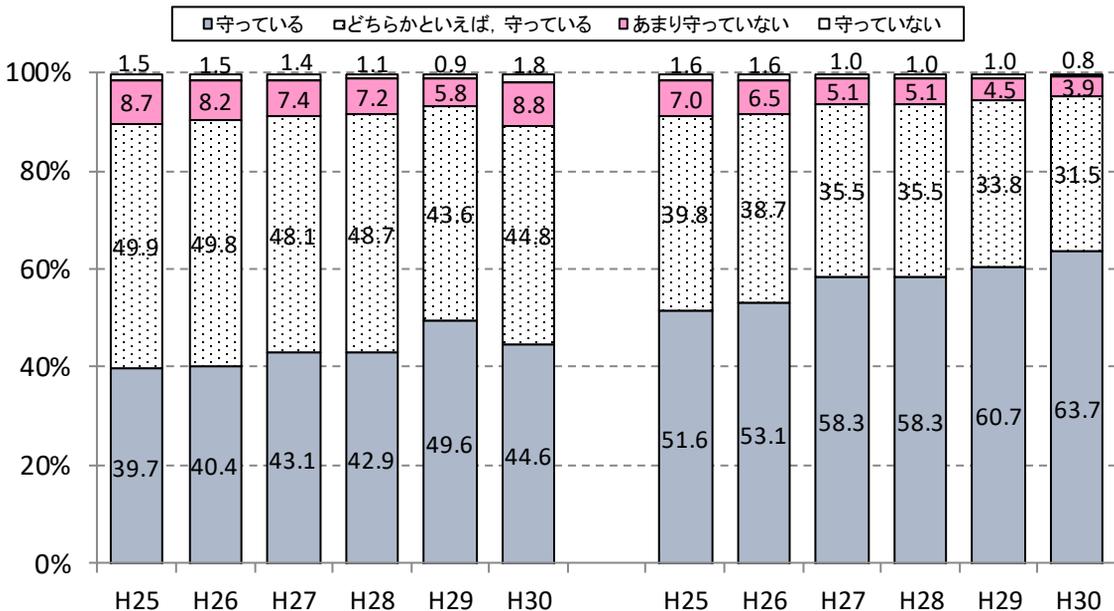
文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○「将来の夢や目標を持っている」について、「ある」と回答した児童・生徒の割合は小学校6年で70%前後、中学校3年で50%前後で推移している。

I-5-4 学校のきまりの順守

小6

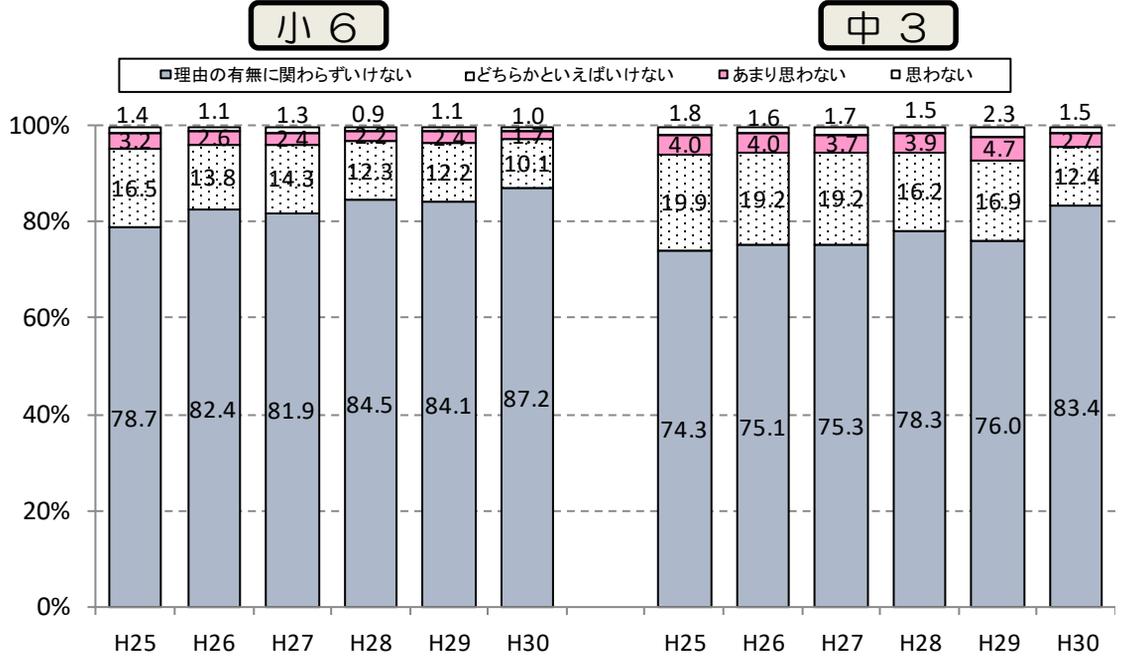
中3



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○「学校のきまりを守っている」について、「守っている」と回答した割合は、小学校は90%前後で推移し、中学校が増加を続け95%を超えた。

I-5-5 いじめの認識



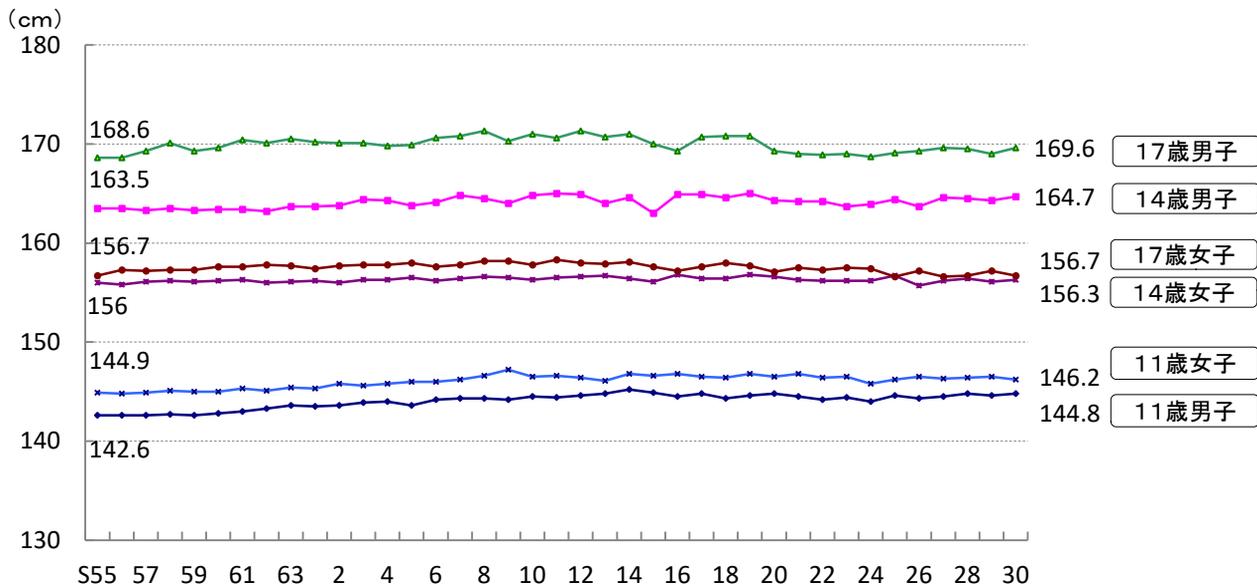
文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」について、「そう思う」と回答した割合は、小学校、中学校ともにH30は最高値となった。



I-6 体格・疾病

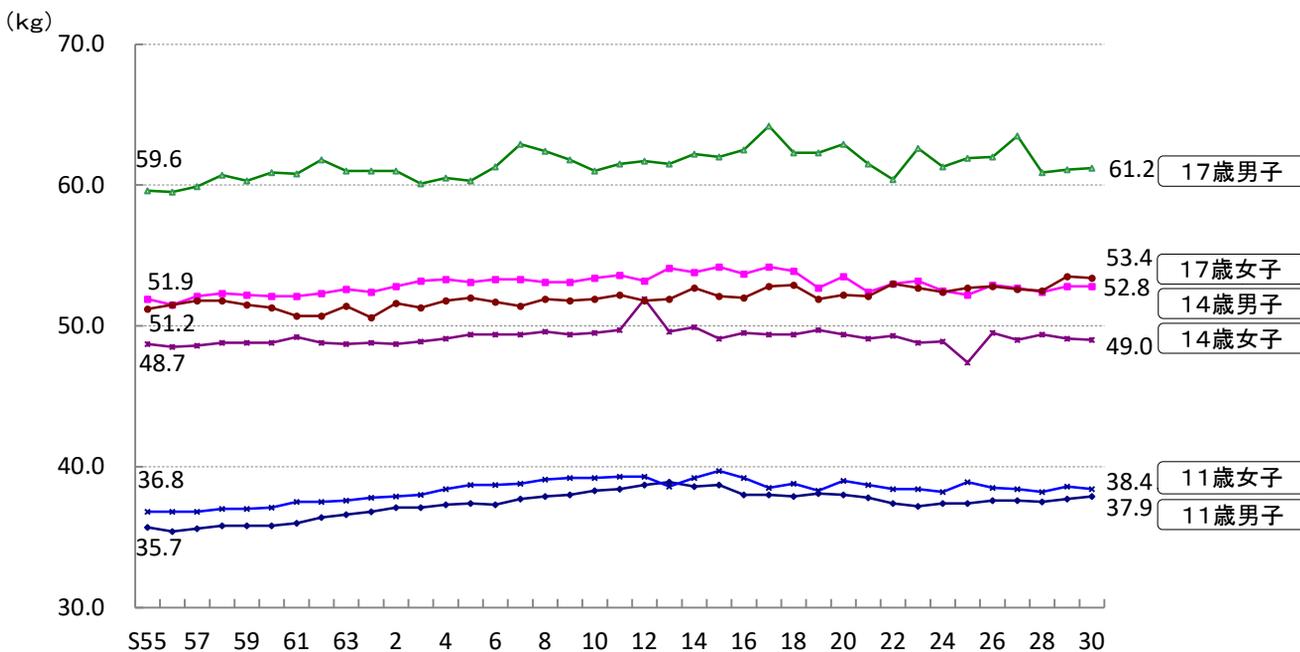
I-6-1 平均身長の推移



福岡市学校保健統計調査

○どのグループも、大きな変化なく推移している。

I-6-2 平均体重の推移

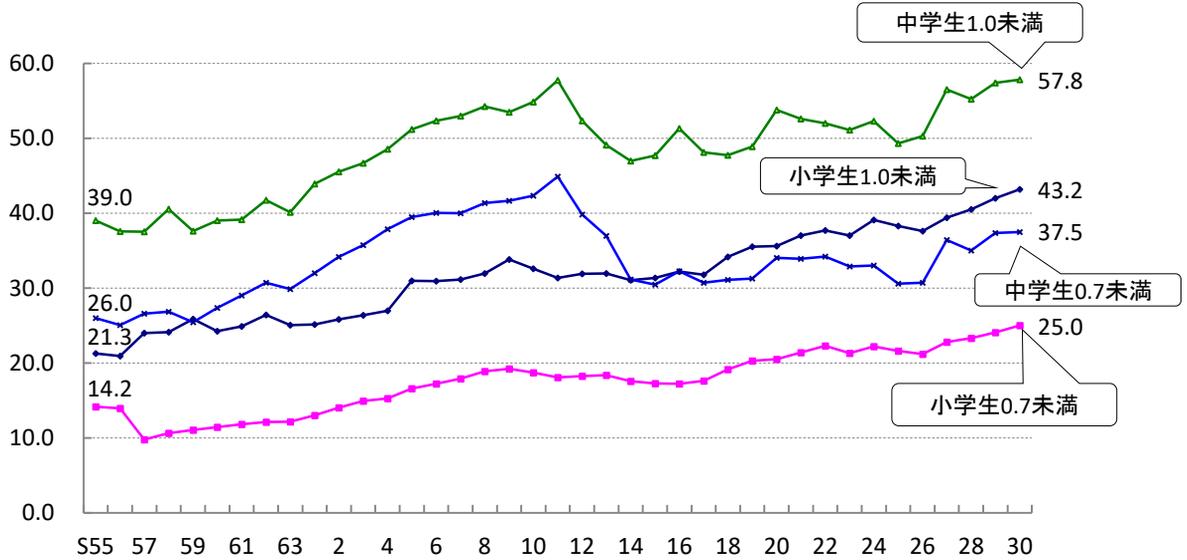


福岡市学校保健統計調査

○どのグループも大きな変化なく推移している。

I-6-3 視力の推移（小・中学生）

(%) ※眼鏡等使用の者については矯正視力

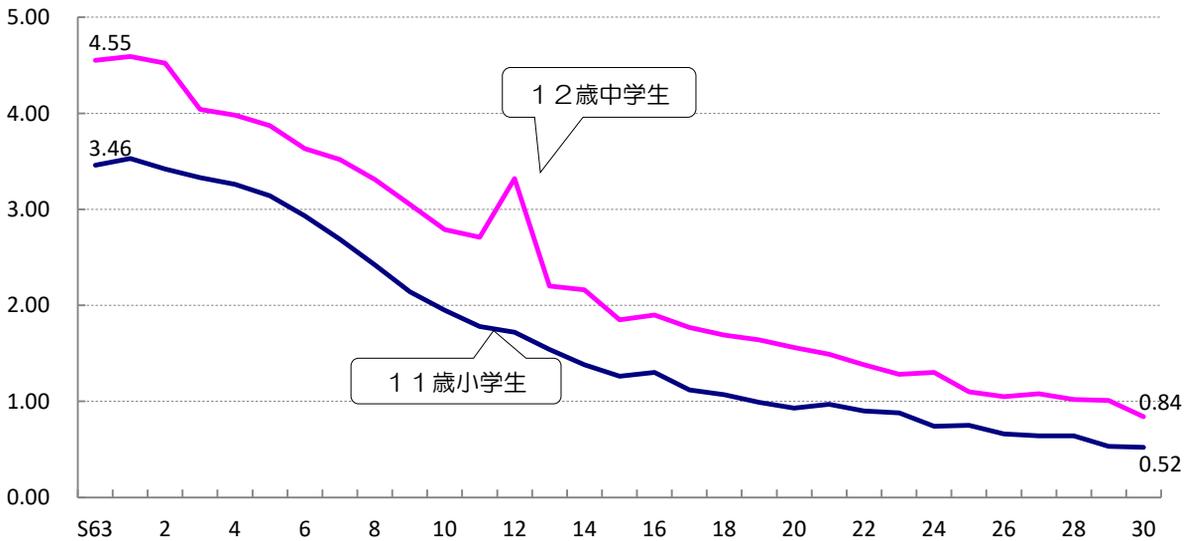


福岡市学校保健統計調査

○平成30年度は、全てのグループで増加している。

I-6-4 DMF 指数（小・中学生）

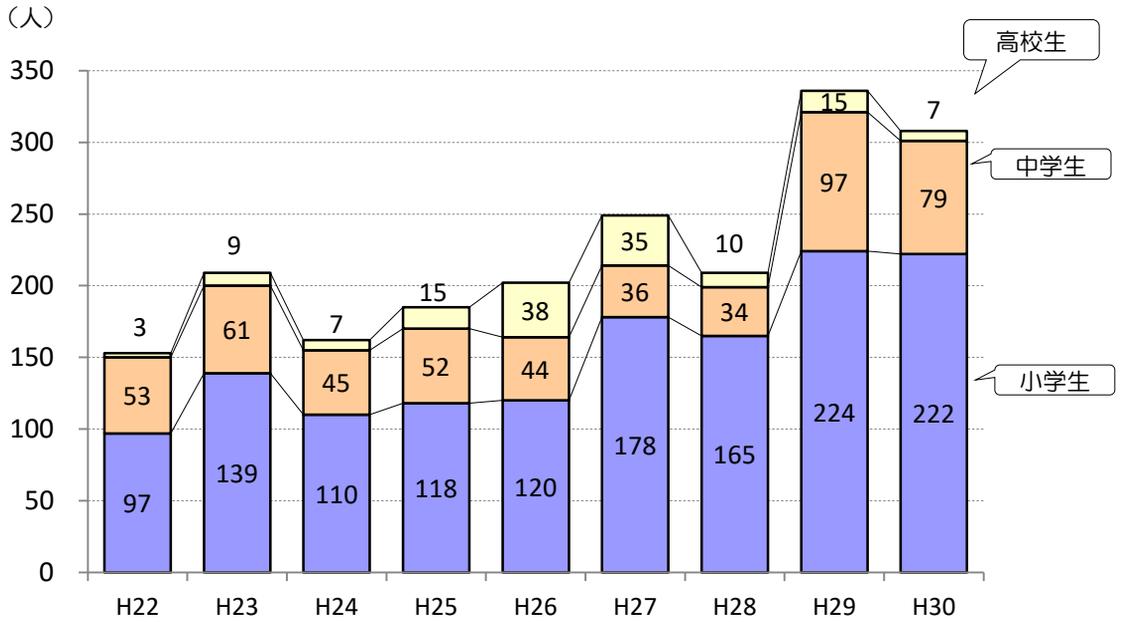
(本) ※DMF 指数・・・子ども一人における永久歯の虫歯の本数（処置されたものも含む）



福岡市学校保健統計調査

○平成30年度は、12歳中学生は減少している。

I-6-5 保健室登校の人数（小学生・中学生・高校生）



福岡県学校保健・安全実態調査

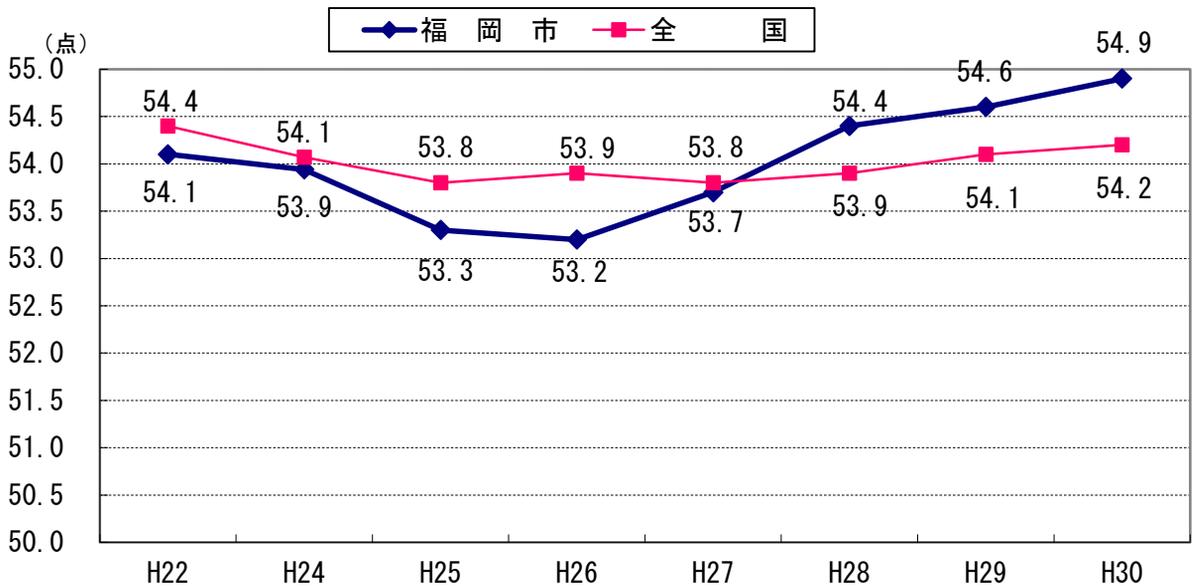
○平成30年度はすべてのグループで減少している。（H30は別室（教室・保健室以外の部屋）登校を含む）



I-7 体力・運動能力

※(注)体力合計点…握力、上体起こし、反復横跳び、立ち幅とび、長座体前屈、ボール投げ、20mシャトルラン(中学生は持久走も可)の8種目の合計点で、1種目10点×8種目=80点満点。(得点基準は男女で異なる)

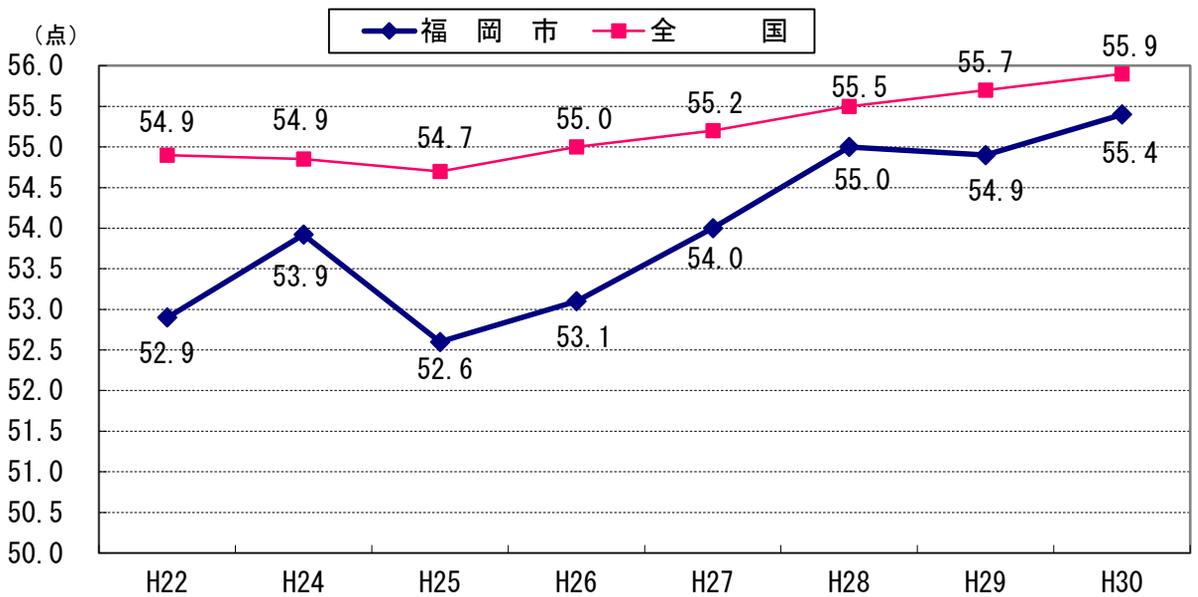
I-7-1 体力合計点(注)の推移(小学校5年 男子)



全国体力・運動能力、運動習慣等調査

○平成30年度の小学校5年男子の体力合計点は、全国平均よりわずかに高い。

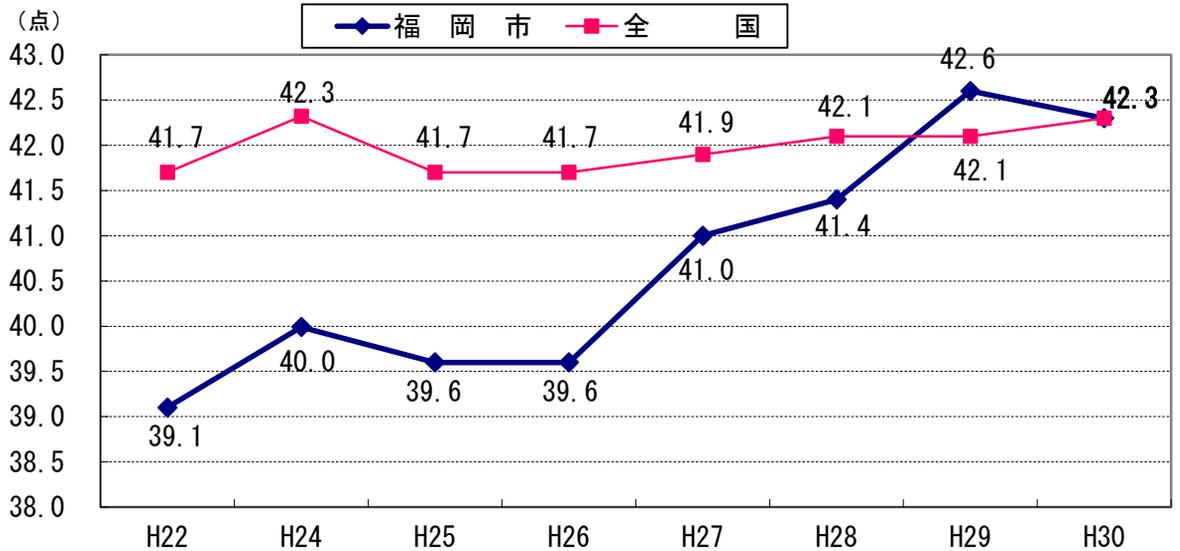
I-7-2 体力合計点の推移(小学校5年 女子)



全国体力・運動能力、運動習慣等調査

○平成30年度の小学校5年女子の体力合計点は、全国平均をわずかに下回るものの向上している。

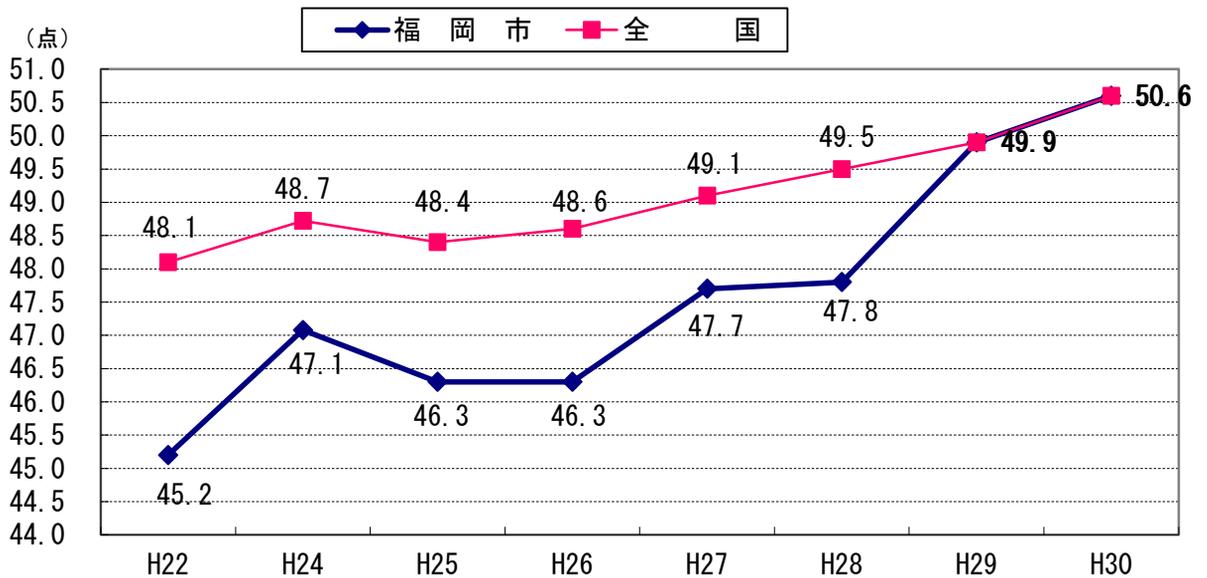
I-7-3 体力合計点の推移（中学校2年 男子）



全国体力・運動能力，運動習慣等調査

○平成30年度の中学校2年男子の体力合計点は，全国平均と同じ。

I-7-4 体力合計点の推移（中学校2年 女子）



全国体力・運動能力，運動習慣等調査

○平成30年度の中学校2年女子の体力合計点は，全国平均と同じ。

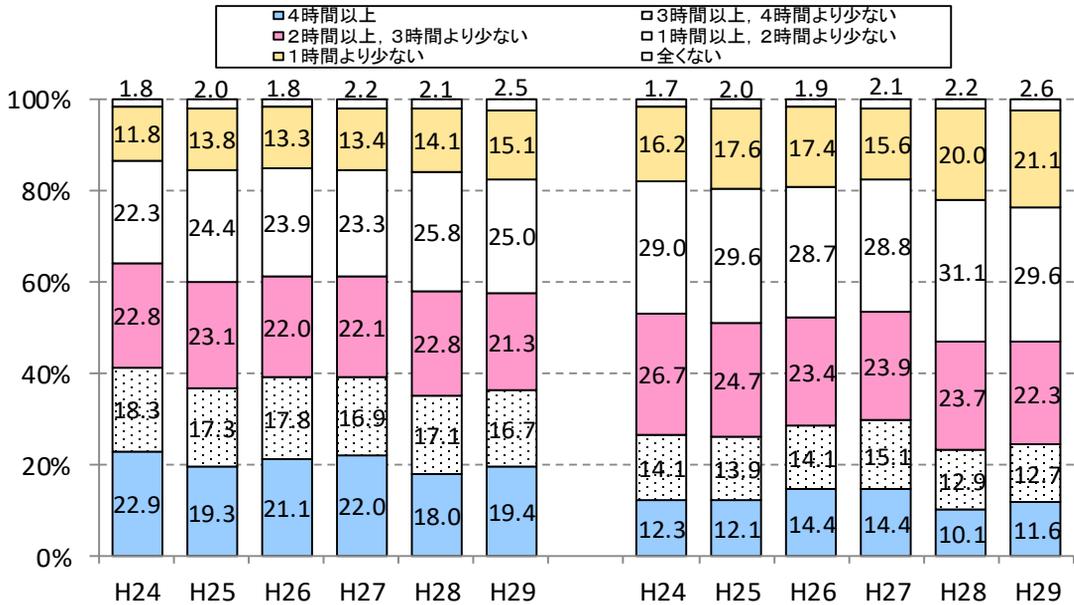
I-8 メディアとの接触

I-8-1 普段（月～金曜日）のテレビ・ビデオ等の視聴時間

小6

※テレビゲームをする時間は除く

中3



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

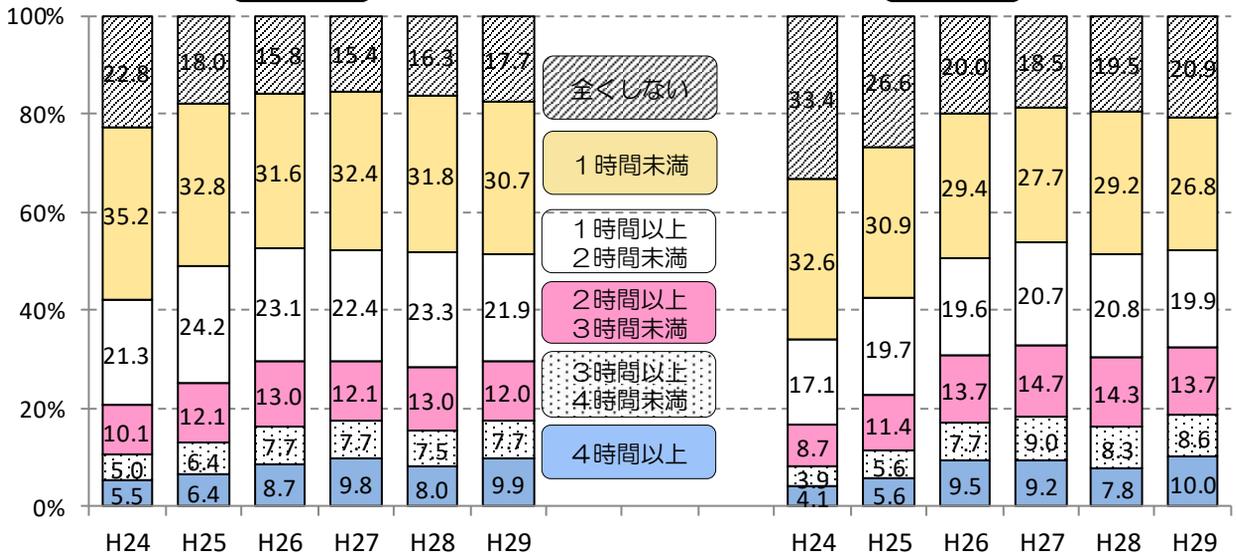
○「2時間以上視聴している」と回答した児童・生徒の割合は、小学校6年で60%前後、中学校3年で50%前後を推移している。（H30は調査していない）

I-8-2 普段（月～金曜日）のテレビゲーム時間

※コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む

小6

中3

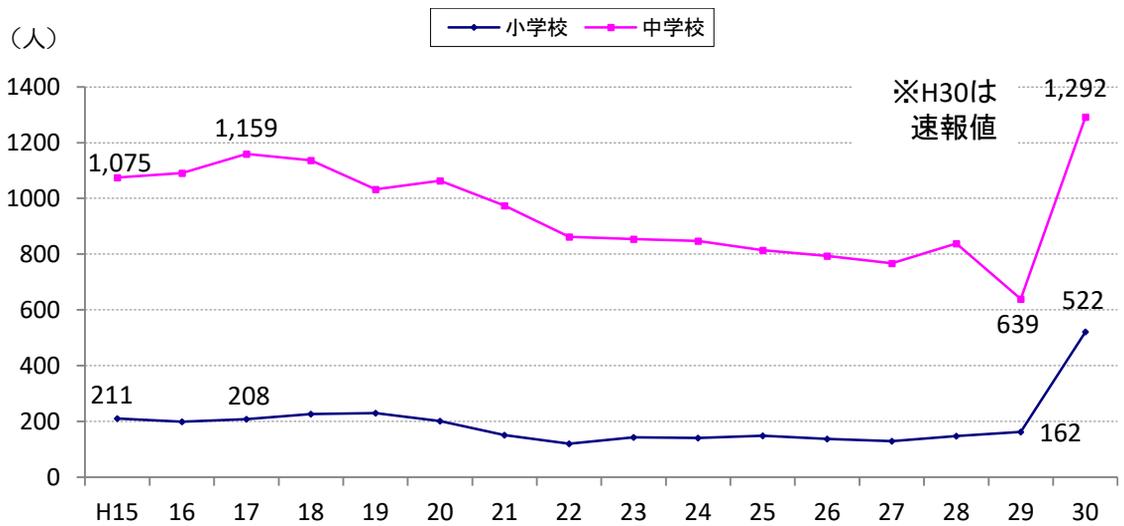


文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○「1時間以上テレビゲームをしている」と回答した児童・生徒の割合は、平成26年度から、小学校6年、中学校3年ともに50%以上で推移している。（H30は調査していない）

I-9 不登校・いじめ・暴力行為

I-9-1 不登校児童生徒数（年間30日以上欠席）

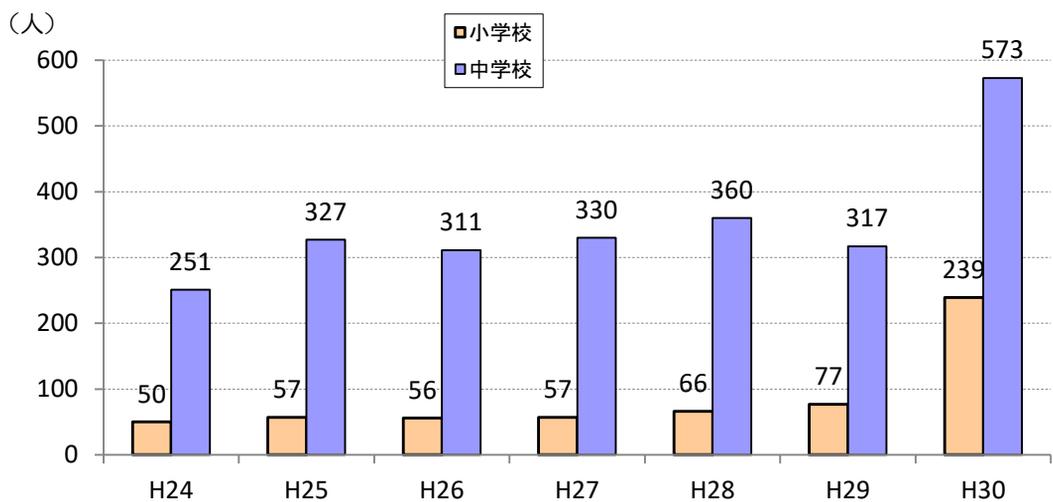


福岡市教育委員会調査

○文部科学省の長期欠席児童生徒の分類基準の変更などにより、不登校児童生徒数が増加している。

I-9-2 不登校児童生徒の復帰の状況

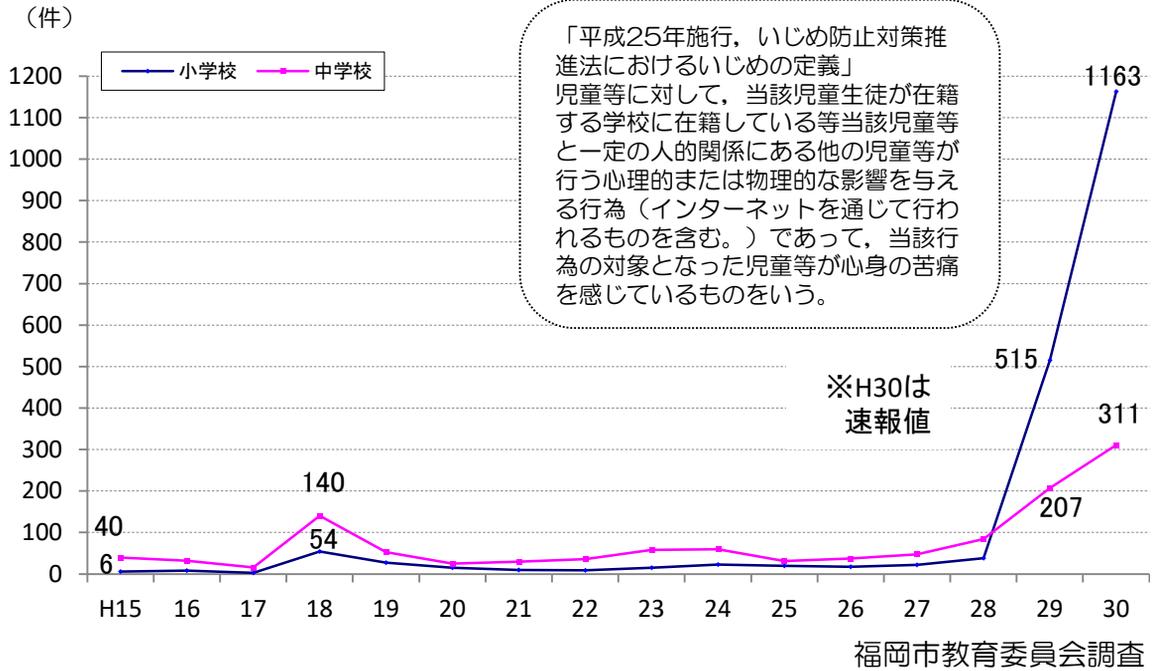
復帰とは・・・指導の結果、登校する又は登校できるようになった児童生徒
個々の児童生徒の状況に応じて継続的に登校できるようになったと認められる者を復帰とする



福岡市教育委員会調査

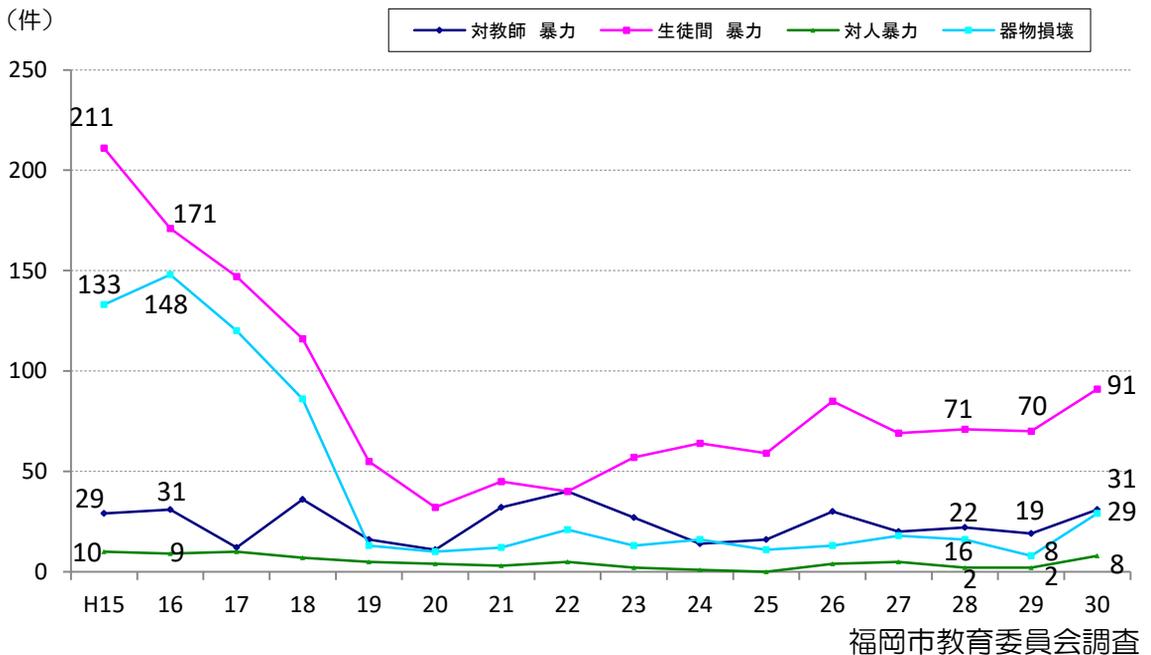
○不登校児童生徒数の増加に伴い、小中学校ともに復帰者数が増加している。

I-9-3 いじめの発生状況（認知件数）



○平成29年3月、文部科学省が、いじめの定義をより明確にしたことを周知徹底したことで、平成29年度から大幅に増加している。

I-9-4 暴力行為の発生状況（小・中学校）

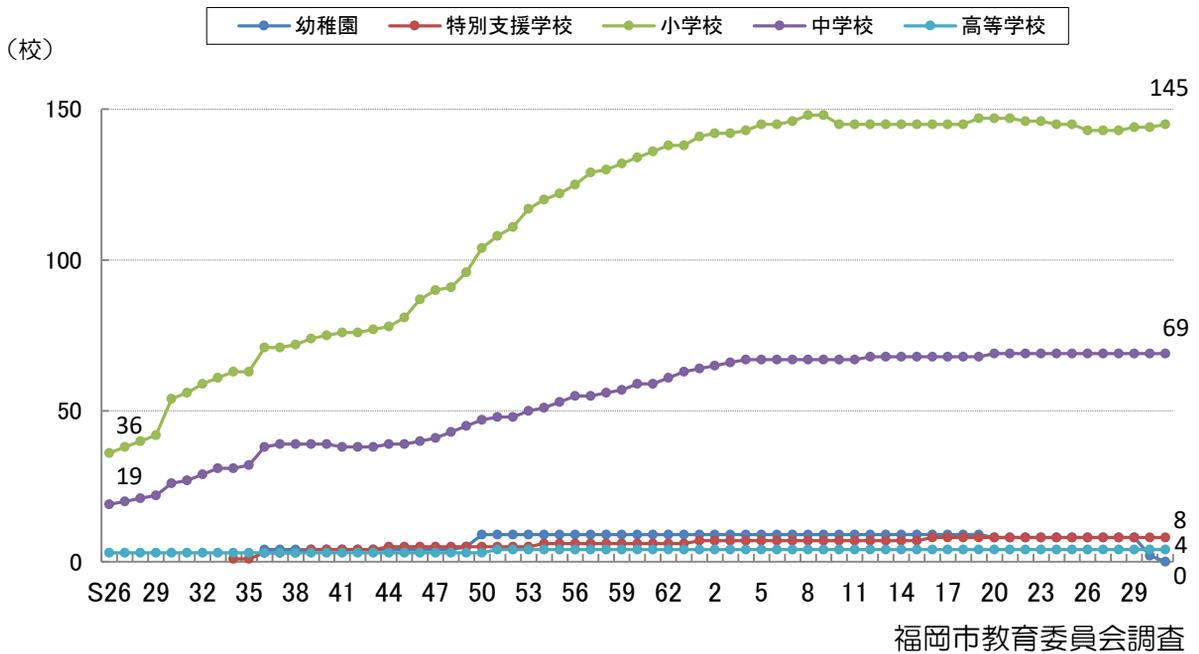


○平成30年度は、全ての暴力行為において、わずかに増加した。

II 学 校

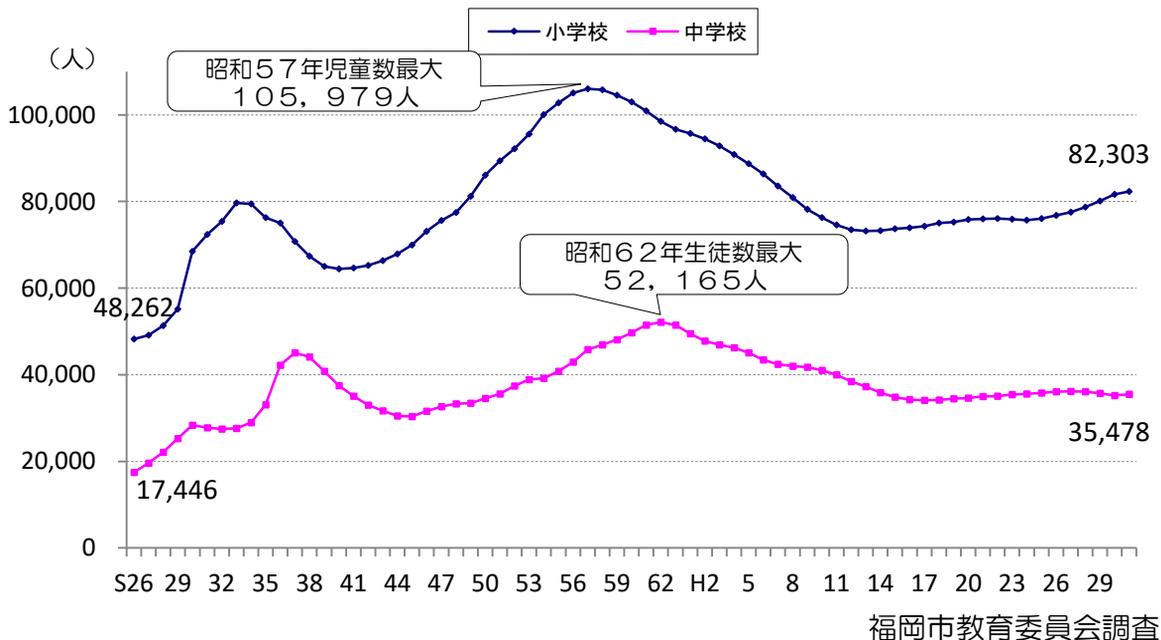
Ⅱ－1 学校数等

Ⅱ－1－1 学校数の推移



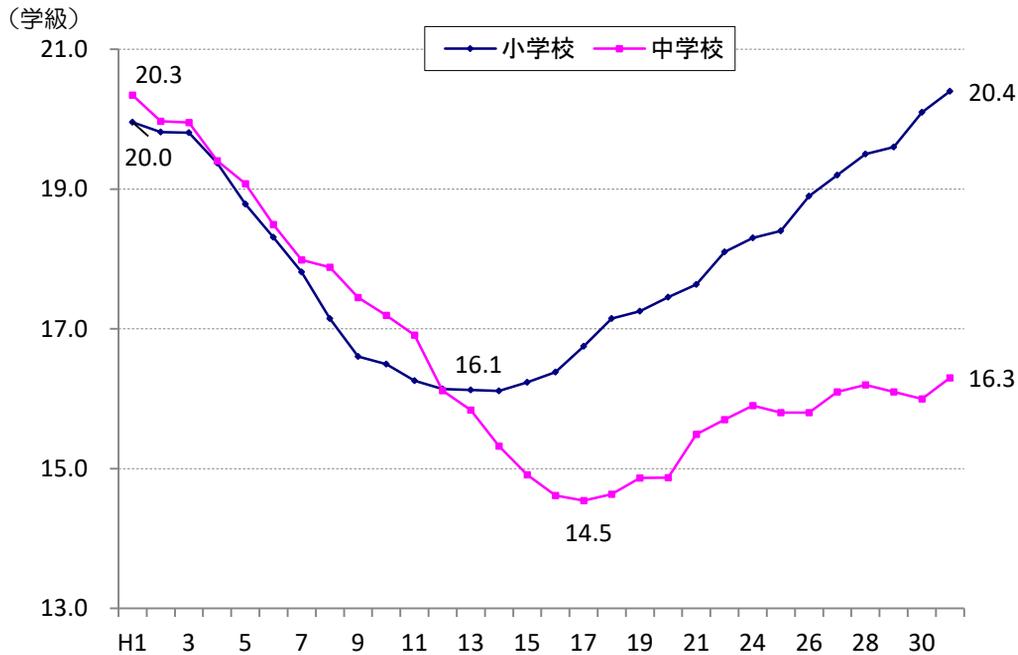
○市立学校は、幼稚園0（2→0）、特別支援学校8、小学校145（144→145）、中学校69、高等学校4となっている。

Ⅱ－1－2 児童生徒数の推移



○児童生徒数は、小学校が昭和57年、中学校が昭和62年をピークに減少傾向にあったが、近年、小学校は増加傾向、中学校はほぼ横ばいの推移となっている。

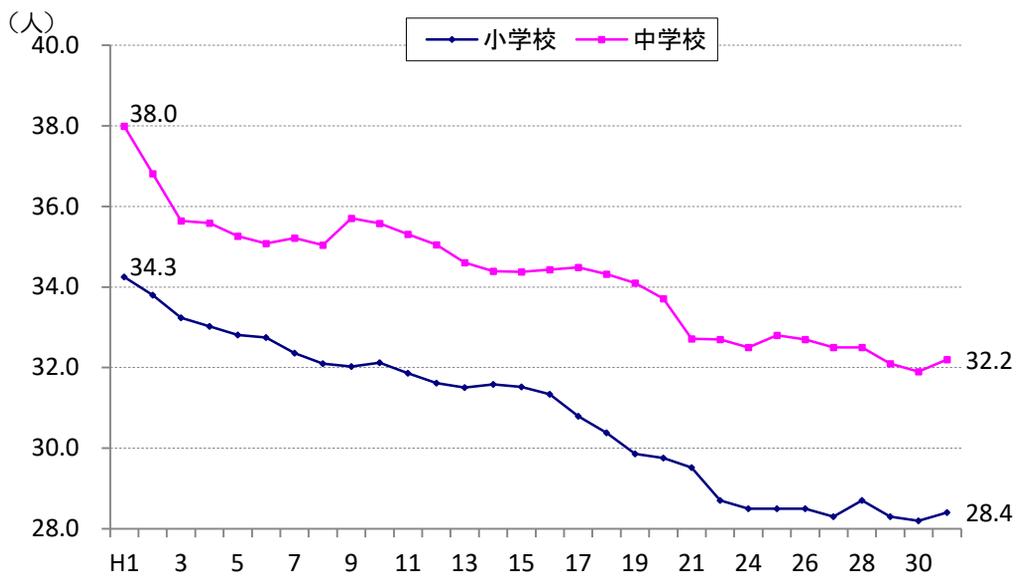
Ⅱ－１－３ 1校あたりの学級数の推移



福岡市教育委員会調査

○近年、小学校、中学校ともに増加傾向である。中学校は平成28年度以降若干減少傾向であったが、令和元年度は増加。

Ⅱ－１－４ 1学級あたりの児童生徒数の推移

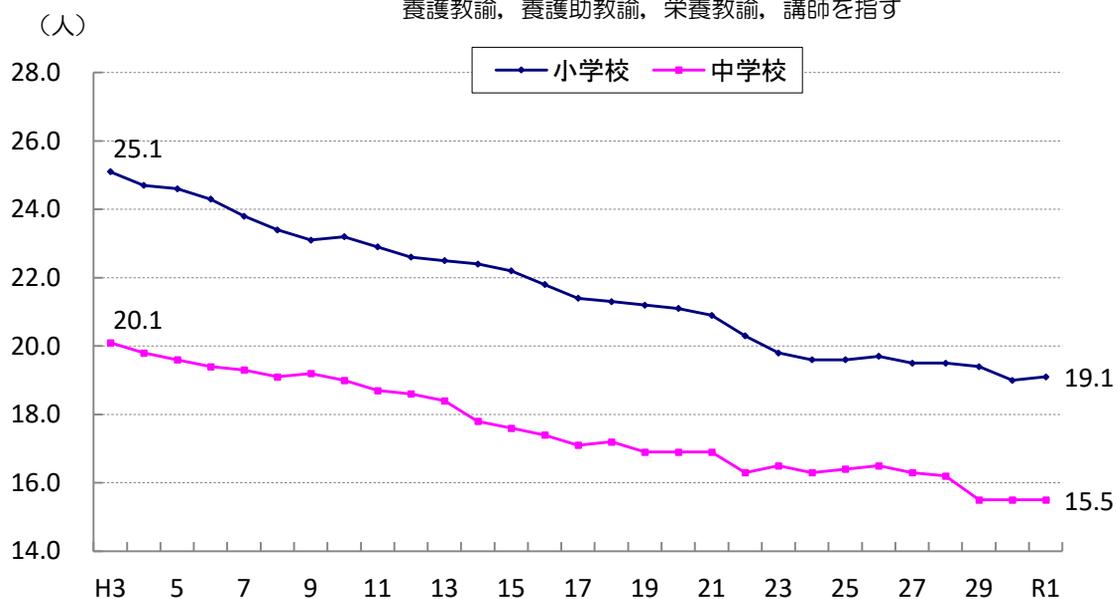


福岡市教育委員会調査

○小学校、中学校ともに減少傾向にあったが、令和元年度は若干増加。

Ⅱ－１－５ 教員１人あたりの児童生徒数の推移

※「教員」とは、校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、助教諭、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭、講師を指す

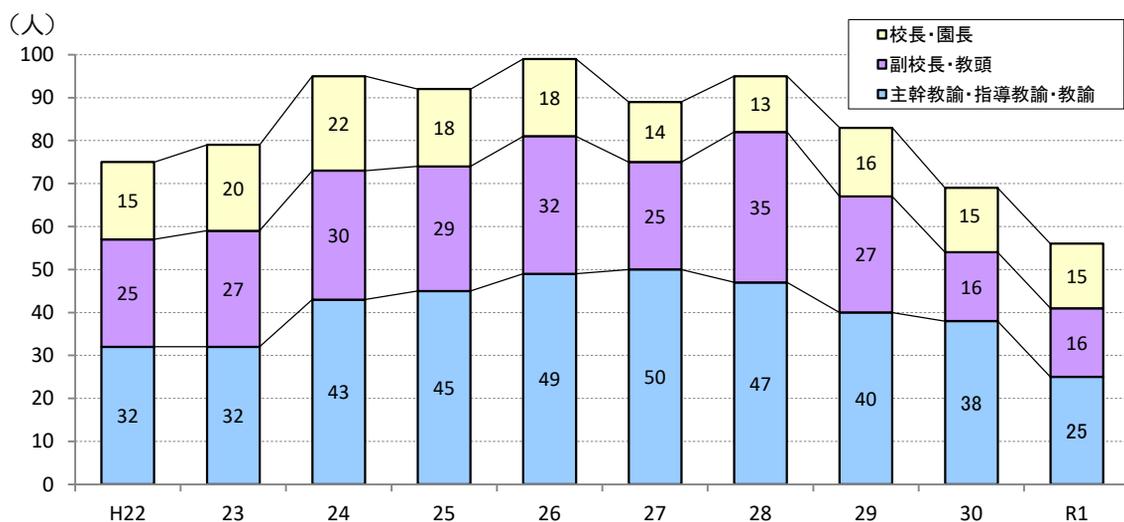


福岡市教育委員会調査

○教員１人あたりの児童生徒数は、小学校・中学校とも減少傾向にある。

Ⅱ－１－６ 異校種間人事交流の状況

※「異校種間人事交流」とは、小学校と中学校、中学校と高等学校など、異なる学校種の間で人事異動を行うこと

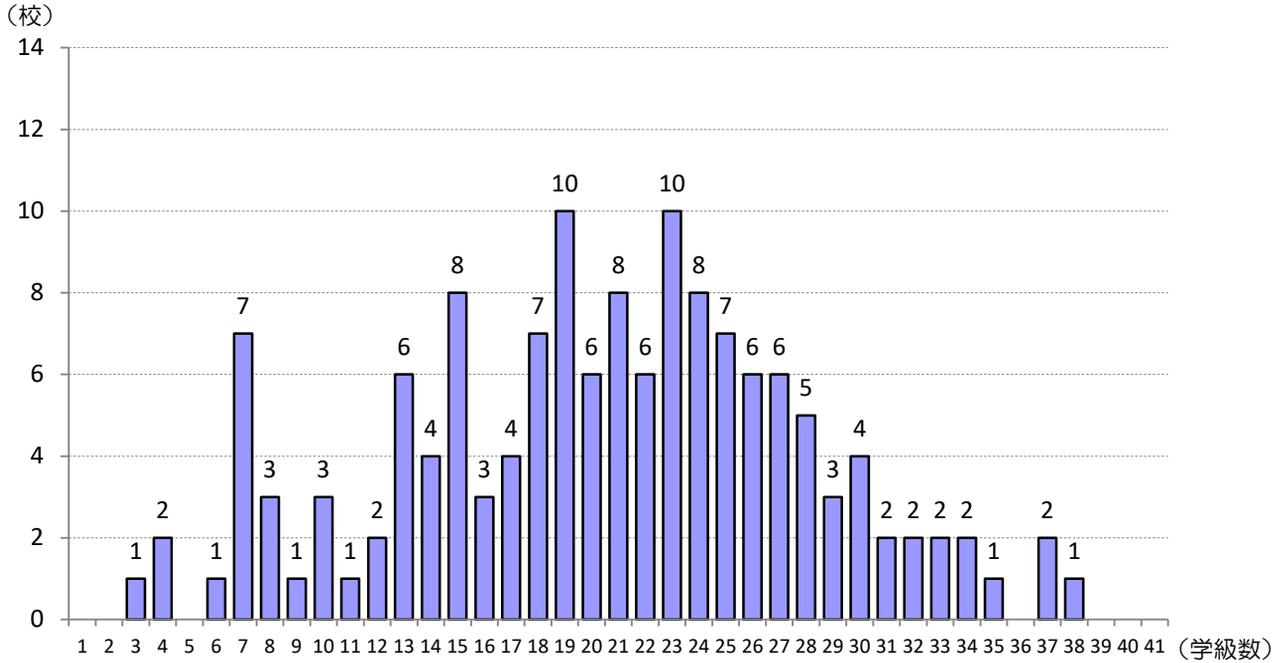


福岡市教育委員会調査

○令和元年度は、校長及び教頭は前年度と同数であるものの、教諭が大きく減少した。

Ⅱ－２ 学校施設の状況

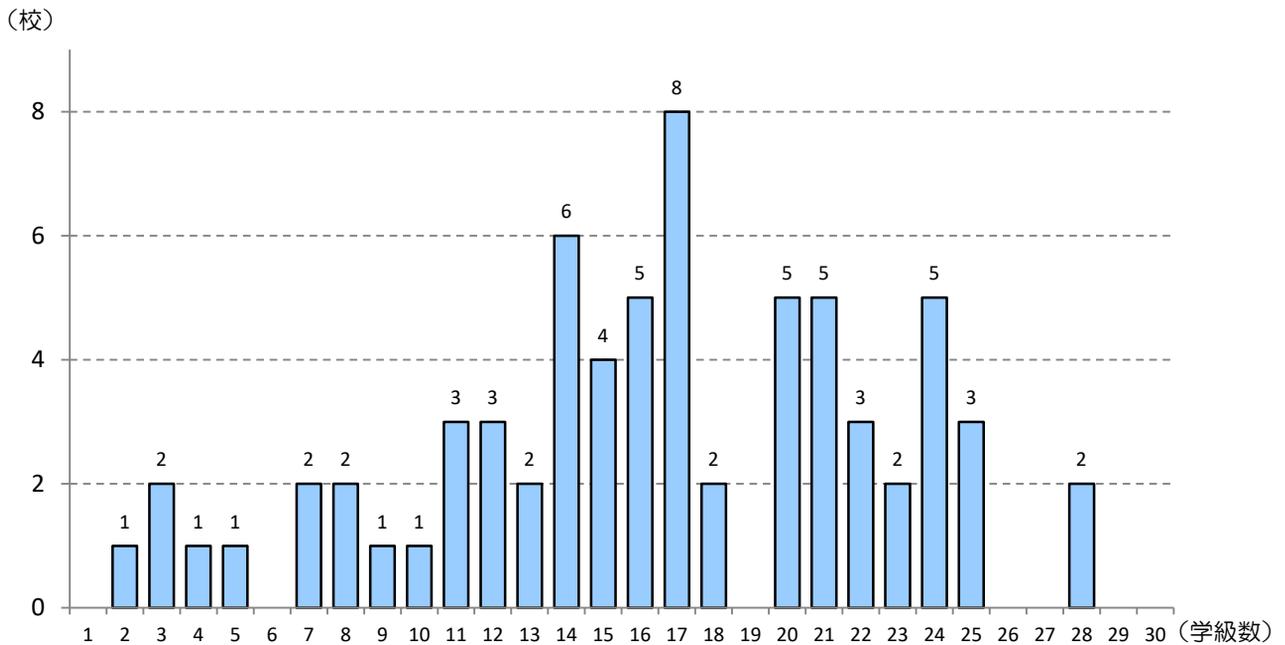
Ⅱ－２－１ 規模別学校数（令和元年度小学校） ※特別支援学校は除く



福岡市教育委員会調査

○小学校の学級規模は、19、23学級がもっとも多い。平均学級数は20.4クラス

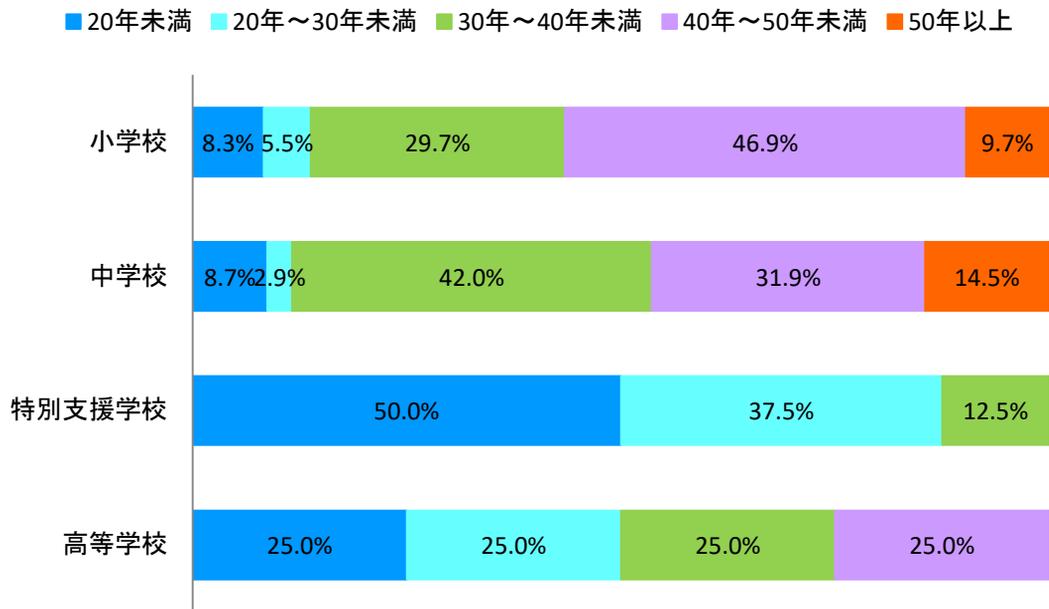
Ⅱ－２－２ 規模別学校数（令和元年度中学校） ※特別支援学校は除く



福岡市教育委員会調査

○中学校の学級規模は、17学級がもっとも多い。平均学級数は16.3クラス

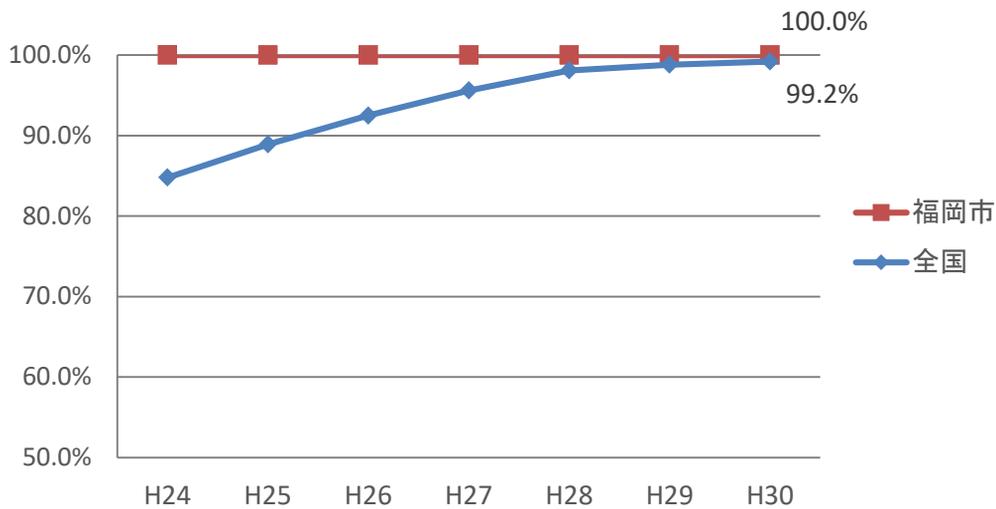
Ⅱ－２－３ 学校施設の経過年数（校種毎） ※平成31年4月時点



福岡市教育委員会調査

○築60年を耐用年数としているが、約8割の学校施設で築30年を経過しており、学校施設の老朽化が進んでいる。

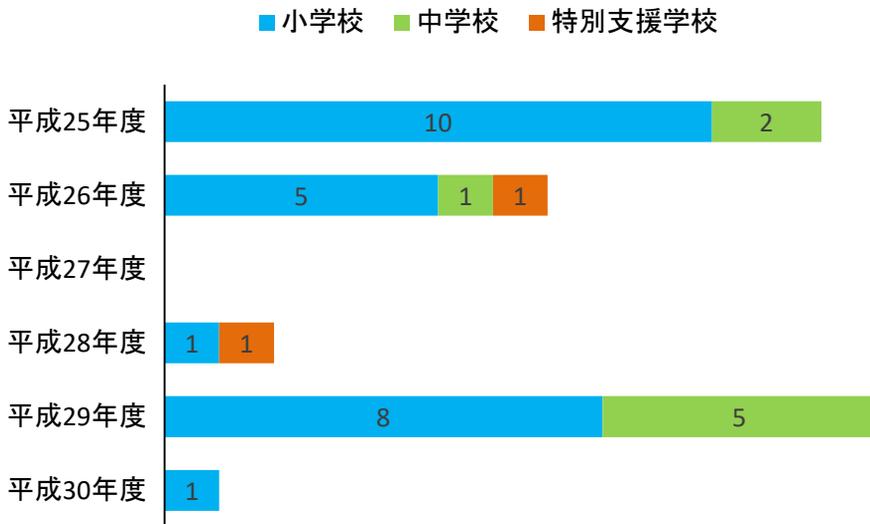
Ⅱ－２－４ 学校施設の耐震化の状況



福岡市教育委員会調査

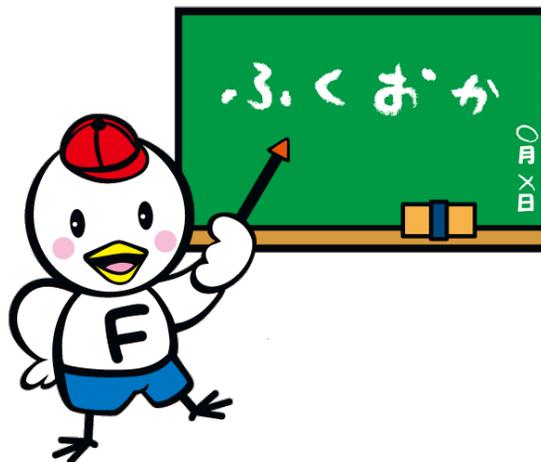
○構造体の耐震改修は平成23年度で完了している。

Ⅱ-2-5 大規模改造（校舎，屋体）の実施状況



福岡市教育委員会調査

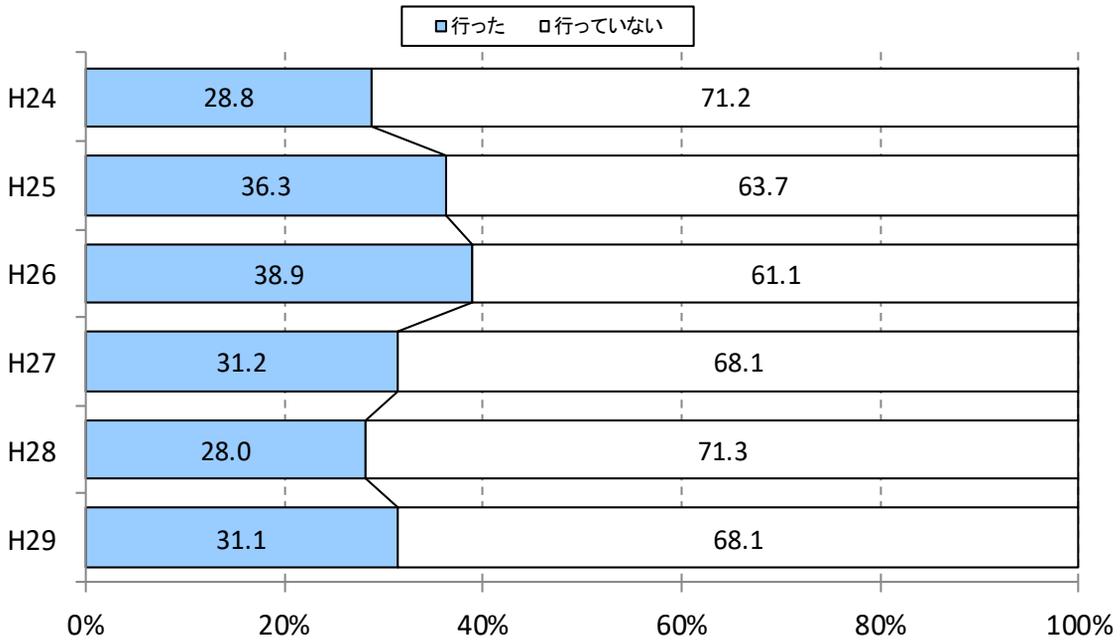
○築30年を経過した学校について、大規模改造を実施しているが、未実施校の累積が進んでいる。



Ⅱ－３ 特色ある教育

Ⅱ－３－１ 放課後を利用した補充的な学習サポート（小学校）

「行った」とは・・・年に数回程度の場合も含む

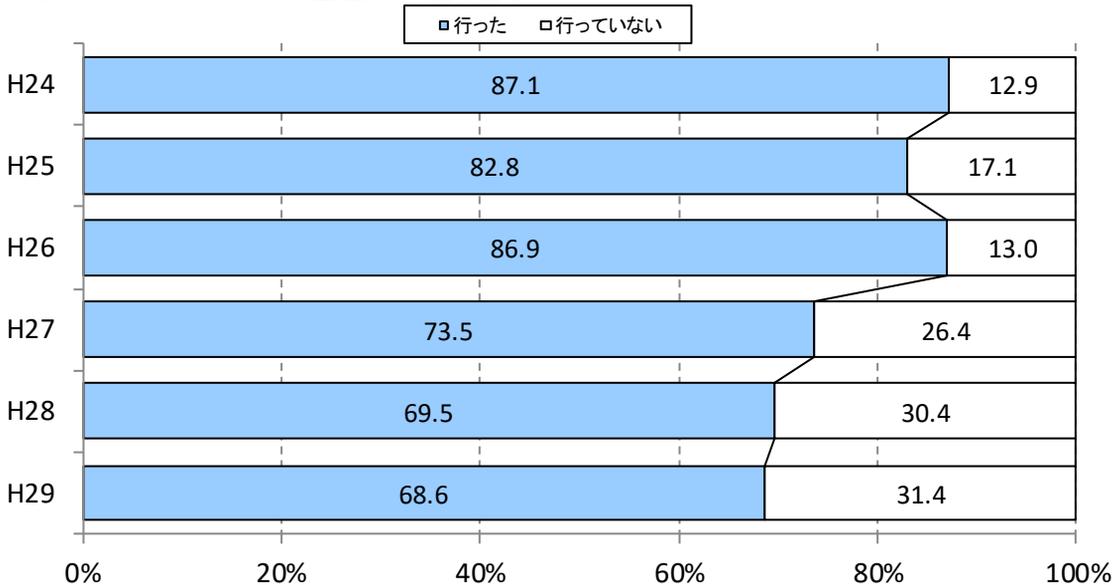


文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○調査対象学年（小学校6年生）の児童について、放課後を利用した補充的な学習サポートを「行った」と回答した小学校の割合は、平成27年度から30%前後で推移している。（H30は調査していない）

Ⅱ－３－１ 放課後を利用した補充的な学習サポート（中学校）

「行った」とは・・・年に数回程度の場合も含む

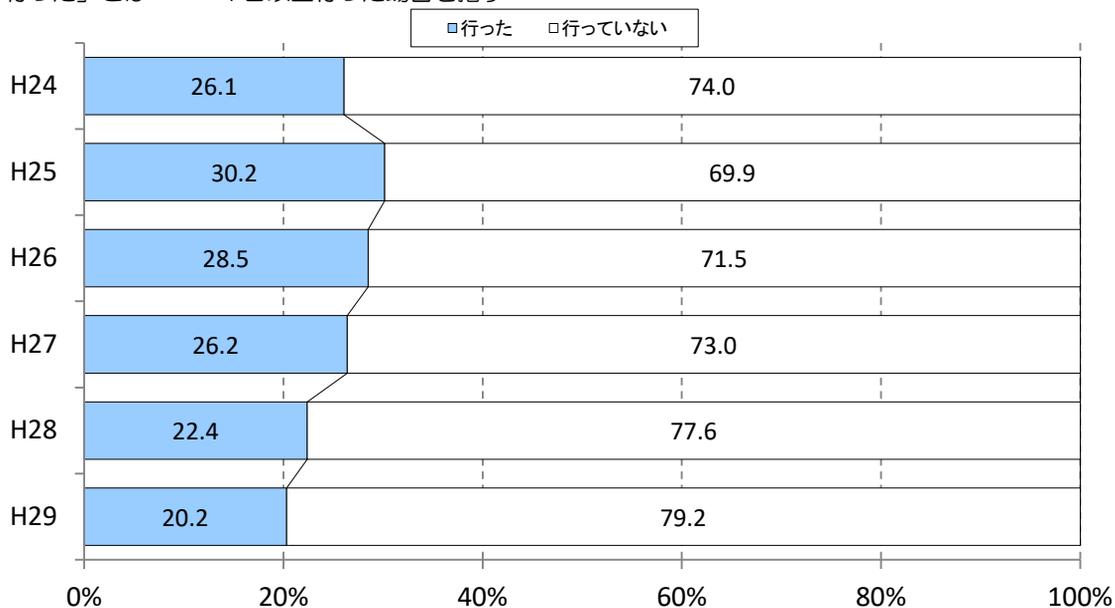


文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○調査対象学年（中学校3年生）の生徒について、放課後を利用した補充的な学習サポートを「行った」と回答した中学校の割合は、減少傾向にある。（H30は調査していない）

Ⅱ－３－２ 長期休業日を利用した補足的な学習サポート（小学校）

「行った」とは・・・1日以上行った場合を指す

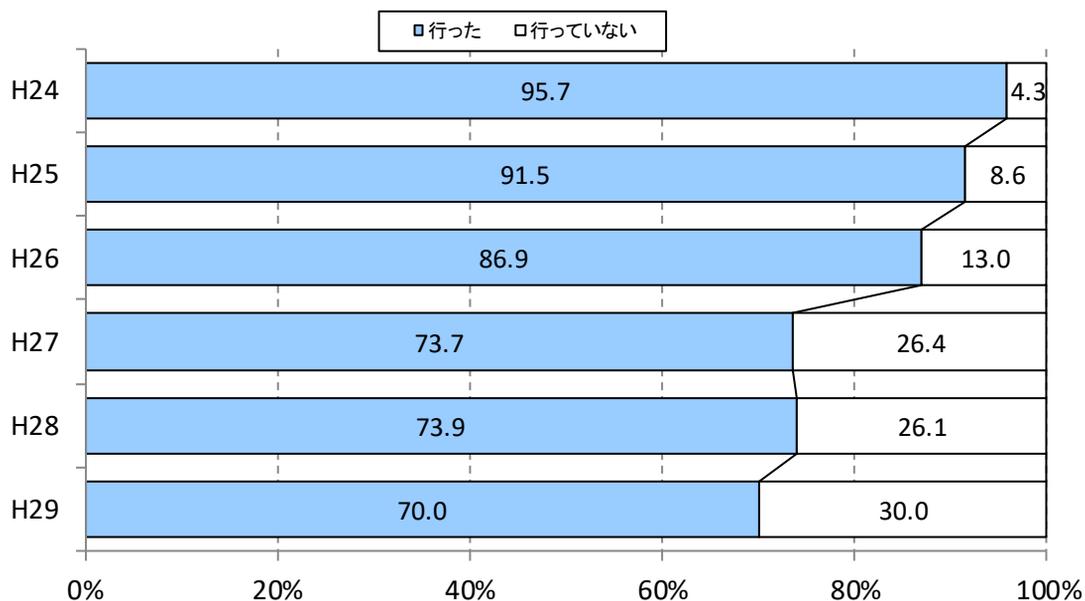


文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○調査対象学年（小学校6年生）の児童に対し、前年度に長期休業日を利用した補足的な学習サポートを「行った」と回答した小学校の割合は、減少傾向にある。（H30は調査していない）

Ⅱ－３－２ 長期休業日を利用した補足的な学習サポート（中学校）

「行った」とは・・・1日以上行った場合を指す

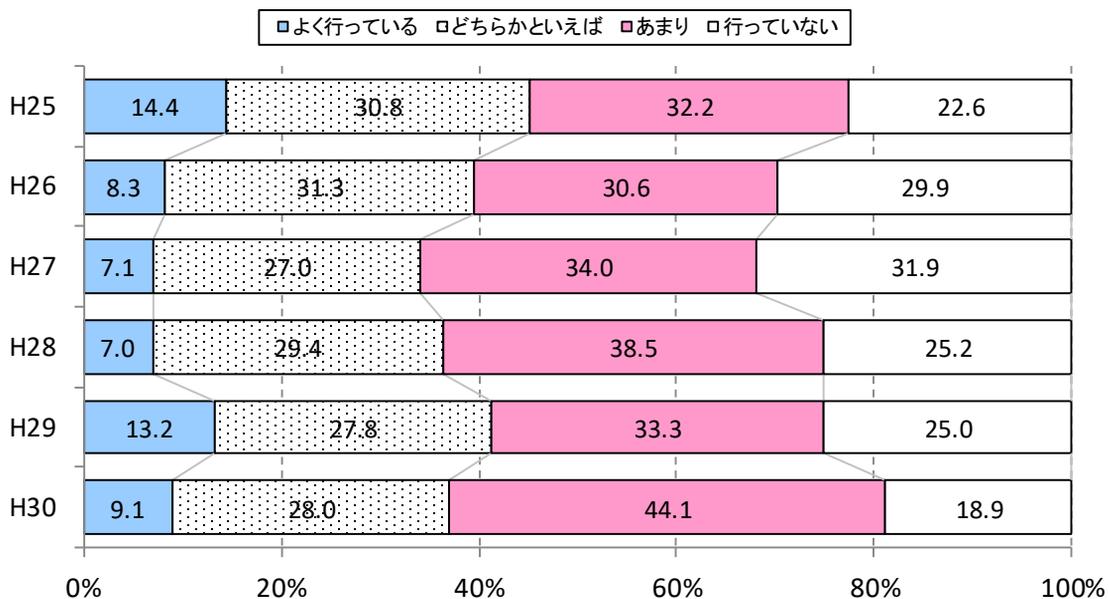


文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○調査対象学年（中学校3年生）の生徒に対し、前年度に長期休業日を利用した補足的な学習サポートを「行った」と回答した中学校の割合は、減少している。（H30は調査していない）

Ⅱ－４ 地域の人材活用状況

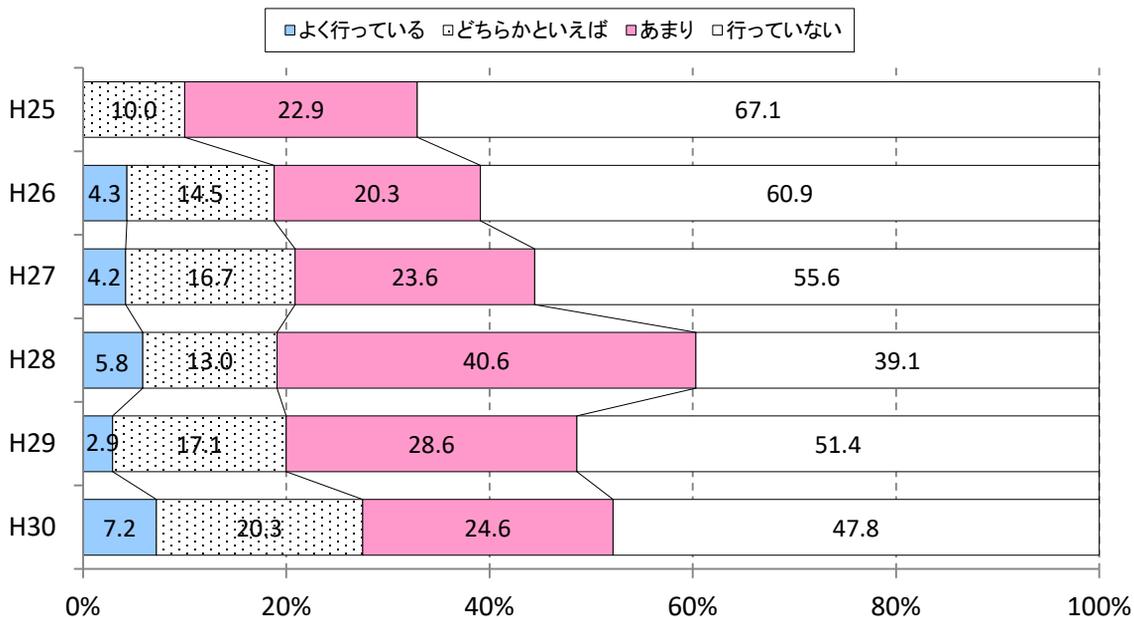
Ⅱ－４－１ ボランティア等による授業サポート補助（小学校）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○調査対象学年（小学校6年生）の児童に対し、前年度までにボランティア等による授業サポート補助を「よく行った」、「どちらかといえば行った」と回答した小学校の割合は、40%前後である。

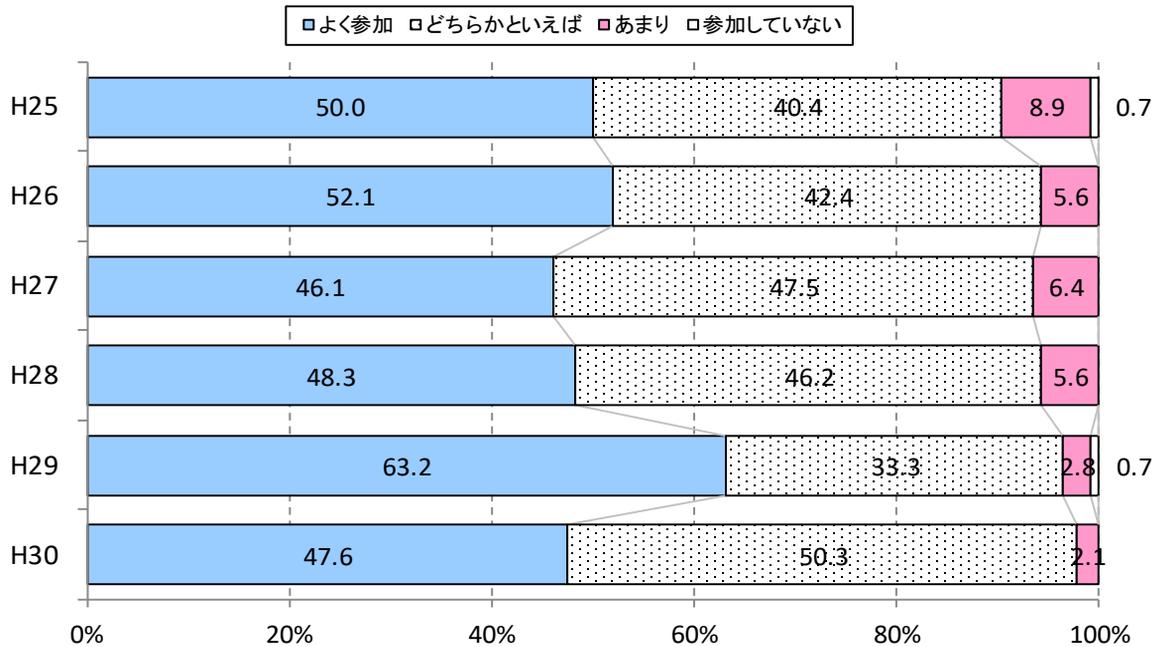
Ⅱ－４－１ ボランティア等による授業サポート補助（中学校）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○調査対象学年（中学校3年生）の生徒に対し、前年度までにボランティア等による授業サポート補助を「よく行った」、「どちらかといえば行った」と回答した中学校の割合は、平成30年度は、25%以上に増加している。

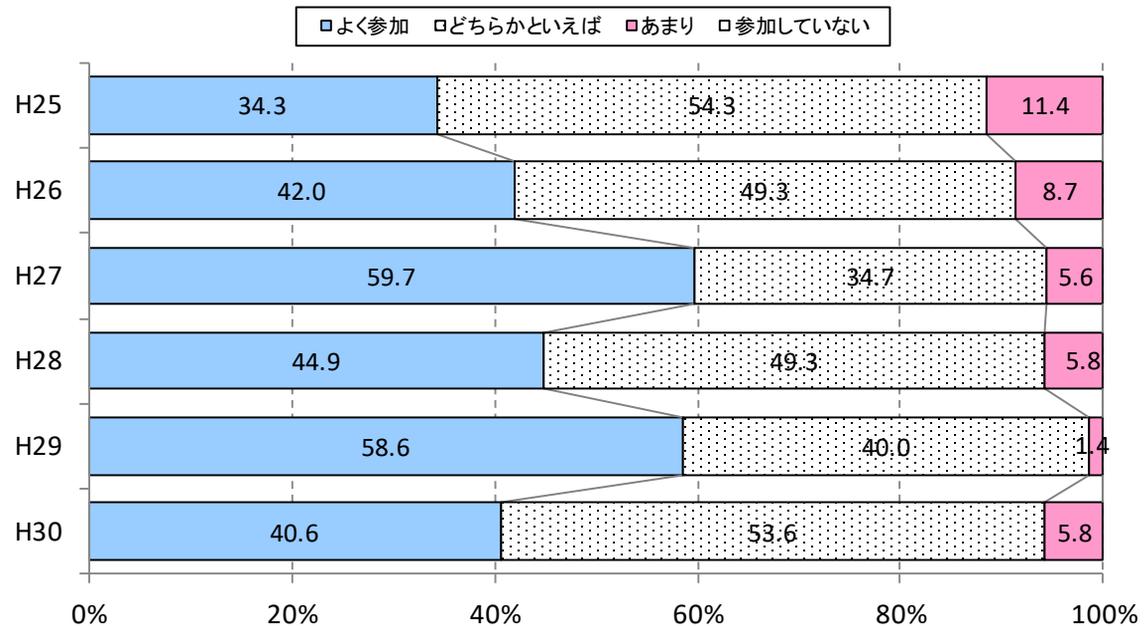
Ⅱ-4-2 PTAや地域の人ボランティア参加状況（小学校）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

OPTAや地域の人参加状況について、「よく参加している」「どちらかといえば」と回答した小学校の割合が増加している。

Ⅱ-4-2 PTAや地域の人ボランティア参加状況（中学校）

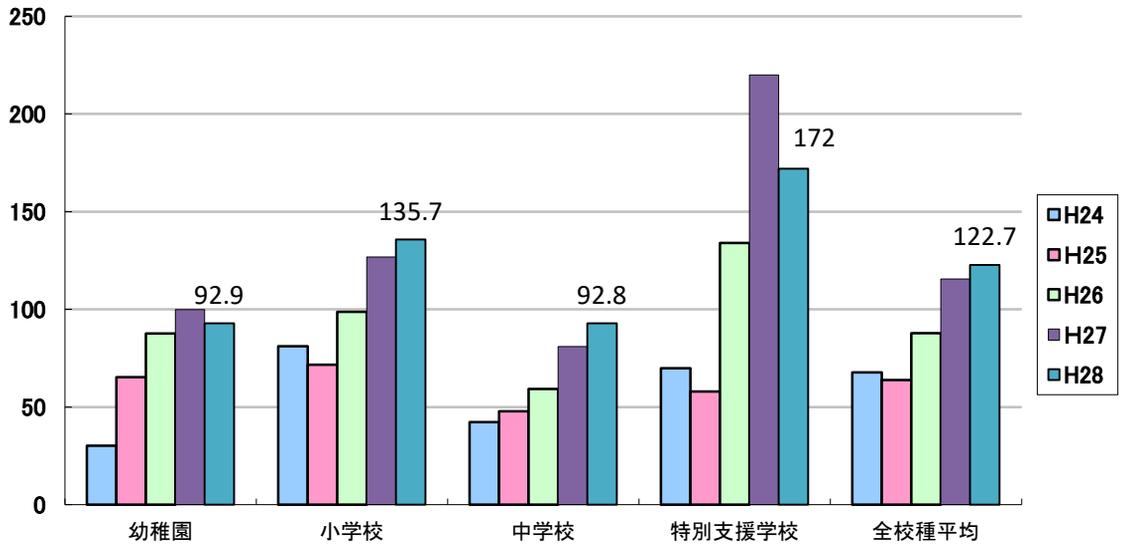


文部科学省「全国学力・学習状況調査」

OPTAや地域の人参加状況について、「よく参加している」「どちらかといえば」と回答した中学校の割合は、平成26年度以降90%以上で推移している。

Ⅱ-5 学校情報の提供

Ⅱ-5-1 ホームページの更新回数（校種別）



福岡市教育委員会調査

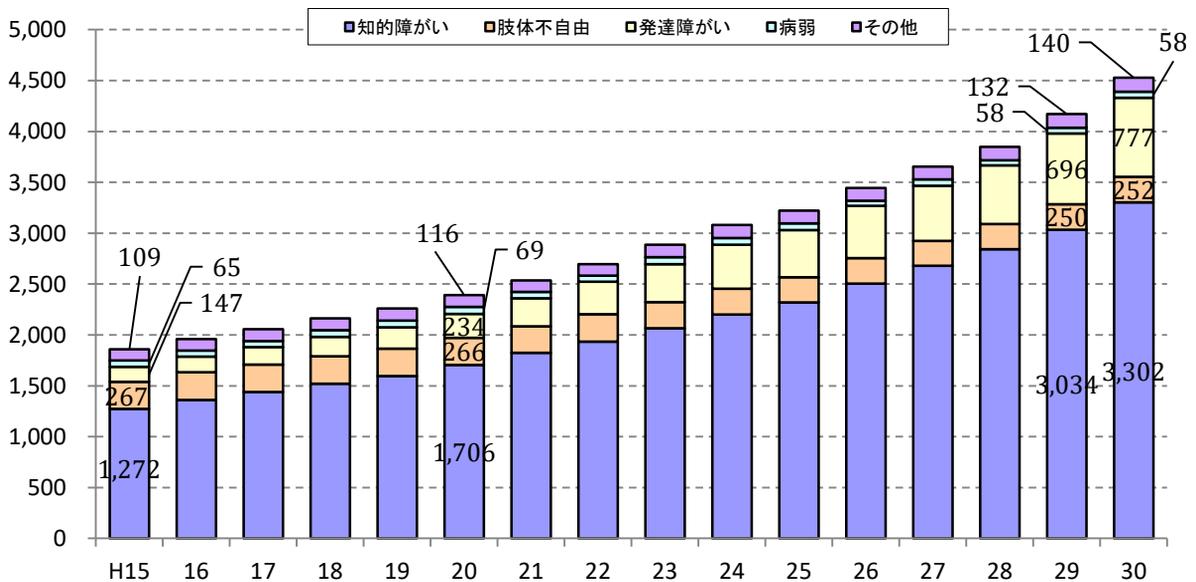
○各校種ともホームページの更新が日常化してきているが、平成29年6月「情報セキュリティ強靱性向上事業」により、学校ホームページの更新回数のカウントが不可能となった。



Ⅱ－６ 特別支援教育

Ⅱ－６－１ 特別支援学校・学級・通級教室に在籍する障がいのある児童生徒数

(人) ※その他・・・弱視，言語障がい，難聴

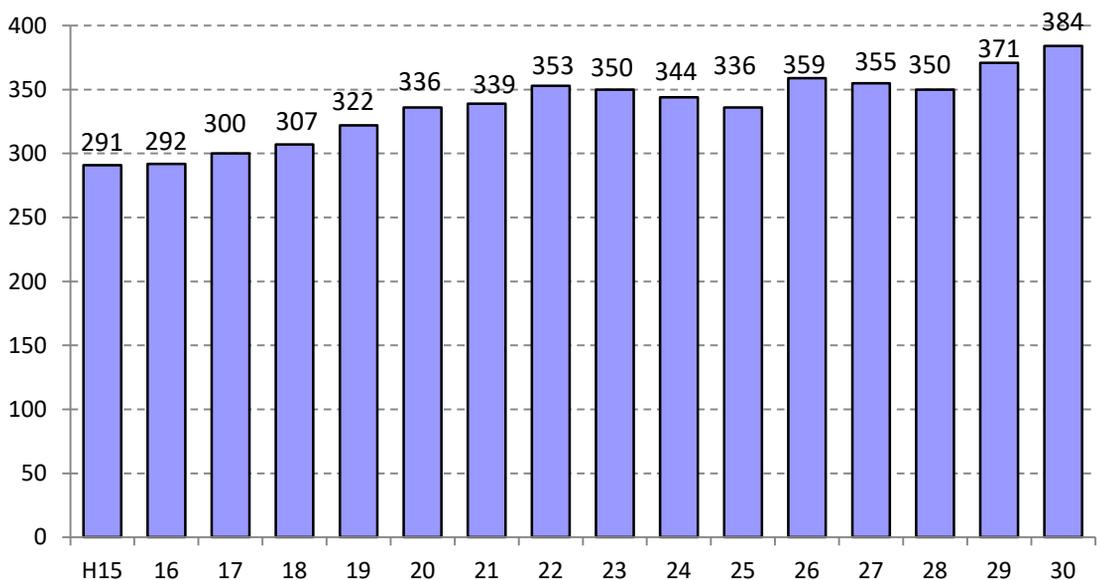


福岡市教育委員会調査

○障がいのある児童生徒数は，増加している。特に知的障がいと発達障がいのある児童生徒数の増加が著しい。

Ⅱ－６－２ 特別支援学校の学級数（小・中・高等部）

(学級数)

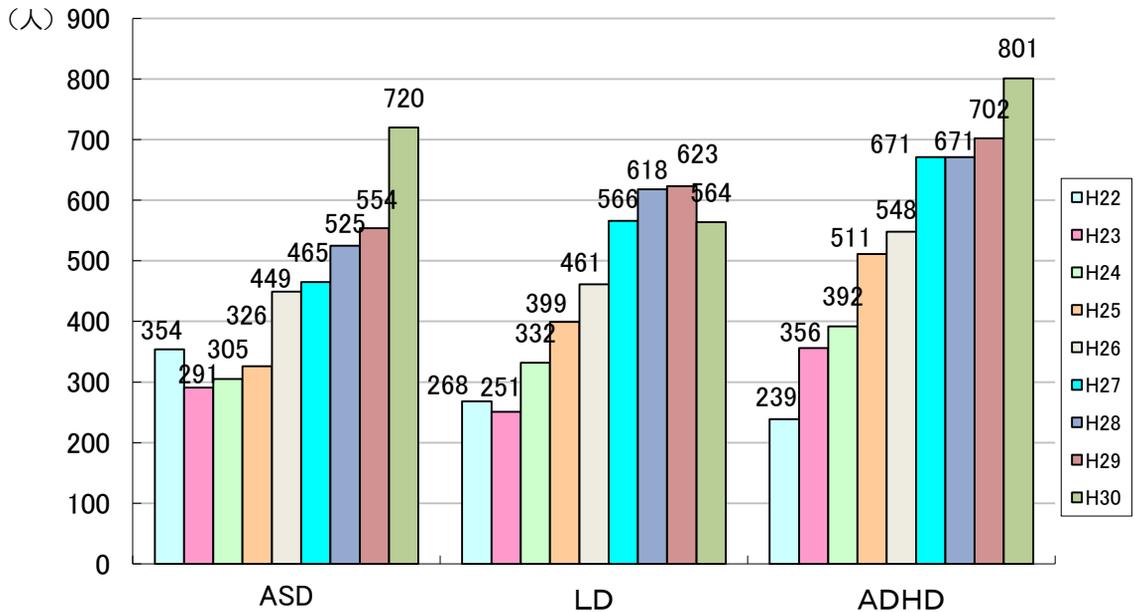


福岡市教育委員会調査

○特別支援学校の学級数は，児童生徒数の増加とともに，学級数も増加してきている。

Ⅱ-6-3 通常の学級における発達障がいの可能性にある児童数（小学校）

※ASD・・・自閉症スペクトラム，LD・・・学習障がい，ADHD・・・注意欠陥多動性障がい

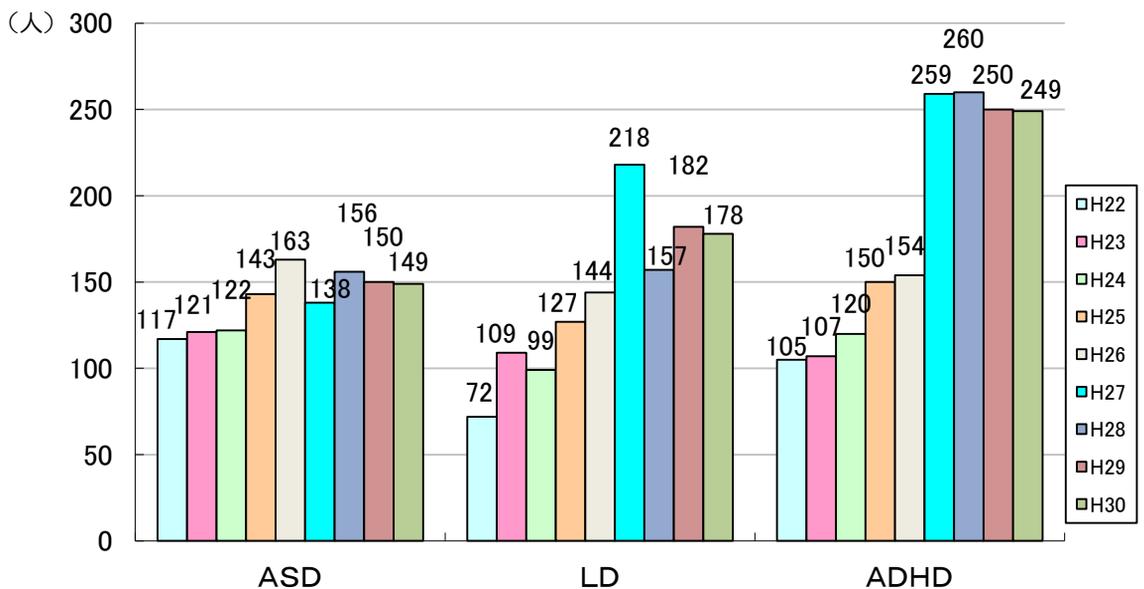


福岡市教育委員会調査

○通常の学級における発達障がいの可能性のある児童はASDとADHDは著しく増加している。

Ⅱ-6-3 通常の学級における発達障がいの可能性のある生徒数（中学校）

※ASD・・・自閉症スペクトラム，LD・・・学習障がい，ADHD・・・注意欠陥多動性障がい

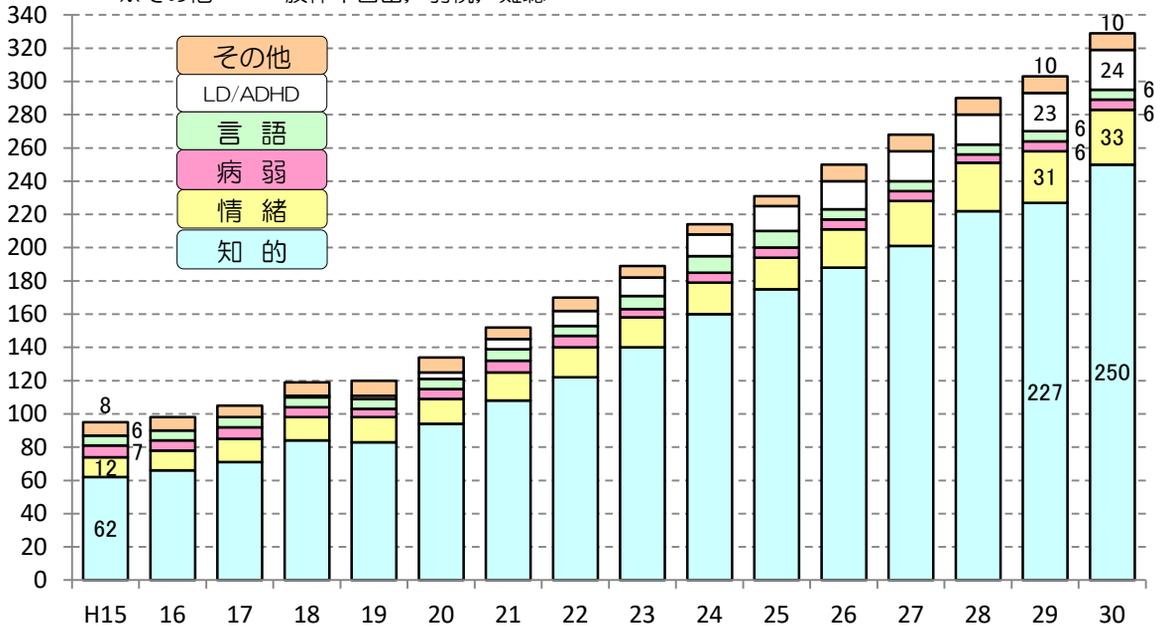


福岡市教育委員会調査

○通常の学級における発達障がい可能性のある生徒は、障がい種により増減はあるが、平成29年度よりほぼ横ばいの状態である。

Ⅱ－6－4 特別支援学級の設置状況（小学校）

（学級数） ※学級数には、通級指導教室を含みます。
 ※その他・・・肢体不自由、弱視、難聴

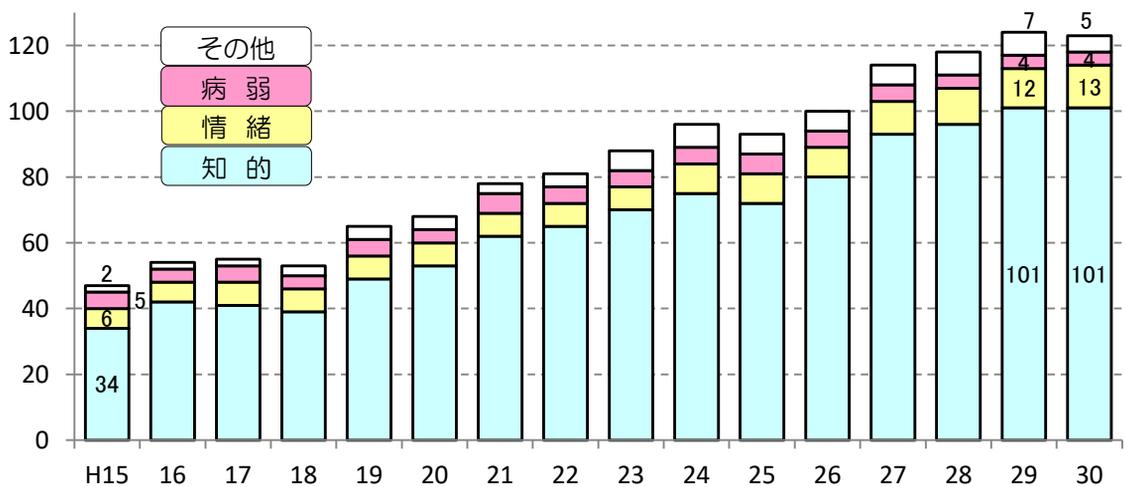


福岡市教育委員会調査

○小学校においては、知的障がい特別支援学級が増加傾向にあり、自閉症・情緒障がい特別支援学級数も増加してきている。

Ⅱ－6－4 特別支援学級の設置状況（中学校）

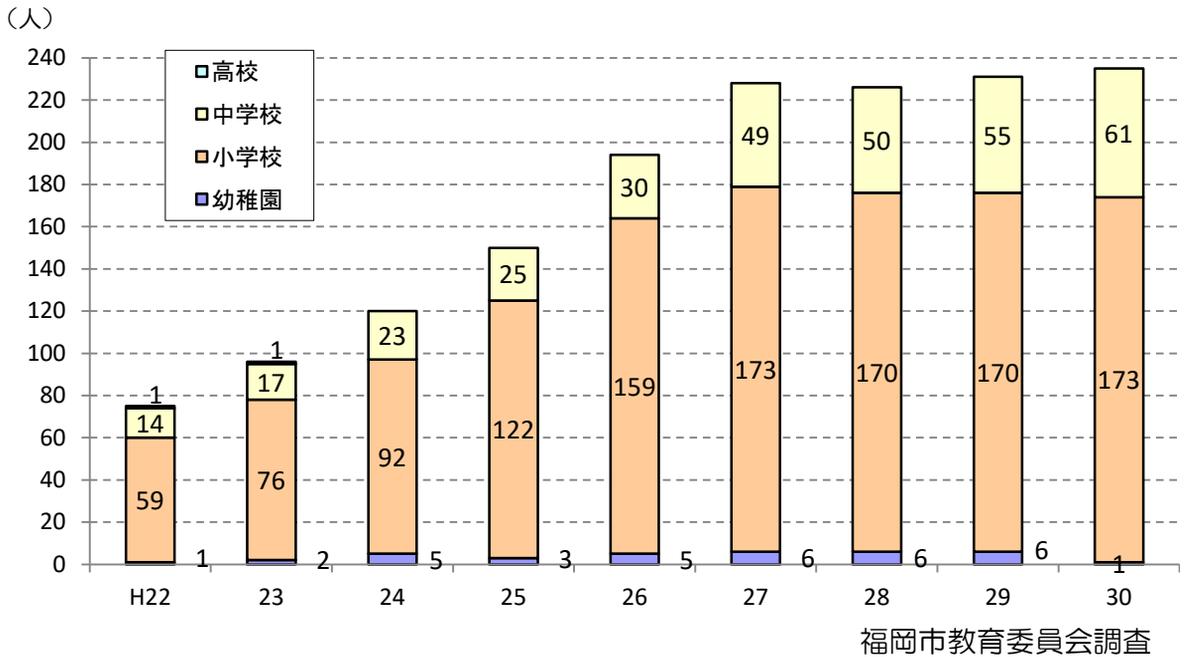
（学級数） ※学級数には、通級指導教室を含みます。
 ※その他・・・肢体不自由、LD/ADHD



福岡市教育委員会調査

○中学校においては、若干の増減はあるが、どの学級もほぼ横ばい状態である。

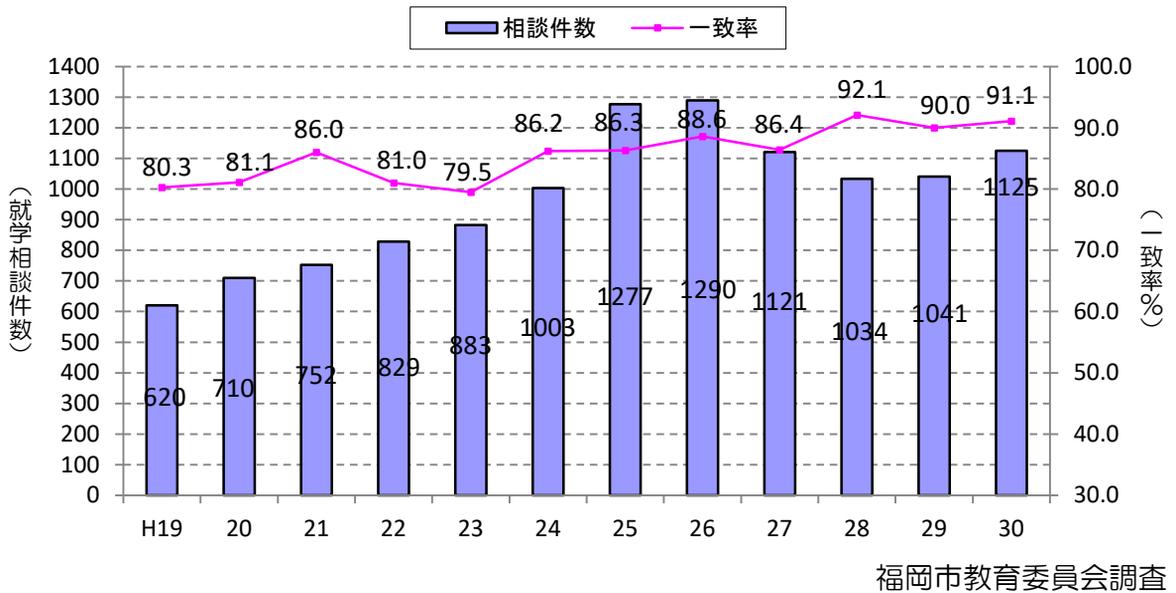
Ⅱ－6－5 特別支援教育支援員の配置状況



○特別支援教育支援員の配置数は、平成22年度から約3.1倍に増えている。

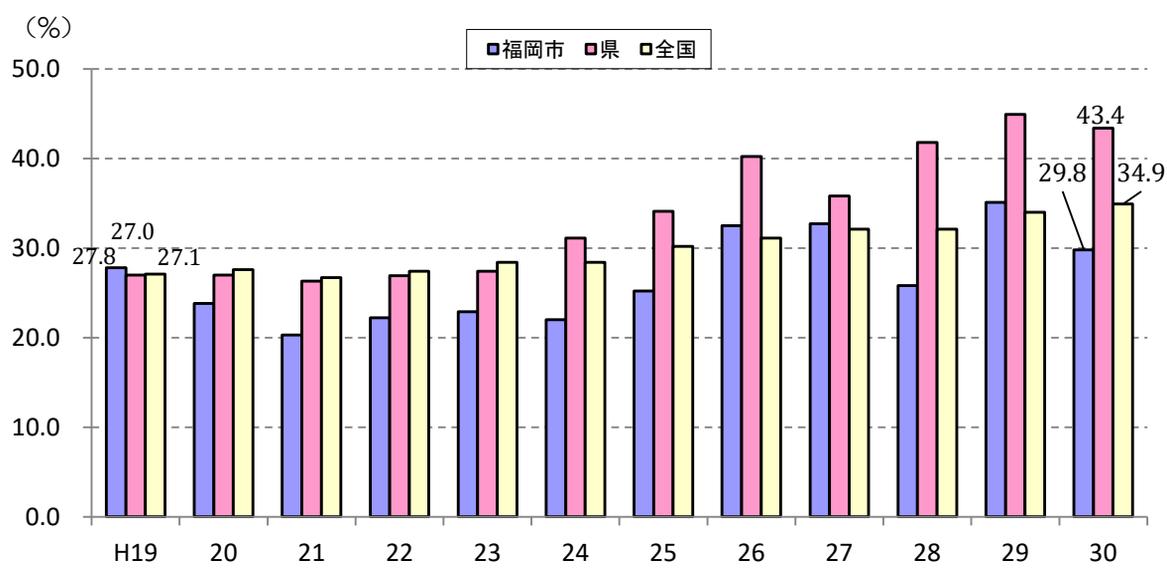
Ⅱ－6－6 就学相談数と一致率

※一致率・・・就学支援委員会の判断通りに児童生徒の就学先が決定した割合



○就学相談件数は、増加してきている。教育委員会の総合的判断と保護者の意向が一致した割合は平成24年度から90%前後で推移している。

Ⅱ－6－7 特別支援学校高等部就労率



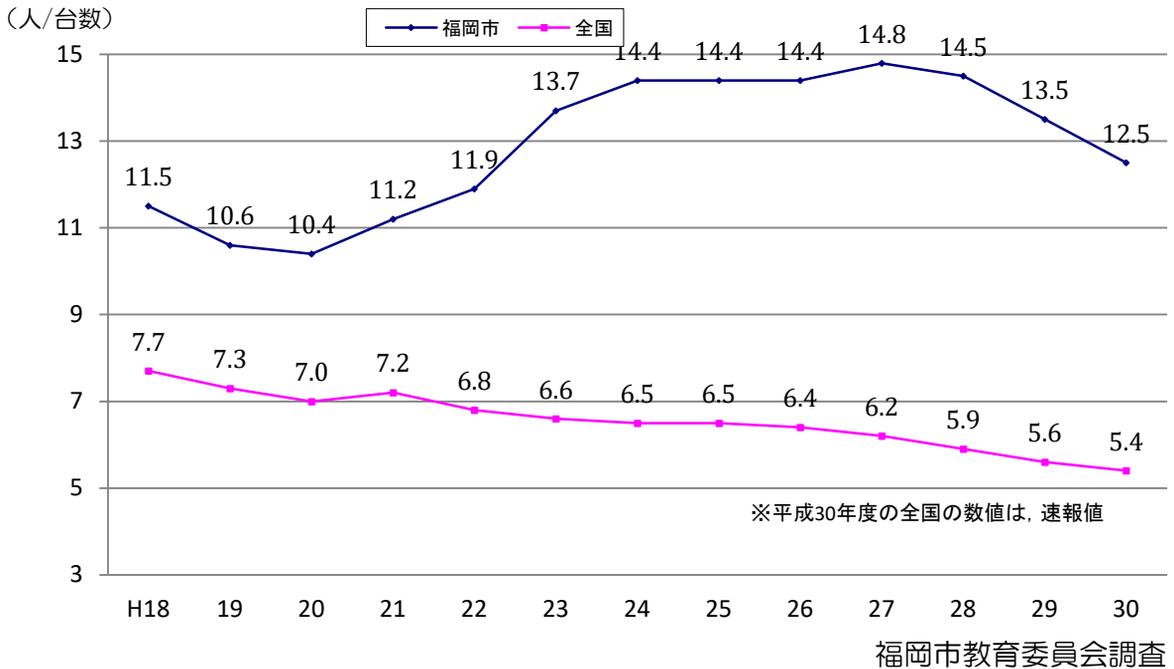
福岡市教育委員会調査

○平成30年度の特別支援学校高等部（知的）の就労率は、減少している。就労人数は2名の減だが、卒業生の数が多かったため、就労率はかなり下がっている。



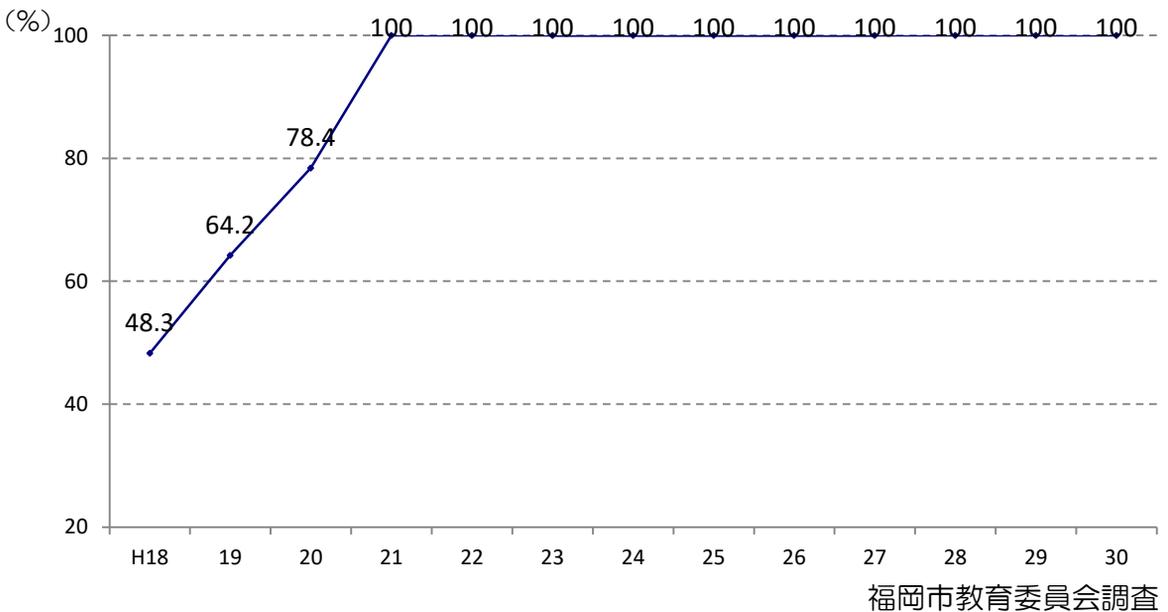
Ⅱ-7 ICT環境

Ⅱ-7-1 コンピュータ1台あたりの児童生徒数



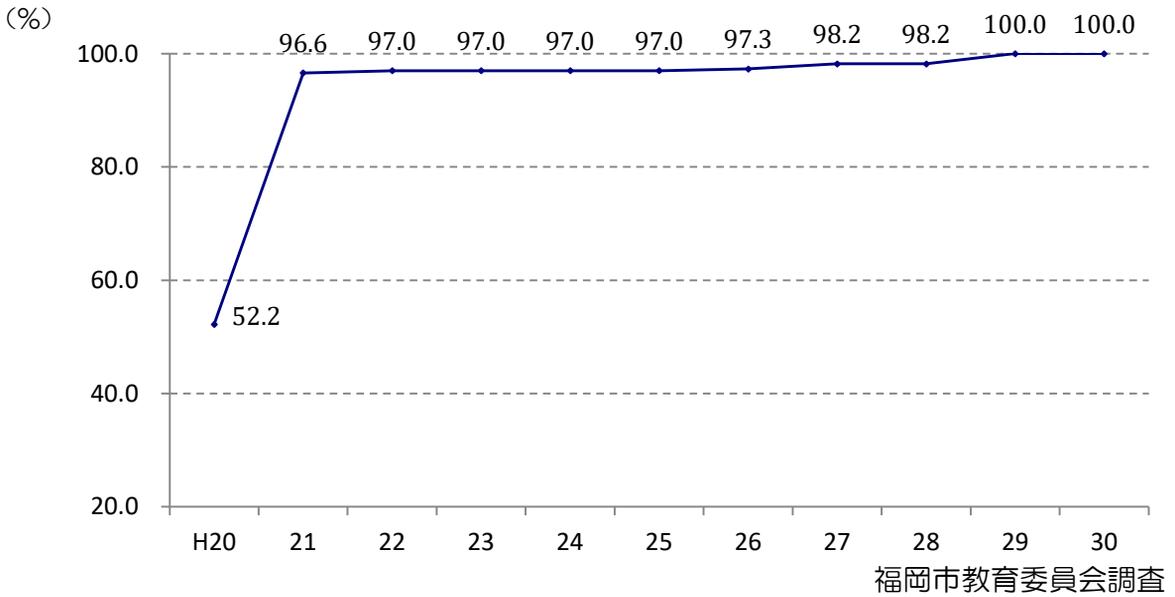
○コンピュータ1台あたりの児童生徒数は、全国平均に比べてかなり多い。

Ⅱ-7-2 普通教室における校内LAN整備率



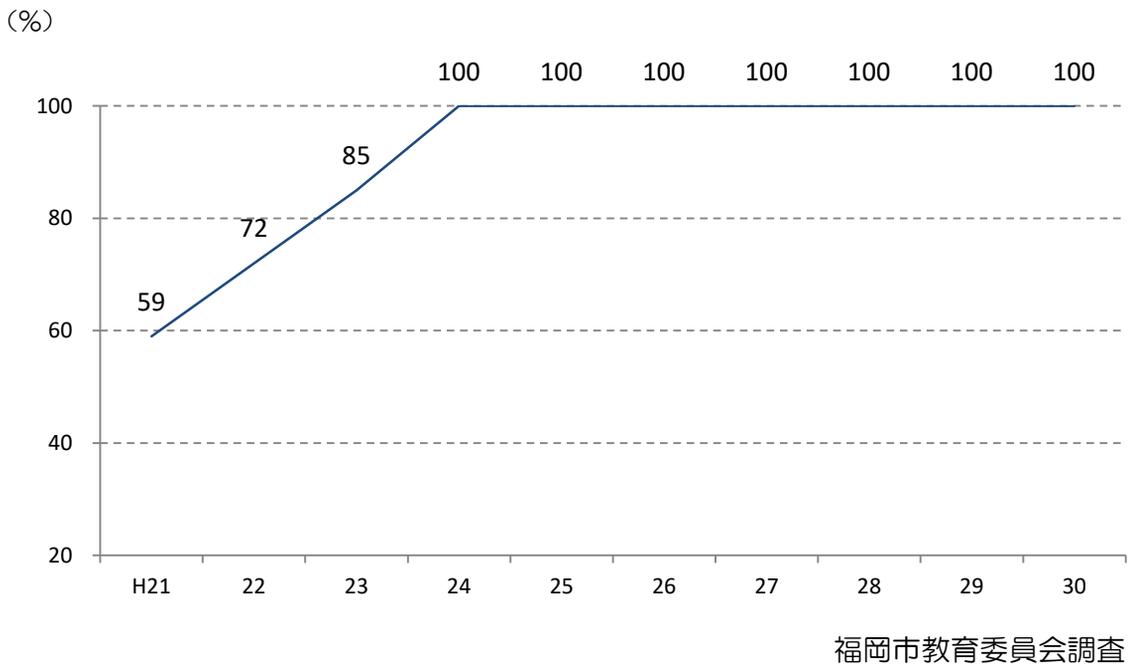
○普通教室における校内LAN整備率について100%を達成して以降は、特別教室等一部未整備の教室整備に順次移行している。

Ⅱ-7-3 超高速インターネット接続率



○超高速インターネット接続(30Mbps以上)は、平成29年度に100%整備を達成している。

Ⅱ-7-4 校務用コンピュータ整備率

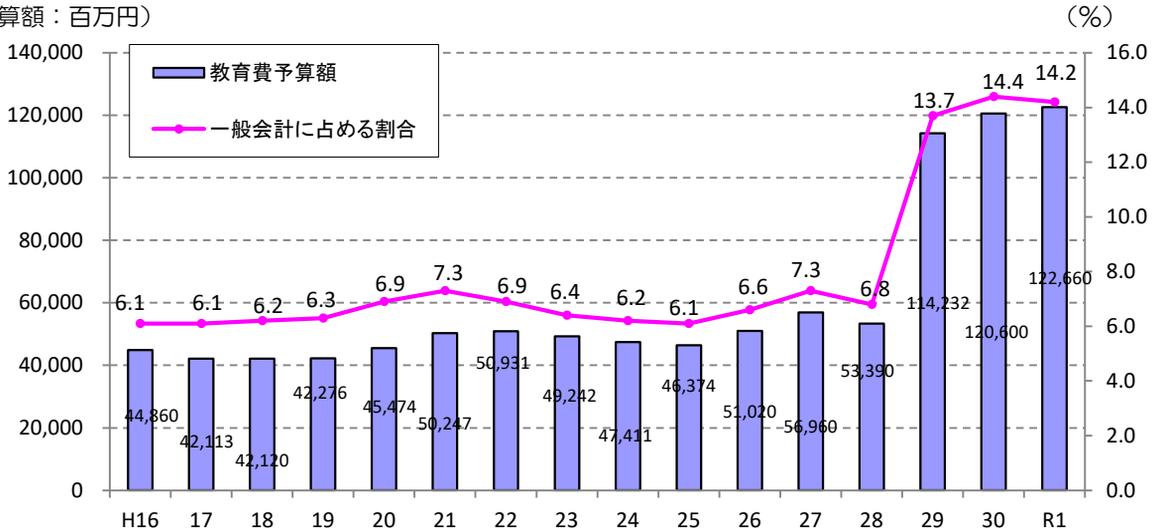


○校務用コンピュータの整備率は、平成24年度100%を達成して以降も、教職員定数の増加に伴う追加整備を行っている。

Ⅱ－８ その他の状況

Ⅱ－８－１ 福岡市の教育費予算の推移

(予算額：百万円)



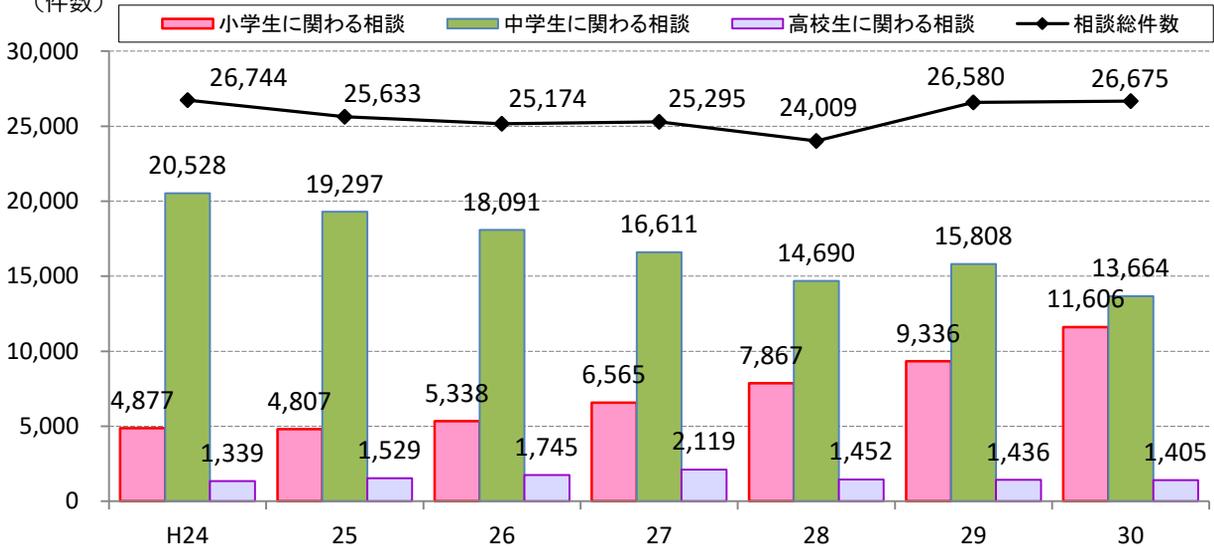
※平成24年度から美術館，博物館，アジア美術館，文化財部は，経済観光文化局へ移管

※平成29年度から県費負担教職員に係る権限移譲に伴う人件費分が増加 福岡市教育委員会調査

○教育費予算は約1,227億円と平成30年度と比較し増額となるが，これは，学校の大規模改造や校舎増築などの普通建設費などが増加したことによるものである。

Ⅱ－８－２ スクールカウンセラー（SC）への相談等の状況

(件数)

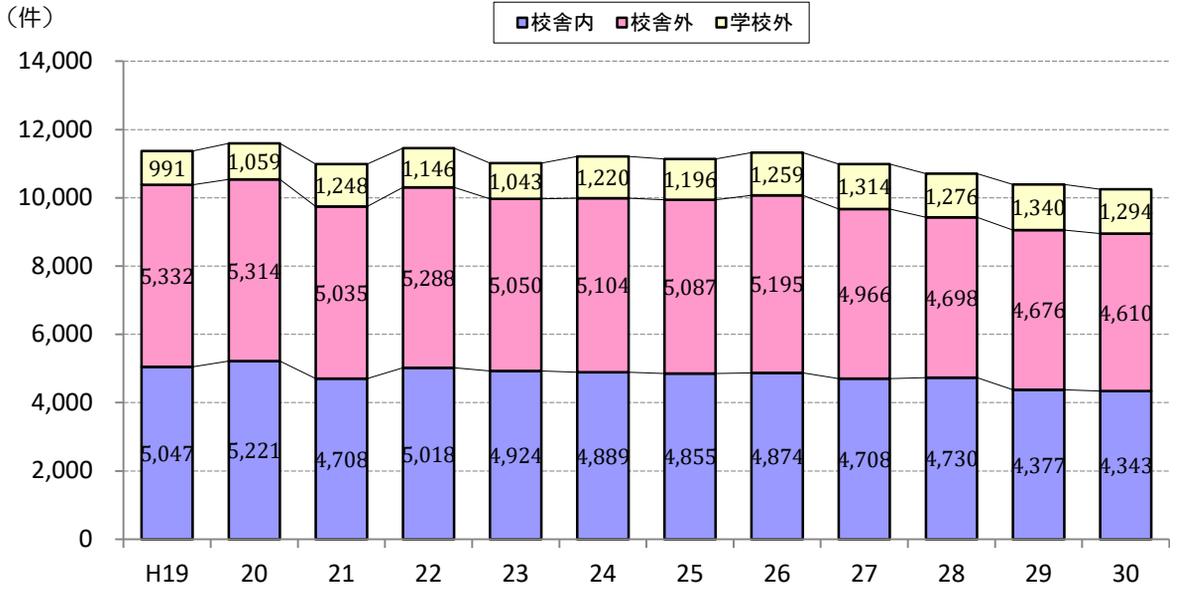


福岡市教育委員会調査

○相談総件数は26,000件前後で推移。平成25年度以降，小学生に関わる相談が増加傾向にある。

Ⅱ-8-3 学校災害の状況（市立幼稚園・小学校・中学校・高等学校）

※学校災害・・・学校の管理下の事由による児童生徒の負傷、疾病等（災害共済給付件数）



福岡市教育委員会調査

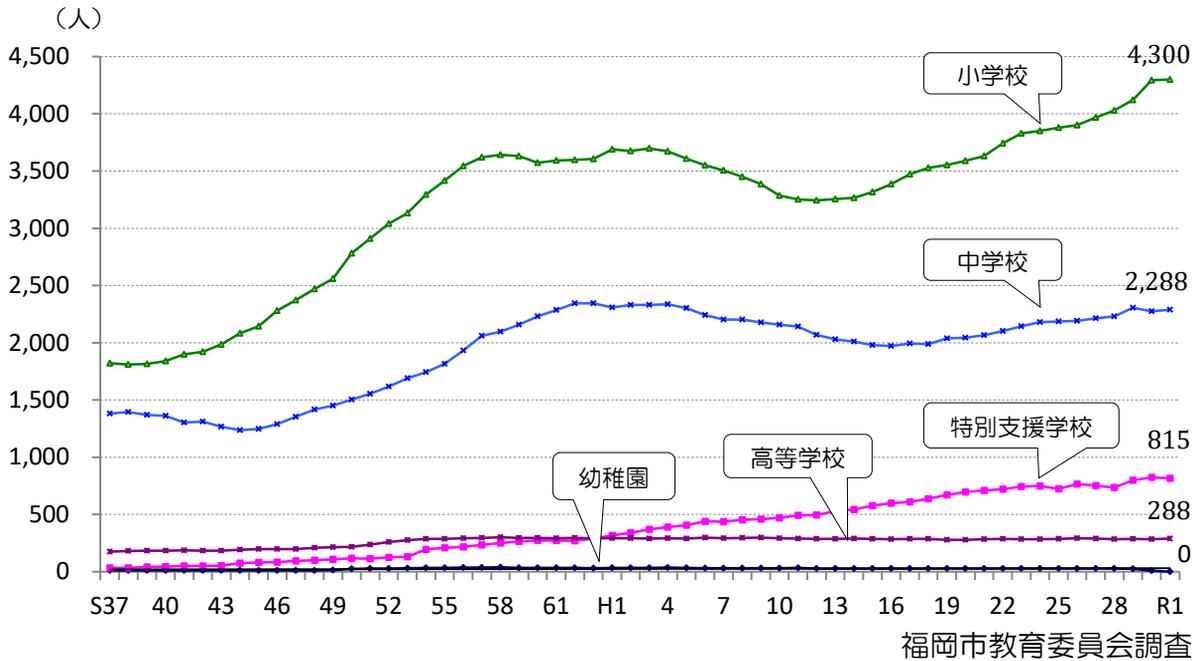
○学校災害は年間1万件ほどで推移しており、平成30年度は、前年度より減少している。



III 教職員

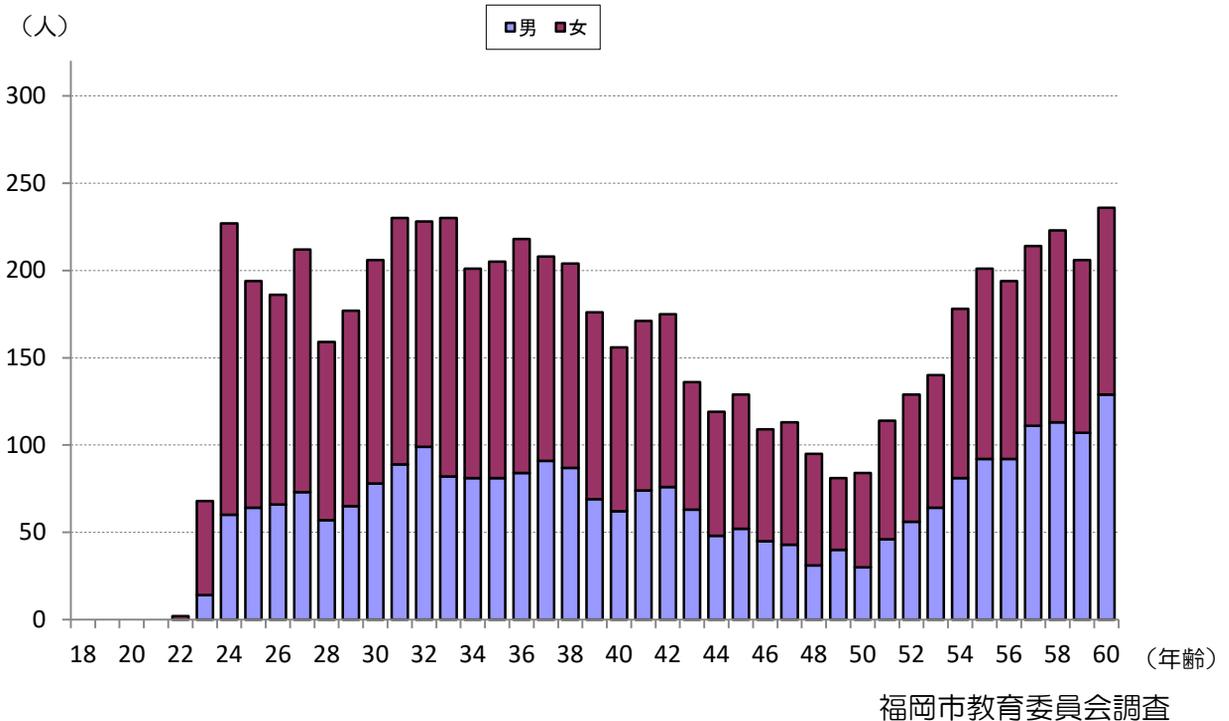
Ⅲ－１ 教員

Ⅲ－１－１ 福岡市立学校教員数の推移



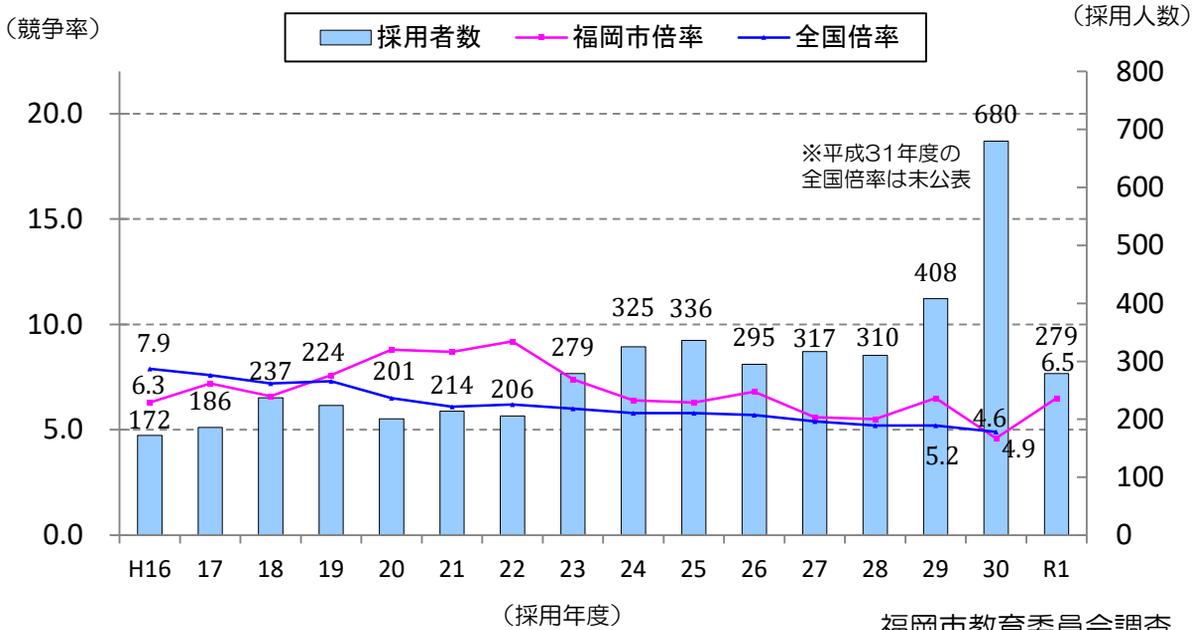
○福岡市立学校教員数は、小学校は平成14年度から、中学校は平成17年度から増加傾向にある。

Ⅲ－１－２ 正規教員の年齢構成 (令和元年5月現在)



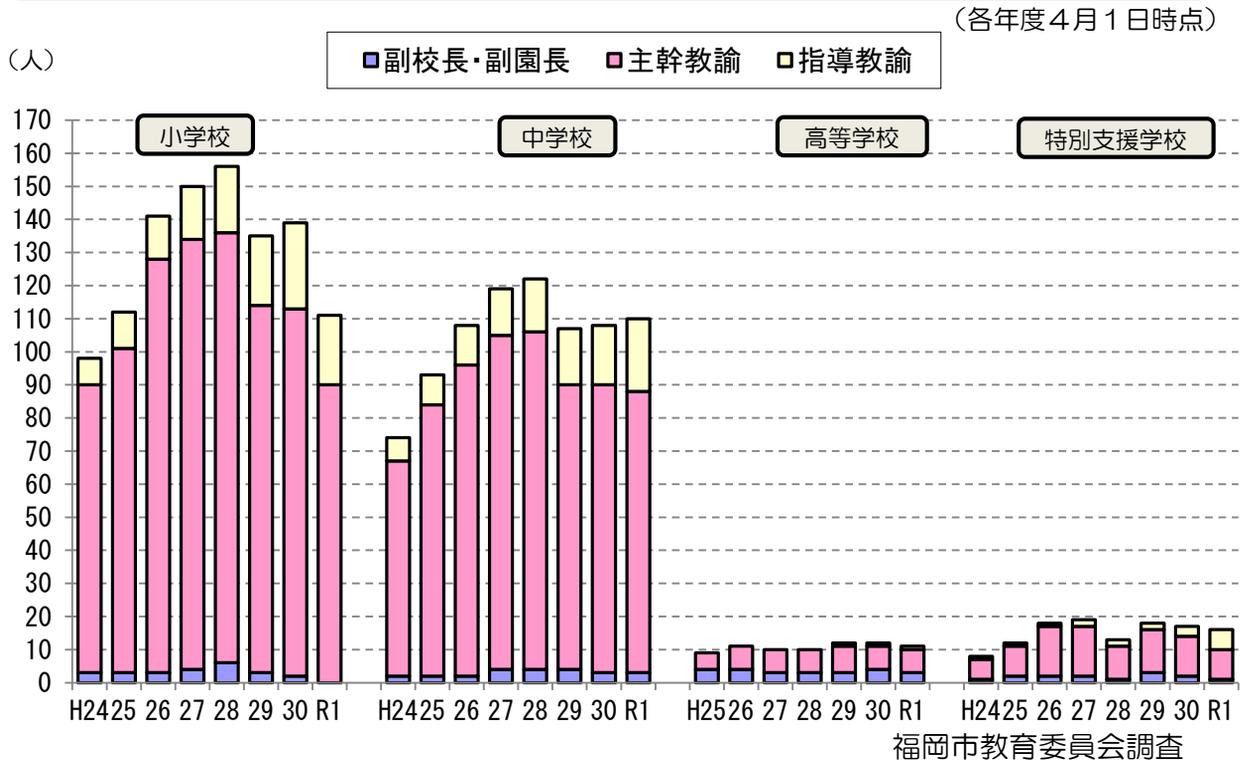
○校長及び正規教員の年齢構成としては、40代半ばから50代前半で谷を描いている。

Ⅲ－１－３ 新規採用教員数と競争率



○新規採用教員数は、平成24年度以降は300名程度の規模で推移している中で、平成30年度は680名と大幅に増加したが、令和元年度は279名に減少した。採用者数が大幅に減少したこともあり、令和元年度の福岡市の競争率は、前年度と比べて1.9ポイント増加した。

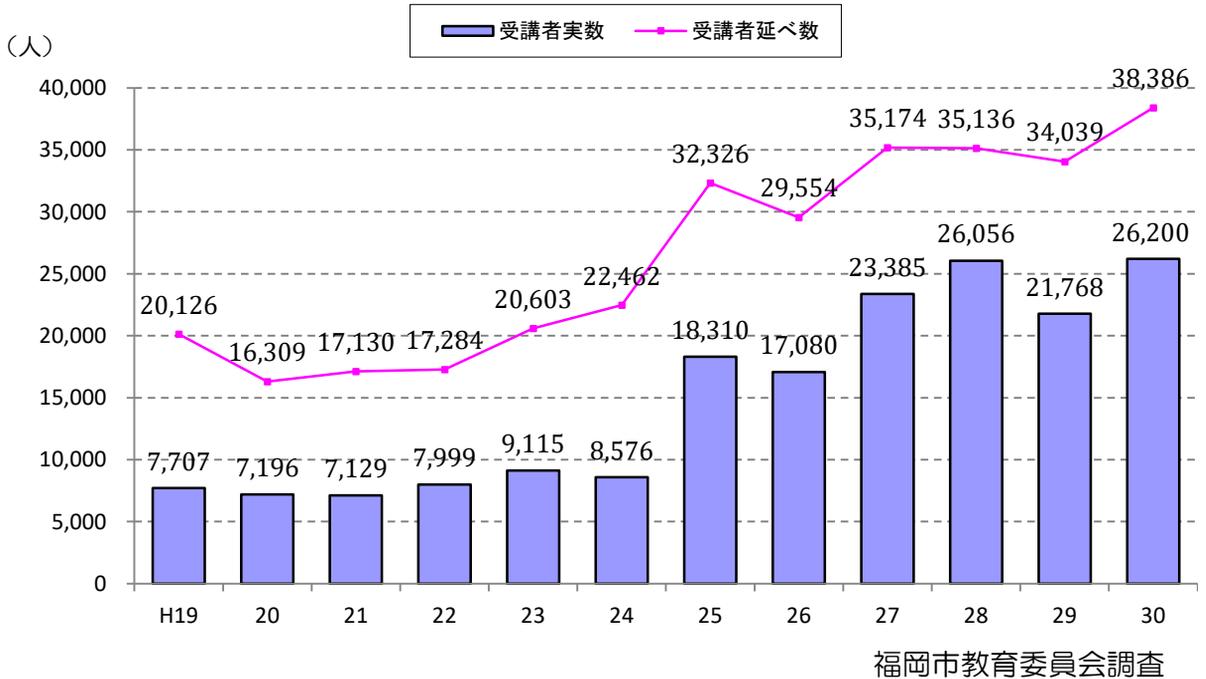
Ⅲ－１－４ 副校長・主幹教諭・指導教諭の配置人数



○小学校、中学校においては、平成28年度までは年々増加していたが、配置人数の適正化により、平成29年度以降は減少または横ばいで推移している。

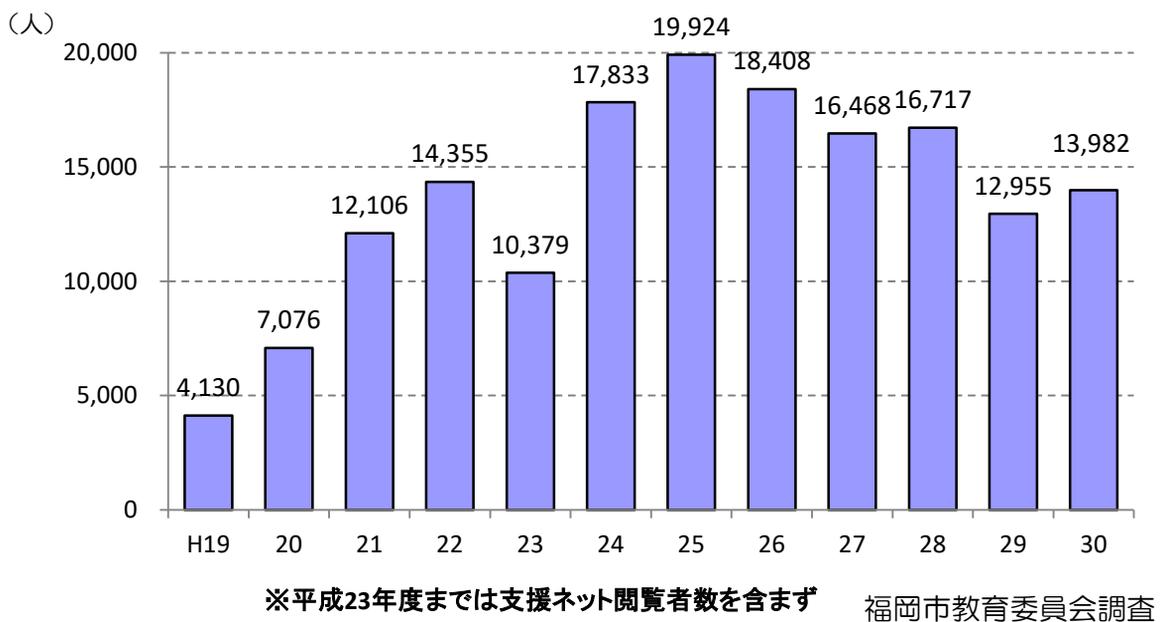
Ⅲ－２ 教職員の研修状況

Ⅲ－２－１ 教育センター研修講座受講者数の推移



○新規採用者の増加に伴い、研修講座の受講者数が増加している。

Ⅲ－２－２ 授業力向上支援センター利用者数の推移

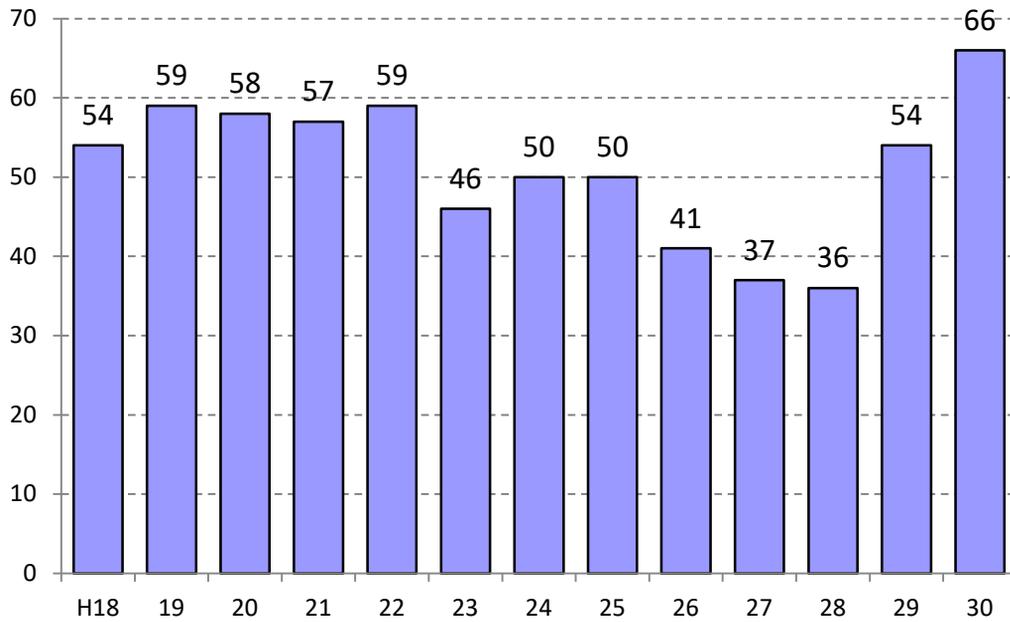


○平成29年度に行った閉室時間短縮の周知も図られ、平成30年度には、利用者が増加している。

Ⅲ－３ 教員の休職状況

Ⅲ－３－１ 精神性疾患を原因とする病気休職者（教員）の推移

休職者数（人）

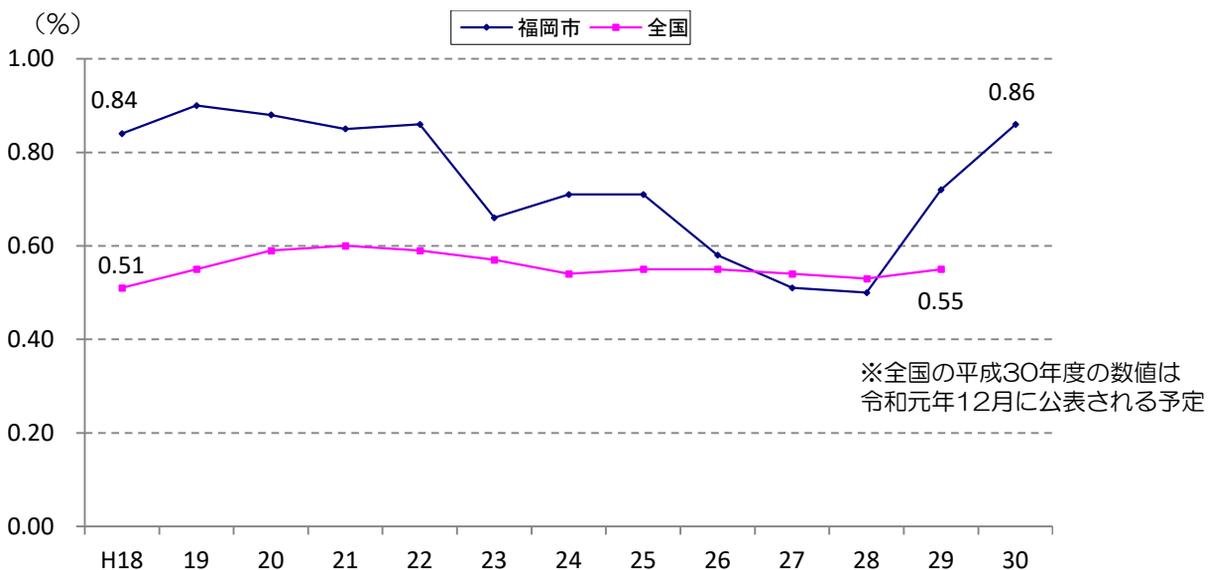


※対象者：小・中・高・特別支援学校における校長，副校長，教頭，
主幹教諭，指導教諭，教諭，養護教諭，栄養教諭，常勤講師

福岡市教育委員会調査

○平成26年度以降は減少していたが，平成29年度より休職者が増加している。

Ⅲ－３－２ 精神性疾患を原因とする病気休職者（教員）の割合



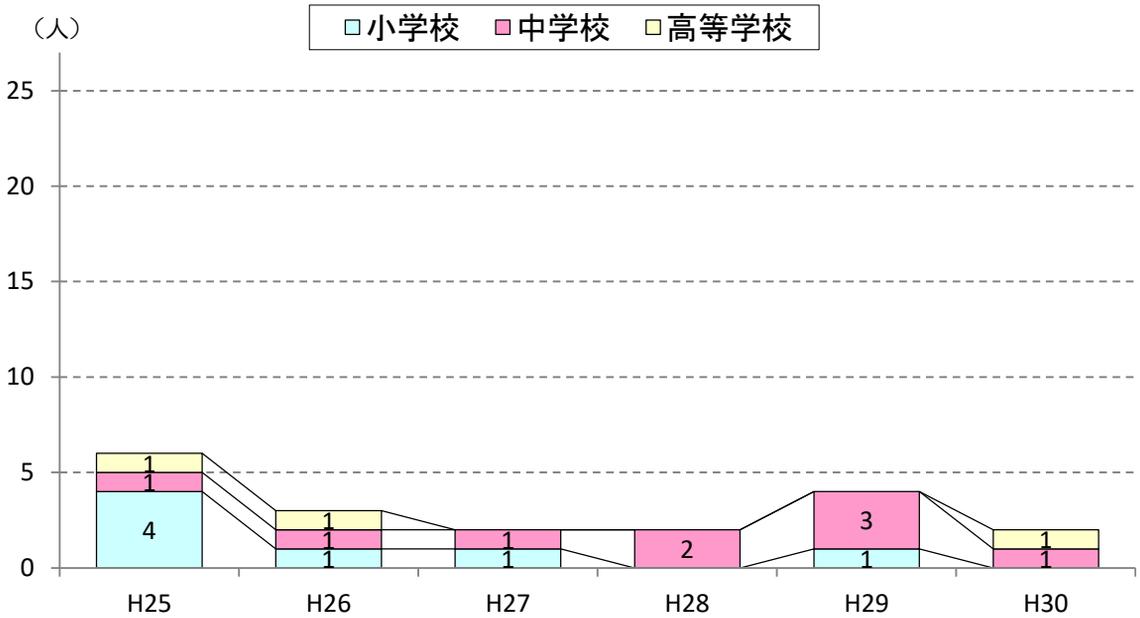
※全国の平成30年度の数値は
令和元年12月に公表される予定

福岡市教育委員会調査

○全国平均はほぼ横ばいである。福岡市は減少傾向にあったが，平成29年度より増加している。

Ⅲ-4 体罰・処分

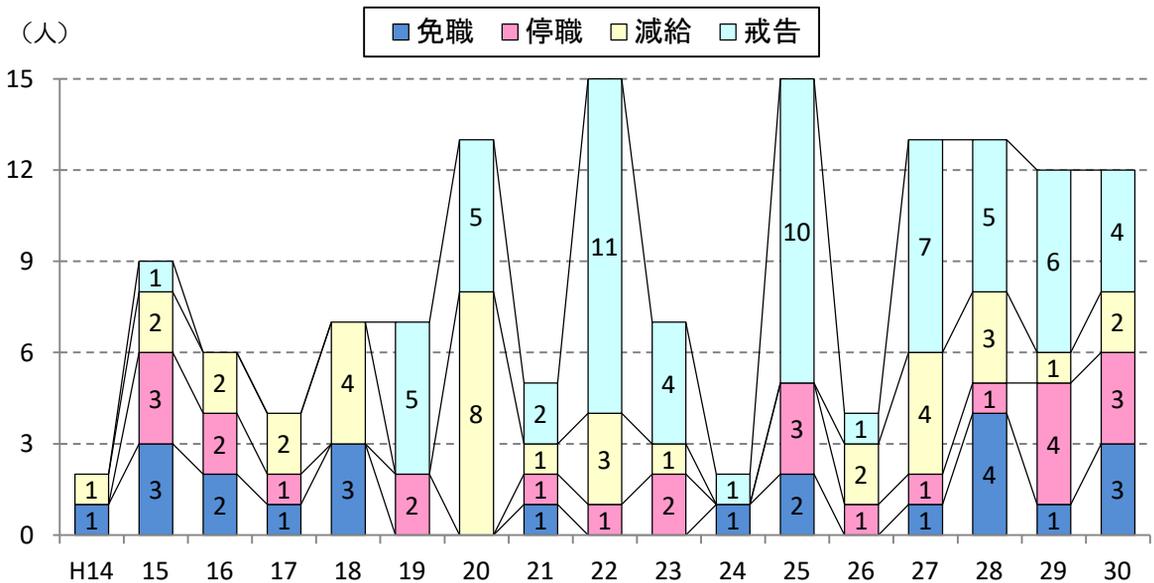
Ⅲ-4-1 体罰による懲戒処分者数



福岡市教育委員会調査

○体罰による懲戒処分者数は、近年減少傾向にあり、平成29年度は増加したものの、平成30年度は減少した。

Ⅲ-4-2 懲戒処分者数（教職員）の状況



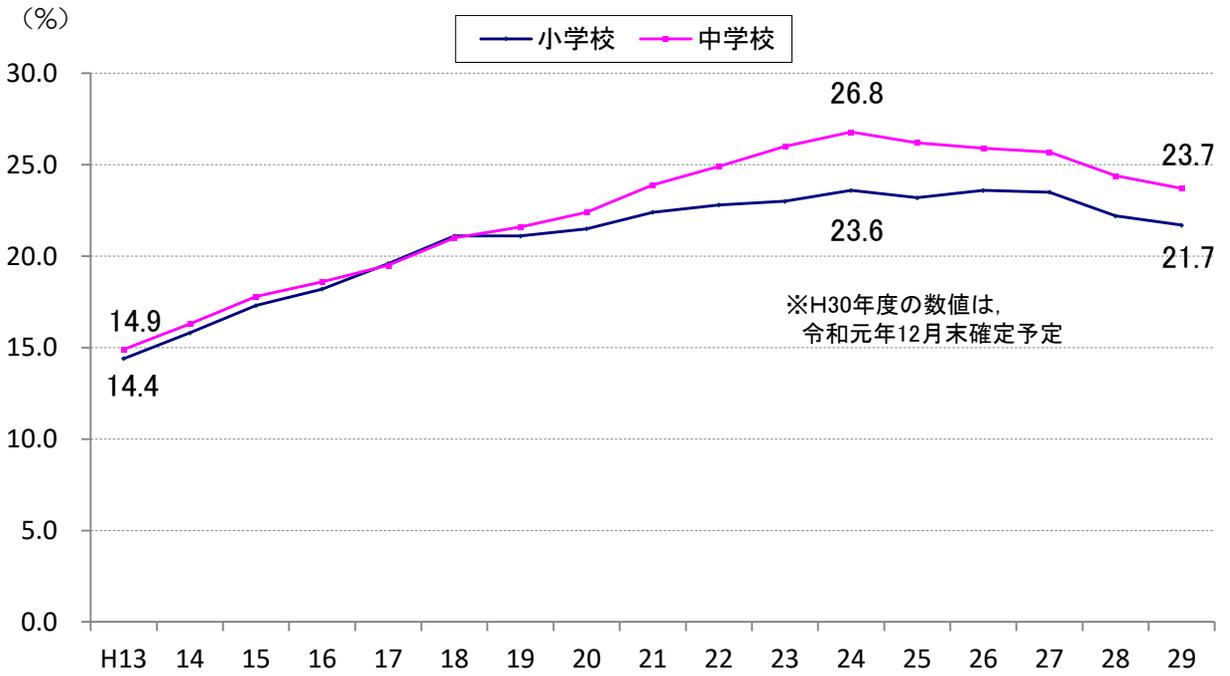
福岡市教育委員会調査

○平成27年度から4年連続で懲戒処分者数は10名を超えている。

IV 家庭・地域等

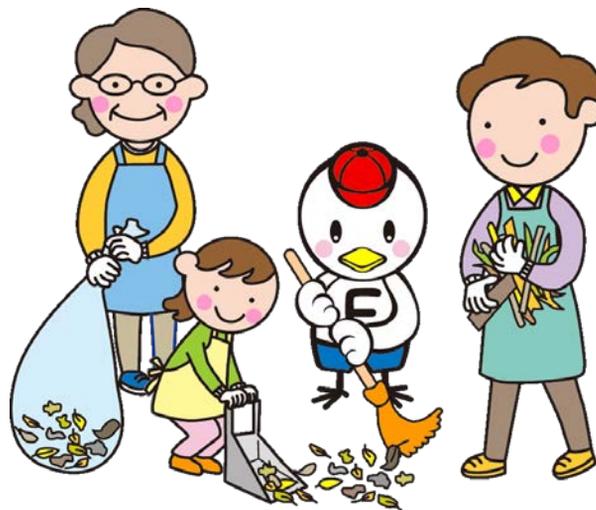
Ⅳ－１ 家庭状況

Ⅳ－１－１ 就学援助対象児童生徒数の割合



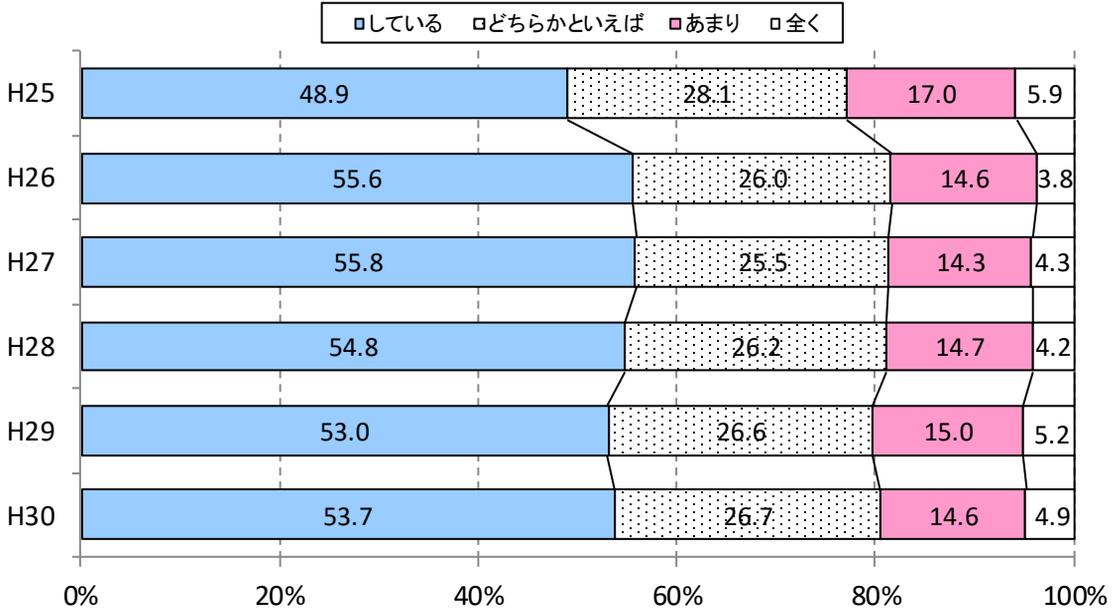
福岡市教育委員会調査

○就学援助対象児童生徒数は、平成24年度までは増加傾向が続き、平成24年度から平成27年度にかけては、ほぼ横ばいであったが、平成28年度からは若干減少傾向である。



Ⅳ-2 子どもののかかわり

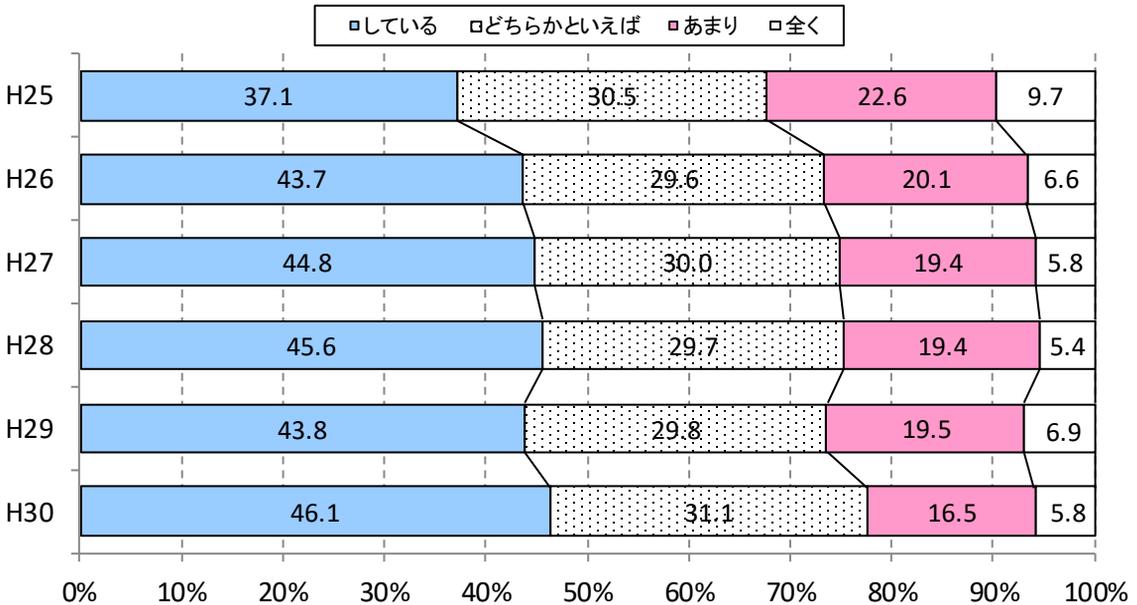
Ⅳ-2-1 学校の出来事についての会話（小学校6年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○学校の出来事について家庭で会話を「している」と回答した児童の割合は、平成26年度から、55%前後で推移している。

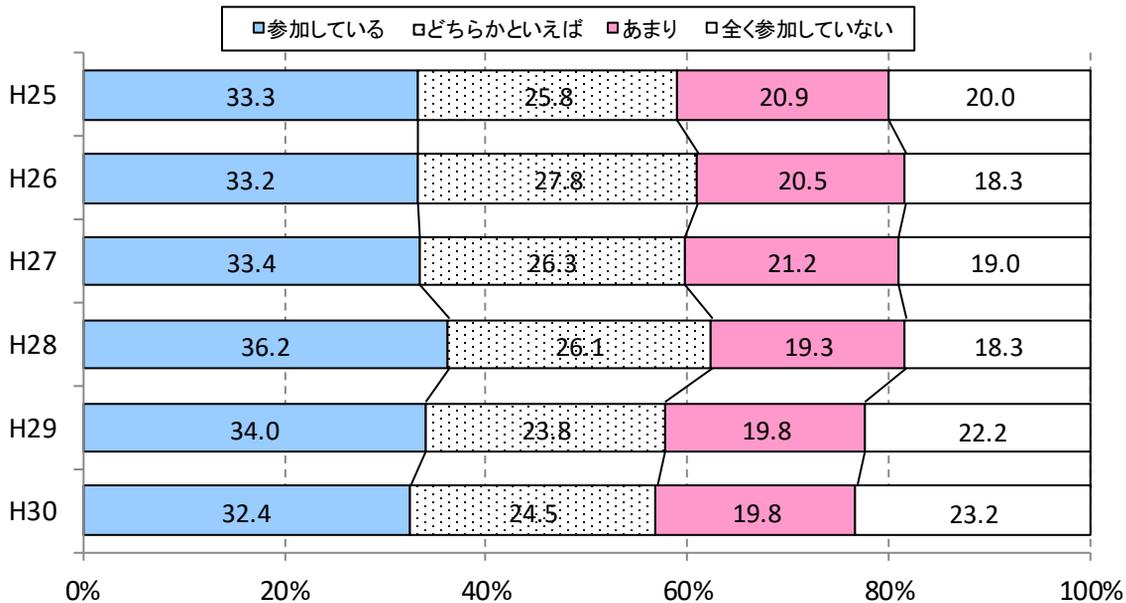
Ⅳ-2-1 学校の出来事についての会話（中学校3年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○学校の出来事について家庭で会話を「している」と回答した生徒の割合は、平成26年度から、45%前後で推移している。

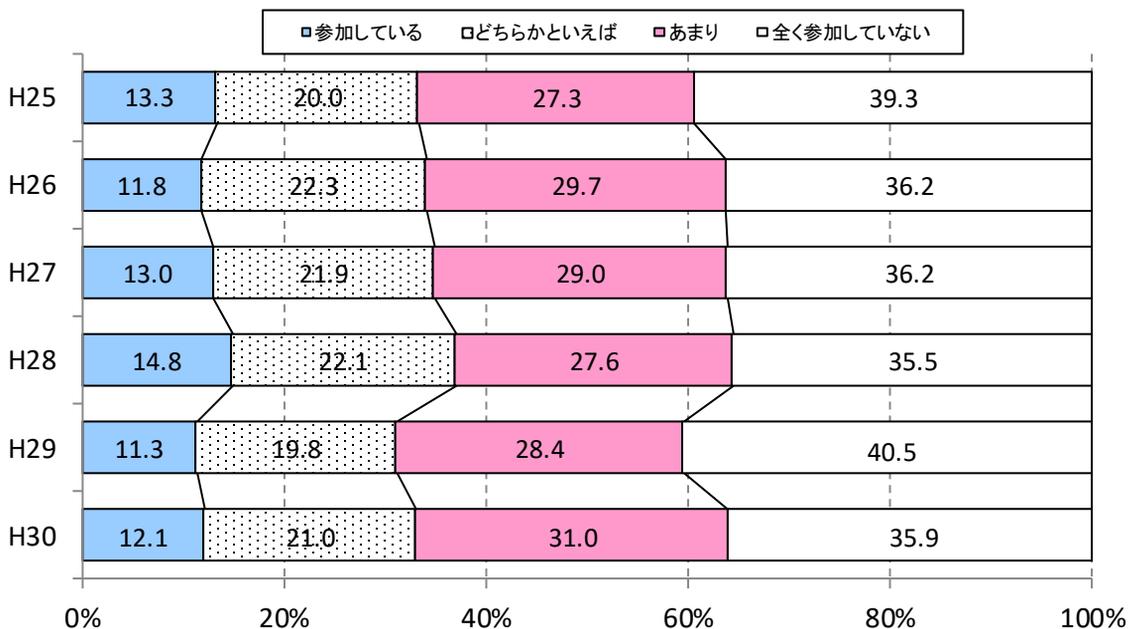
Ⅳ-2-2 地域行事への参加（小学校6年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○地域行事に「参加している」，「どちらかといえば参加している」と回答した児童の割合は，60%前後で推移している。

Ⅳ-2-2 地域行事への参加（中学校3年）



文部科学省「全国学力・学習状況調査」

○地域行事に「参加している」，「どちらかといえば参加している」と回答した生徒の割合は，35%前後で推移している。

福岡市教育データブック（令和元年度版）

令和元年9月

編集・発行 福岡市教育委員会総務部教育政策課
福岡市中央区天神1丁目8番1号
電話 092-711-4412

